

令和5年度精神保健対策費補助金

摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

国立精神・神経医療研究センター

令和6年3月

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和5年度のあゆみ



Oct.2023 福井県摂食障がい支援拠点病院が 福井大学医学部附属病院に設置されました

今年も新たな拠点病院が設置されました！令和4年10月、福井大学医学部附属病院 神経科精神科が支援拠点病院となりました。拠点病院は摂食障害の専門治療を提供し、地域の医療機関の連携の中心的役割を担う病院です。昨年の石川県に続き、北陸には2つの病院が設置されました。全国でまだ6つしかない拠点病院ですが、各自治体に1つの拠点病院を目指して歩みを続けていきます。

(POO 福井県摂食障がい支援拠点病院 参照)。

HP <https://fukui-edsupport.jp>

ともに回復を目指しましょう

「困った子」ではなく「困ったコ」
あなたや家族のせいではありません
「困ったコ」のしわざです

楽しく
食べる
を取り戻す。



Mar.2024 情報サイトに新しい記事を追加しました



昨年に引き続いて記事を充実させました。摂食障害と歯に関する記事を掲載しました。嘔吐することで酸蝕症やう歯(虫歯)が起こってしまうので、ケアは大切です。一般向け・専門職向けの記事に加えて、摂食障害において歯科診療の連携で大切なことも書いてあります。第一線の先生にご執筆いただいた充実した内容です。右ページにURLがあります、ぜひご覧ください。(P34 普及啓発活動参照)



June.2023 摂食障害世界アクションデイを開催しました



アーカイブ動画
が公開されてい
ます!



世界摂食障害アクションデイは、2016年より世界的に始まった運動で、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。今年は「摂食障害とメディアの良い関係をめざして」をテーマに、協会で行った実態調査発表、プラットフォーム事業者や専門家、メディア関係者と一緒にインターネットやSNSの現状と利用の仕方などを一緒に考えました。次年度の開催日は2024年6月2日です。お楽しみに！(P34 普及啓発活動 参照)

June.2023 拠点病院設置を検討する病院・自治体に向けて 拠点病院設置サポートを開始しました



摂食障害全国支援センターでは、設置をご検討の自治体・医療機関に対し、支援拠点病院の設置準備、設置後の運営のイメージを作っていただけるようにサポートしています。R5年度はサポートをセミパッケージすることで効率的に事業について知っていた、かつオンラインミーティングで意見交換の場を設けることで地域・病院の個別性に対応できるようにブラッシュアップしました。サポートの内容としては事業内容と拠点病院の役割をご説明し、左チラシの支援拠点病院設置準備研修会をオンデマンド公開、既存の支援拠点病院スタッフとの交流の機会をセッティングするなどがあります。サポート内容の詳細は摂食障害全国支援センターのHPに公開しています。(P29 治療支援・研修参照)

Center for Eating Disorder Research and Information

情報ポータルサイト 一般の方 <https://www.edportal.jp>

情報ポータルサイト 専門職の方 <https://www.edportal.jp/pro/>

摂食障害全国支援センター <https://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害相談「ほっとライン」 <https://sessyoku-hotline.jp>

目 次

1. 厚生労働省における摂食障害対策	1
2. 摂食障害全国支援センター活動報告書	9
1. 基本情報	10
2. 要旨	12
3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置	13
4. 支援拠点病院統括業務	15
5. 相談支援	16
6. 治療支援・研修	29
7. 普及啓発活動	34
8. 考察	41
3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書	43
1. 基本情報	44
2. 要旨	44
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	45
4. 相談支援	46
5. 治療支援	50
6. 研修	53
7. 普及啓発活動	54
8. 行政機関との連携	58
9. その他の活動	58
10. 考察	59
4. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書	61
1. 基本情報	62
2. 要旨	63
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	63
4. 相談支援	64
5. 治療支援	71
6. 研修	72
7. 普及啓発活動	74
8. 行政機関との連携	76
9. その他の活動	76
10. 考察	76
5. 静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	77
1. 基本情報	78
2. 要旨	79
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	80

4.	相談支援	81
5.	治療支援	86
6.	研修	91
7.	普及啓発活動.....	93
8.	行政機関との連携	95
9.	その他の活動.....	97
10.	考察	98
6.	福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	99
1.	基本情報.....	100
2.	要旨	101
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	102
4.	相談支援	103
5.	治療支援	106
6.	研修	108
7.	普及啓発活動.....	109
8.	行政機関との連携	111
9.	その他の活動.....	112
10.	考察	114
7.	石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書	115
1.	基本情報.....	116
2.	要旨	116
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	117
4.	相談支援	118
5.	治療支援	122
6.	研修	123
7.	普及啓発活動.....	124
8.	行政機関との連携	125
9.	その他の活動.....	126
10.	考察	126
8.	福井県摂食障害がい支援拠点病院活動報告書	127
1.	基本情報.....	128
2.	要旨	128
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	129
4.	相談支援	130
5.	治療支援	133
6.	研修	135
7.	普及啓発活動.....	135
8.	行政機関との連携	136

9. その他の活動.....	137
10. 考察.....	137
9. 令和5年度の活動成果と課題、提言	138
10. 全国摂食障害対策連絡協議会委員	142
11. 摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員	143
12. 摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧	146

1. 厚生労働省における摂食障害対策

～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

令和5年度

1. 厚生労働省における摂食障害対策 ～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

1. 事業概要

摂食障害は、患者に対する治療や支援方法の確立や生命の危険を伴う身体合併症の治療や栄養管理等を行うなど、適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進することが求められている。

これらを踏まえ、平成 26 年度より「摂食障害治療支援センター設置運営事業」を実施している。

具体的には、全国 6 カ所の医療機関を「摂食障害支援拠点病院（以下、「支援拠点病院」という。）」に指定し、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整等を行うとともに、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを全国 1 カ所の「摂食障害全国支援センター」に指定し、診療拠点機関による全国連絡協議会の開催や各支援拠点病院で得られた知見を集積し、支援拠点病院への技術的支援等を実施して、摂食障害患者の治療実績や患者・家族のQOLの向上、地域での多職種・他科連携や普及啓発等多くの実績を挙げてきている。

2. 第 8 次医療計画上の摂食障害の位置づけ

第 8 次医療計画において、「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について」（令和 5 年 3 月 31 日付け医政地発 0331 第 14 号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）の別紙「疾病・事業及び在宅医療に係る医療提供体制に係る指針」中「精神疾患の医療体制構築に係る指針」に基づき、地域の実情を踏まえて、摂食障害に対応できる医療機関を明確にすることが求められていることを踏まえ、これまで実施されてきた「摂食障害治療支援センター設置運営事業」での多職種・他科連携や研修、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発に係る取組み等を参考とし、全都道府県で摂食障害の医療連携体制が構築されるよう、本事業の活用による体制の整備について、全国障害者保健福祉関係主管課長会議や担当所管部署等をお願いしているところである。

3. 事業の成果

本事業は平成 26 年度の開始以降、6 カ所の支援拠点病院（東北大学病院、福井大学医学部附属病院、金沢大学附属病院、国立国際医療研究センター国府台病院、浜松医科大学附属病院、九州大学病院）を中心に摂食障害の患者・家族への治療機会の提供や相談支援、設置自治体内の他の医療機関への治療研修などの積極的な取組みの結果、未受診が多いと言われている摂食障害について、発症早期の患者の受診が増加したことに加え、設置自治体内の他の医療機関とも連携が進んだほか、事業に行政が関わっていることにより医療機関以外の他機関（保健所、学校、養護学校等）との連携や協力も進むなど医療提供以外にも一定の効果が出てきている状況である。

また、摂食障害全国支援センター（以下「全国支援センター」という。）（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）では、摂食障害情報ポータルサイトの運用により摂食障害に関する情報発信や普及啓発を行っており、一般の方向けのサイトには年間約 150 万件もアクセスがあり、若年層に多い摂食障害の患者本人や家族、支援者等に対する適切な情報提供に貢献している。

さらに、本事業で開催している全国摂食障害対策連絡協議会に、摂食障害者及びその家族の支援や治療者の育成支援、啓発・予防活動などを行っている一般社団法人日本摂食障害協会に参加いただいております。世界摂食障害アクションデイ 2023 を共催するなど、引き続き、本事業との連携について期待される。

4. 摂食障害支援拠点病院に係る事業実施に関するアンケート

【集計結果（数字は回答自治体数。内容は回答時点。）】

1. 現在、摂食障害治療支援センターを設置する予定があるか。
 - ① すでに指定している 6
(宮城県、千葉県、石川県、福井県、静岡県、福岡県)
 - ② 指定予定がある 5
(北海道、茨城県、栃木県、東京都、富山県)
 - ③ 指定予定がない 36

2. 指定予定がない理由（未指定の自治体：複数回答可）
 - I. 財源を確保できない 16
 - II. 国の実施要綱上の指定要件が厳しい 3
 - III. 引き受けてくれる医療機関がない 11
 - IV. 摂食障害について対応のノウハウがない 7
 - V. 別の補助金を投入し、十分対応できている 0
 - VI. 地域医療計画等の補助金以外の仕組みで十分対応できている 2
 - VII. 精神保健福祉センター等で受診勧奨から普及啓発まで十分対応できている 1
 - VIII. その他 18
 - ・実態把握が必要 5
 - ・支援拠点病院の要望がない 1
 - ・検討段階にない 7
 - ・指定するメリットがない 1
 - ・本事業とは別の拠点機関を複数指定している 1
 - ・指定をせずとも、十分機能している 2
 - ・機能を十分に果たせる医療機関がない 1

3. 摂食障害対策についてのご意見等
 - ・地域バランスや各専門医療機関の強みを生かせる補助金制度になってほしい
 - ・支援拠点病院を複数指定できるような補助金制度になってほしい
 - ・指定した場合は本補助金を活用し連携体制構築研修開催を委託する

4. 支援拠点病院設置準備研修会の管内での開催希望有り 9

5. 課題

摂食障害治療支援センター設置運営事業は平成26年度から開始し、支援拠点病院は、令和4年10月に石川県、令和5年10月に福井県で新設されているが、47都道府県のうち6自治体での設置に止まっている。摂食障害全国支援センターが開設しているホームページへのアクセス数も非常に多いことから、摂食障害に関する医療・支援ニーズの高さがうかがわれるが、それと比較して、専門医療機関・専門医の少なさは引き続き課題となっている。

実際には、全国支援センターと6箇所の支援拠点病院に全国の患者本人や家族からの相談が集中しており、摂食障害に関する新規相談件数のうちの約3分の1は支援拠点病院を設置している自治体外からの相談となっている現状を踏まえ、令和3年度に全国支援センターが国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して「相談ほっとライン」を開設し、6箇所の支援拠点病院以外の地域からの相談に対応できる体制を整備した。

各自治体において支援拠点病院の設置が進まない主な理由については、そもそも摂食障害に対して効果的な治療方法の普及がなかなか進まず、医療機関において摂食障害の患者の治療に苦慮していることも課題となっていると考えられる。既に外来の予約が数ヶ月待ちという状況にある6箇所の支援拠点病院のみで摂食障害の治療、回復支援を担うのは困難であり、摂食障害の診療に協力できる医療機関の確保も急務となっている。

アンケート結果からは摂食障害支援拠点病院の指定見込みは立っていないものの、管内での支援拠点病院設置準備研修の開催に意欲的な自治体が増加した。

摂食障害は長期間の治療を要する疾患のため、居住地に近い医療機関で相談・治療が受けられるよう治療支援ネットワークの充実が求められている。

そのため、厚生労働省においては、令和4年9月に各自治体担当者に対し、摂食障害の治療と支援に資する体制整備の説明を行うとともに関係資料を情報提供した。

6. 今後の方策

(1) 普及啓発の実施について

摂食障害の患者数については、精神保健福祉資料（2019年NDBデータ）によると、約24.5万人と推計されているところであるが、摂食障害の現状について医療者や患者・家族以外にも広く一般国民に理解して頂き、未受診者を減らすためにも普及啓発活動は重要である。

また、当事者・家族支援の観点から、令和2年度よりAMED 障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）として「摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発」が始まっており、摂食障害家族のピアサポーター養成のための研修プログラムを開発し、その効果を検証することとなっており、今後の当事者・家族支援への貢献が期待されている。

今後も引き続き、地方自治体、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会などの関係機関の協力もいただきながら、さらなる普及啓発活動の展開が望まれる。

(2) 治療研修の実施について

支援拠点病院を設置されている地域では、原則的には支援拠点病院が地域の医療機関を対象とした治療研修を実施することにより、これまで摂食障害の治療を積極的に実施してこなかった医療機関においても、初診患者や入院患者の受入が可能となる事例も報告されており、確実に摂食障害に対する診療の質の向上が図られている。また、支援拠点病院未設置地域での医療機関でも摂食障害について、現在も適切に対応されているところではあるものの、摂食障害に対応できる一部の医療機関に患者が集中してしまうなど、摂食障害患者が、

日本全国、どの地域でも安心して医療が受けられているとは言い難い状況となっており、治療方法の研修をどのように実施し、診療の質を向上させるかが課題となっている。

そのため、支援拠点病院未設置地域の医療機関への研修については、全国支援センターが中心となり、支援拠点病院の協力を得ながら地道に実施していくことが必要と考えている。

令和2年度においては、障害者総合福祉推進事業を活用し、「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」を行い、摂食障害治療支援センターの利用による治療および連携支援の好事例を収集したことから、今後の医療従事者向けの治療研修の実施にあたって活用している。

7. 令和6年度からの具体的な取組

厚生労働省としては、全国への支援拠点病院の整備の予算確保と合わせて、効果的な治療方法の普及のための研修事業の実施経費等についても令和6年度予算案で計上したところであり、以下のとおり、令和6年度以降、様々な課題の改善に向けて自治体や関係団体との協力・連携体制の構築を進めていく予定である。

(1) 摂食障害全国支援センターの機能の拡充

支援拠点病院未設置の地域において、医療従事者向けの『摂食障害治療研修』を積極的に実施するとともに、自治体や摂食障害の治療を行っている医療機関を対象にした支援拠点病院の設置や地域医療連携の構築を目指す研修を実施することで、支援拠点病院も含む全国の医療機関をサポートする役割を強化する。

(2) 治療方法の開発・普及

令和2年度障害者総合福祉推進事業では治療の実態把握を行ったが、摂食障害の治療効果についてのエビデンスを収集し、効果的な治療を普及させるため、「摂食障害に対する標準的な治療方法（心理的アプローチと身体的アプローチ）とその研修方法の開発及び普及に資する研究」（厚生労働科学研究）を令和3年度から実施し、成人に対する心理療法及び認知行動療法とその研修方法の開発・効果検証、小児への早期介入方法の検討、身体治療マニュアルの効果検証及び普及方法の検討を行っている。令和5年度は、治療マニュアルを用いた他施設共同研究、摂食障害の標準的治療の研修システム構築、等を目指して研究を行っている。

(3) 普及啓発の実施

全国支援センター、支援拠点病院、関係団体においては、オンライン実施など開催方法の工夫により継続して普及啓発の実施をお願いしたい。

また、厚生労働省では、令和3年度から、メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）の考え方をういた「心のサポーター養成事業」を開始しており、摂食障害治療支援センター設置運営事業と心のサポーター養成事業が有機的な相互連携を図ることで、摂食障害について地域住民への普及啓発がより充実するように取り組む。

摂食障害対策

厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部 精神・障害保健課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

摂食障害

患者数（推定）

- 摂食障害患者数： 約245,534人（精神保健福祉資料（2019年NDBデータ））
- 神経性やせ症： 12,674人
（低体重でも食事量の制限や嘔吐等、痩せるための行動をとる）
- 神経性過食症： 4,612人
（適正又は過体重であるが、頻繁に過食し、嘔吐等の痩せるための行動をとる）
- 過食性障害： 1,145人
（過食するが、痩せるための行動をとらない）
- （平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）
- 女子中学生の100人に1～2人、男子中学生の1000人に2～5人
（平成21年度 障害者総合対策研究事業 「児童・思春期摂食障害に関する基盤的研究」）

治療を受けていない患者が多い

- 保健所や学校、摂食障害治療支援センター相談事例の調査で約半数の患者が治療を受けていない。
- 保健所・保健センターの相談事例のうち治療中断は29.8%、未受診は19.2%であった。
- 神経性やせ症が疑われる生徒のうち1/3～1/2が医療機関を受診していない。

症状

- 精神症状として多いのは、肥満への恐怖・体重や体型へのこだわり、自己誘発性嘔吐、下剤・利尿剤などの乱用、むちゃ食いの反復など
- 身体症状として、脱水、お腹の張り、低血圧などがあり、病状によっては、生命の危険があるときもある

治療

- 規則正しい食事摂取、食事摂取に対する不安や葛藤の傾聴、カウンセリング、精神療法、薬物療法等の組み合わせ
- 身体症状もあるため、心療内科、内科との連携が必要である
- 症状の悪化があった場合には入院治療となる

課題

- 疫学
 - ・患者数の実態把握が困難
 - ・患者の低年齢化、及び高齢化が問題視されている
 - ・回復率が50～60%である一方、50%が回復するのに4～5年かかり、死亡率も10%と高いという報告もある
- 治療
 - ・精神症状のほか、身体症状も認めるため、他科横断的な治療が必要となる
 - ・治療方法としてガイドラインは策定されているが、エビデンスとしては不十分な面もあるといわれている
 - ・上記状況のため、専門医の数が不足している

摂食障害治療ガイドラインより

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和6年度予算案（令和5年度予算額）：23,205千円（19,452千円）

1 事業の目的

平成30年度からの第7次医療計画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することとされており、摂食障害全国支援センターとして国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを、摂食障害支援拠点病院を各都道府県で指定し、摂食障害の治療支援体制の構築に向けて、知見の集積、還元、診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。

2 事業の概要・スキーム

地域

摂食障害の特性や支援方法に関する知識・技術が浸透するように取り組むとともに、摂食障害を発症した患者に関わる機会が多くなると見込まれる機関をはじめとした関係者と医療機関との連携を深化し、患者・家族への相談支援や啓発のための体制を充実すること等により、早期発見・早期支援につながる地域の実現を目指す。

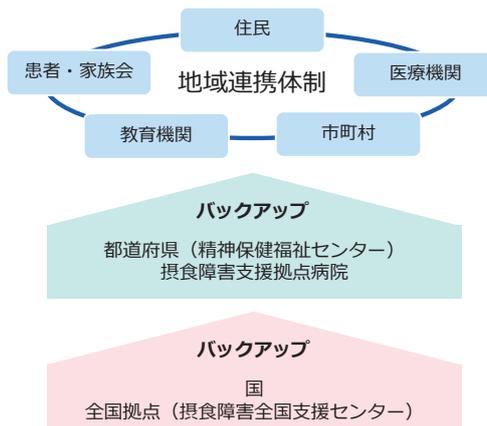
都道府県（精神保健福祉センター、保健所）・摂食障害支援拠点病院

第7次医療計画に基づいて、「都道府県拠点機能」「地域連携拠点機能」「地域精神科医療提供機能」を有する医療機関を指定し、都道府県との協働によって、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整を行う。

国・全国拠点（摂食障害全国支援センター）

各摂食障害支援拠点病院で得られた知見を集積し、共通した有効な摂食障害支援プログラム、地域支援モデルガイドラインの開発等を行うと共に、医療従事者への治療研修など技術的支援を行う。

3 実施主体等



期待される成果

1. 摂食障害への早期発見・早期支援の実現
2. 適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備の推進

摂食障害全国支援センター及び摂食障害支援拠点病院（令和5年2月現在）

- ・ 摂食障害全国支援センター：全国1か所
- ・ 摂食障害支援拠点病院：全国6か所



令和5年度新規設置機関

摂食障害治療支援センター設置運営事業の目的等

(目的)

- 摂食障害は10代～40代の女性に多い疾患といわれているが、専門の医療機関・専門医が全国的に少ないことが課題の一つ。
- 本事業は、摂食障害の専門医療機関の力所数増、まずは3次医療圏（都道府県）の設置を目指し、摂食障害支援拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（1/2）する。

(事業実績)

- 令和4年度現在、摂食障害支援拠点病院は**6医療機関**。全国支援センターが1カ所。
 - * 全国支援センター（1カ所）：国立精神・神経医療研究センター
 - * 摂食障害支援拠点病院（6カ所）：宮城（東北大学病院）、千葉（国立国際医療研究センター国府台病院）、石川（金沢大学附属病院）福井（福井大学医学部附属病院）、静岡（浜松医科大学医学部附属病院）、福岡（九州大学病院）
- 主な事業内容は、以下のとおり
 - ① 摂食障害患者・家族の治療及び相談支援、
 - ② 摂食障害治療医療連携協議会の設置・運営、
 - ③ 摂食障害支援コーディネーターの配置、
 - ④ 医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、
 - ⑤ 市民向けの普及啓発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）

(第8次医療計画との関係)

- 第8次医療計画において、「多様な精神疾患等に対応できる医療連携対策の構築に向けた医療機能の明確化」として、都道府県ごとに摂食障害の専門医療機関を配置することが定められている。
- 同計画中に、「摂食障害治療支援センターを参考に」とあることから、今後、未整備自治体は同事業をモデルに整備し、本事業実施自治体は同機関を指定することで整備が図られることを想定している。

4

課題に向けた取組（摂食障害全国支援センター）

学校と医療のより良い連携のための対応指針

摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針（小学校版・中学校版・高等学校版・大学等）

（平成26年度～平成28年度において厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業〔精神障害分野〕）「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）

⇒ 養護教諭などの教育関係者を対象にした研修によるゲートキーパーの養成。早期発見、早期治療へ。

摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き

摂食障害支援拠点病院において相談支援を担当するコーディネーターが、摂食障害の患者、家族、関係者等から相談を受ける際の手引き

（平成30年度摂食障害治療支援センター設置運営事業）

⇒ コーディネーター研修の実施、摂食障害支援拠点病院未設置自治体への設立支援

摂食障害に対する標準的な治療方法とその研修方法の開発及び普及に資する研究

本研究開発の目標・ねらい

1. 標準的治療法の有効性の実証。
2. 多職種支援者を対象とした治療マニュアルを用いた研修システムの構築。
3. 神経性やせ症に対するエビデンスに基づく身体治療マニュアルを開発、治療効果と安全性を検証。
4. 小児期摂食障害の治療マニュアルを用いた効果検証、多職種を対象に研修会を開催。
5. 神経性やせ症を抱えた患者を対象とした治療マニュアル等の多職種を対象の研修の開催（オンライン研修会を含む）。

期待される効果

1. 標準的治療法のエビデンスを確立や普及。
2. すべての医療機関で連続的、包括的な標準的治療に対応可能な医療連携体制の構築の推進。
3. 多職種を対象とした「小児摂食障害の治療と対応マニュアル」を作成、多職種研修会を開催
4. 心理療法、身体治療等の連続的、地域包括的なケアモデルの構築の推進。
5. 本研究の成果の治療プログラム、指針を国内外の関連学会、研修会を通じての普及。
（令和3年度～5年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

5

2. 摂食障害全国支援センター活動報告書

令和5年度

摂食障害全国支援センター

Center for Eating Disorder Research and Information



令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援拠点病院設置事業報告書

1. 基本情報

拠点機関名	摂食障害全国支援センター
設置施設	国立精神・神経医療研究センター
郵便番号	187-8553
所在地	東京都小平市小川東町 4-1-1
電話番号	042-341-2711(代)

URL

摂食障害全国支援センター：<http://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)：<http://www.edportal.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)：<http://www.edportal.jp/pro>

摂食障害全国支援センター職員

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施担当者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
小原 千郷 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
船場 美佐子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
中野 稚子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	テクニカルフェロー
井上 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	テクニカルフェロー
國重 寛子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究補助員
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手

河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 (委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 相談ほっとラ イン (委託)	看護師・保健師
藤野沙織 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター国府 台病院心療内科 相談ほっとラ イン (委託)	看護師

2. 要旨

令和5年10月に福井県に摂食障害支援拠点病院が令和4年度の石川県に続き2年連続で新規指定された。静岡県における摂食障害診療連携体制をフォーマットとした『摂食障害診療連携モデル』を確立し、更に新規支援拠点病院設置前後の時期に、摂食障害全国支援センターおよび既存の支援拠点病院から新規支援拠点病院にできる支援のノウハウ集積ができた。これらノウハウを集約して、定式化した『摂食障害支援拠点病院設置準備サポート』と銘打って、全国各地の医療機関や自治体に向けて支援拠点病院設置を促す活動を展開することができた。

また、令和4年度より摂食障害入院医療管理加算の要件緩和に併せて、算定医療機関における摂食障害の入院治療の質を担保するために、全国の医療機関を対象とした摂食障害入院治療研修会を開催した。また、摂食障害の支援者支援のニーズは、小児科においても強いことが確認され、摂食障害学会や厚生労働省研究版と連携をして、小児科診療従事者を対象とした研修会の開催の準備を進めている。

上記活動を含めた令和5年度の主要な活動と成果の概要を以下に示す。

支援拠点病院統括業務

支援拠点病院との連携ミーティングをオンラインで2回開催し、情報共有と課題についての討議を行った。全国支援センターが開催する摂食障害治療研修のあり方などが話し合われた。

全国協議会は、第1回、第2回共にメール審議+ウェブ会議で開催された。第1回全国協議会では年度の事業計画の策定と、新規支援拠点病院指定準備の進捗確認、各支援拠点病院での好事例として『摂食障害診療連携モデル』の共有、新規指定施設への支援『摂食障害支援拠点病院設置準備サポート』の定式化の確認、国府台病院へ委託している電話相談事業(相談ほっとライン)の開所日の維持の必要性を共有した。第2回全国協議会では全国支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、次年度に予定している小児科治療研修会の新設、外来研修会の強化について承認を得た。

相談支援

6支援拠点病院と、全国を対象とした電話相談『摂食障害「相談ほっとライン」』(国府台病院に委託)への相談件数は、コロナ禍に起因すると思われる増加は収束が認められたが、一部施設での若年化傾向は続いていた。Web公開している摂食障害診療施設リストを、診療実態に沿って更新した。「相談ほっとライン」は開設当初より増枠を維持したが、全国の相談ニーズの上限はまだ見えていない。また、福井県の新規指定に合わせて、摂食障害治療支援コーディネーターを対象とした研修会を開催した。

治療支援・研修

摂食障害の治療の初心者を対象に「摂食障害治療研修」を2回および「入院治療研修」を1回オンラインで開催した。新規の支援拠点病院候補となる自治体や医療機関を対象に、支援拠点病院設置準備研修会のビデオリンクを希望施設に配布した。更に、支援拠点病院設置の意向を表明している医療機関に対して個別に手厚くサポートを行った。

普及啓発活動

情報ウェブサイトを運営・記事の更新や各種メディア対応を継続的に行っている。世界摂食障害アクションデイ2023において、当該事業について講演を行った。

3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置

全国摂食障害対策連絡協議会・計画

1. 全国協議会を1回目令和5年7-8月と2回目令和6年2-3月頃の2回開催する。
会議内容(議題等)は第1回全国協議会では年度の事業計画の策定を行う。摂食障害対策の方向性全般について討議する。第2回全国協議会では支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、事業の効果の検証、問題点の抽出等を行う。

全国摂食障害対策連絡協議会・結果

- 第1回: 支援拠点病院候補の進捗について報告を受け、新設支援をサポートする方法論について検討した。摂食障害の入院診療加算要件が緩和されたことを受け、入院診療の質を維持することを目的に入院治療研修のプログラム開発することとなり、年度内の開催を目標とした。協議会委員により今年度の全国支援センター事業が承認された。
- 第2回: 令和5年度実施事業報告として、拠点病院設置準備サポートの展開、福井県摂食障がい支援拠点病院の新規指定、情報サイトの記事追加、を報告した。次年度に予定している、小児治療研修の立ち上げ、動画作成プロジェクト、世界摂食障害アクションデイ2024の企画、拠点病院における入院治療データ調査研究について検討した。

全国摂食障害対策連絡協議会

第1回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R5/07/13-07/24 メール審議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国支援センターにおける令和5年度の事業計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修会(各種研修の開催様式・内容決定) <ol style="list-style-type: none"> ① コーディネーター研修: 新規支援拠点病院候補の支援 ② 入院治療研修会(定期開催) ③ 初学者外来研修会(定期開催) ④ 支援拠点病院設置準備研修会(オンデマンド開催) ⑤ 地域向け研修会: 支援者支援ニーズの掘り起こし(オンデマンド開催) ⑥ 3日間の治療研修会と学術集会との連携 ⑦ 小児期治療に特化した1日オンライン研修会の開催を検討(連携ミーティングより) 2) 摂食障害ポータルサイトの改訂 3) 動画作成プロジェクト 4) 研究事業との連携 5) 支援拠点病院設置準備サポート 2. 支援拠点病院の令和5年度の事業計画について
参加人数	43

第2回全国摂食障害対策連絡協議会	
開催日	R6/01/30-02/02 メール審議 R6/02/05 ウェブ会議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	<p>I.報告事項</p> <p>1) 令和5年度実施事業</p> <p>1. 各種研修会</p> <p>2. 拠点病院設置準備サポート</p> <p>3. HP改訂(ポータルサイト/全国支援センター)</p> <p>4. 精神神経学会の提言</p> <p>2) 各支援拠点病院からの質問への回答/報告</p> <p>II.審議事項</p> <p>1. 小児治療研修の立ち上げ</p> <p>2. メンテナンス外来研修(仮称)の AddOn</p> <p>3. 動画プロジェクト</p> <p>4. アクションデイ企画:令和5年6月2日(日)13:30—15:30</p> <p>5. 支援センターの枠組みを活用した共同研究</p>
参加人数	41

4. 支援拠点病院統括業務

支援拠点病院統括業務・計画

- 支援拠点病院と密接に連携を図り、情報を共有し、必要に応じ、支援拠点病院への助言および連携調整を行う。そのために全国支援センターと支援拠点病院との摂食障害支援拠点病院連携ミーティングを2回開催する(開催日:1回目令和5年7-8月、2回目令和6年2-3月頃、開催形式:ウェブ会議)。

支援拠点病院統括業務・結果

- 摂食障害支援拠点病院連携ミーティングは、ウェブ会議形式で7月と1月の2回開催した。**
 - 第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、支援拠点病院設置準備サポートの定式化、47都道府県の拠点病院設置準備状況の共有、小児例の診療を行っている医療関係者をターゲットとした小児治療研修会を次年度に開催する方針で準備を進めることが定まった。
 - 第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、日本摂食障害協会との共催する世界アクションデイ2024企画のテーマについて周知した。次年度の支援センター事業として、次年度より開始する拠点病院における入院患者データの調査研究の実施可能性について検討した。

摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R5/07/10
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 支援拠点病院設置準備サポートの定式化 拠点病院設置準備:47都道府県の進捗状況の共有 全国支援センター主催の研修会 動画作成プロジェクト 研究相談 各支援拠点病院のR5年度計画
参加人数	25

第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R6/01/26
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	<ol style="list-style-type: none"> 令和5年度実施事業報告 各拠点病院からの報告 第2回連絡協議会での審議事項
参加人数	21

5. 相談支援

相談支援・計画

1. 支援拠点病院に対し、連携ミーティング等で相談業務に関する連携調整を行う。
2. 各拠点病院で相談業務を担当するコーディネーターの研鑽と情報交換を目的として、コーディネーター研修を開催する。
3. 全国を対象とした摂食障害に関する相談業務の継続体制について実施可能性を検討する。
4. 支援拠点病院より収集したデータ分析結果とそれに基づく患者・家族への対応方法をフィードバックする。
5. 情報ウェブサイトにて、患者・家族・支援者向けの摂食障害の医療、研究、支援に関する情報を提供する。

相談支援・結果

1. 支援拠点病院との連携ミーティングを2回ウェブ会議で実施した。
2. コーディネーター研修会を開催した。新規設置された、福井県のコーディネーターを主対象にコーディネーターの基本的な業務と年間スケジュールについての講義をビデオ録画し、オンデマンドで提供した。コーディネーターが業務内容について質疑応答する機会をウェブ会議で設けた。
3. 令和4年1月に国府台病院に開設された摂食障害相談「ほっとライン」は、週4日(火曜～金曜、9時～15時)の相談体制を維持した。支援拠点病院が設置されていない都道府県からの相談を受けつけている。この相談業務は摂食障害全国支援センターから、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して運営されている。同診療科にて摂食障害「相談ほっとライン」HPも運営している。(7.普及啓発後述)
4. 令和5年度摂食障害治療支援センター相談支援事例の分析結果は以下に詳細を記す。
5. 情報ウェブサイト(摂食障害ポータルサイト)の記事を更新した(詳細は7.普及啓発活動を参照)。

相談件数 期間:R5.4-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
515	583

地域(新規件数)n= 515 期:R5.4-R5.11

県内	県外	不明	計
			0

ほっとラインは未記入でOK

相談者(新規件数)n= 515 期間:R5.4-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
196	35	232	7	25	1	2	5	12	0	515

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 515 平均年齢: SD= ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
8	190	143	67	46	21	10	5	22	3	515

相談対象患者の性別(新規件数)n= 515 期:R5.4-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
459	48	0	5	3	515

相談対象患者状態(新規件数) n= 515 期間:R5.4-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
188	177	188	132	25	20	40	0	1	97	2	5	4	0

相談対象患者属性(新規件数) n= 515 期間:R5.4-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
22	48	75	79	134	92	24	16	22	3	515

摂食障害での受診状況(新規件数) n= 515 期間:R5.4-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
							0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 515 期間:R5.4-R5.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
437	8	8	2	18	21	2	0	0	0	2	17

相談経路(延べ件数) n= 583 期間:R5.4-R5.11

電話	メール	面談	計
583	0	0	583

相談内容(延べ件数) n= 583 期間:R5.4-R5.11

疾患相談	対応相談				受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
213	154	122	1	67	258	36	54	55

対応内容(延べ件数) n= 583 期間:R5.4-R5.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
326	44	291	4	245	153	40	132	0	4	448	42	11

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害治療支援コーディネーター研修

開催日	R5/09/28
対象者	摂食障害治療支援コーディネーター
研修内容	1.オンデマンド講義「摂食障害治療支援コーディネーター業務に関して」 2.ウェブ会議 情報交換・総合討論
講師	高倉修(外部講師・アドバイザー)、小原千郷(講師・アドバイザー)、北島智子(外部講師・アドバイザー)、関口敦(アドバイザー)、井野敬子(司会)
実施場所	オンデマンド配信+ウェブ会議
参加人数	ウェブ会議 12

参考資料: 摂食障害相談「ほっとライン」
「ほっとライン」ホームページ(国府台病院作成)

令和5年度摂食障害治療支援センター相談支援事例の分析

令和5年4月より11月までの6県・全国ほっとラインにおける相談支援の実績と内容を報告する。尚、データの解析にあたって、1名から複数回の相談があった場合、1名からの相談を1件(1名)としてカウントしている施設と、同一相談であってもアクション毎に1件(1名)とカウントしている施設が混在しているため、他県との詳細な比較は参考程度にとどめる。

1. 相談件数と相談者について

- ・ 延べ相談件数は1915件であり、そのうち新規相談件数は1327件(69%)であった(表1)。前年は延べ相談件数1765件、新規相談件数1181件であり、各前年比は112%、108%と増加した。
- ・ 新規相談者の居住地域は、県外からの相談が18%であった(表2, 図1)。前年度の県外からの相談は24%であり、県外からの相談割合は減少した。
- ・ 新規相談者の内訳は、患者の家族が一番多く(49%)、次いで患者本人(37%)、医療・行政・教育等の機関の職員(9%)であった。家族の中では母親が最も多く(76%)、機関職員の中では医療機関職員(63%)からの相談が最も多かった(表3, 図2)。
- ・ 相談業務を知ったきっかけは、WEB(インターネット)が927件と多かったが、紹介も167件あった(図3)。
- ・ 他県と比較して、県外からの相談件数の割合が高かったのは福井県33%、千葉県24%であり、隣接する都道府県のニーズが高いと捉えることも可能であった(図4)。
- ・ 他県と比較して、機関職員からの相談割合が高く(静岡県30%、福岡県18%)(図5)、医療機関からの相談件数は、静岡36件、福岡20件と多かった(図6)。教育機関からの相談件数は、福岡16件、石川7件と多かった(図6)。

表1 相談件数

県	新規相談件数	延べ相談件数
宮城	119	447
千葉	227	312
静岡	126	151
福岡	207	266
石川	115	131
福井	18	25
全国ほっとライン	515	583
計	1327	1915

表2 県内／県外の相談割合(新規件数)

県	県内	県外	不明	計
宮城	93	16	10	119
千葉	115	54	58	227
静岡	102	24	0	126
福岡	173	30	4	207
石川	90	18	7	115
福井	11	6	1	18
計	584	148	80	812

表3 相談者(新規件数)

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
484	496	78	26	56	74	12	31	39	31	1327

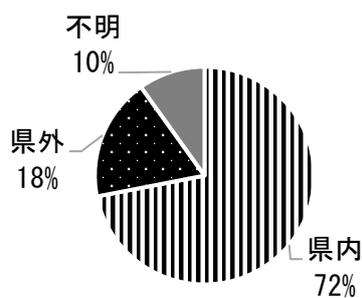


図1 地域 (新規件数)

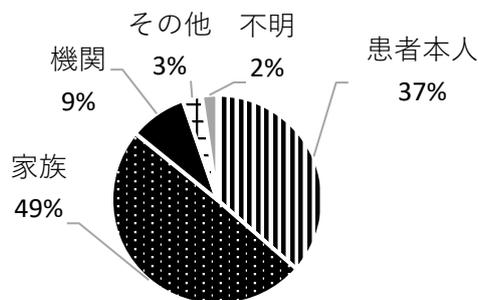


図2 相談者内訳 (新規件数)

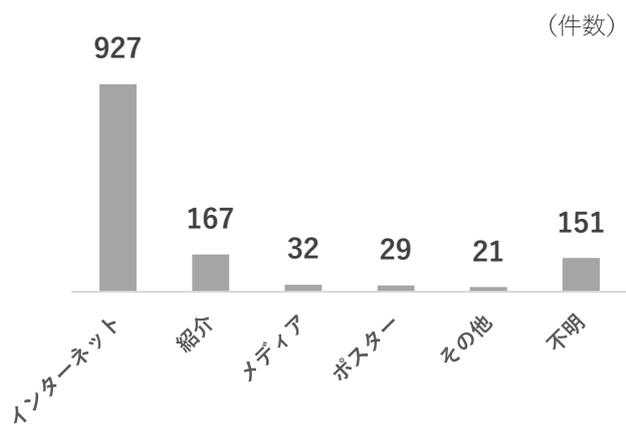


図3 支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ (新規件数)

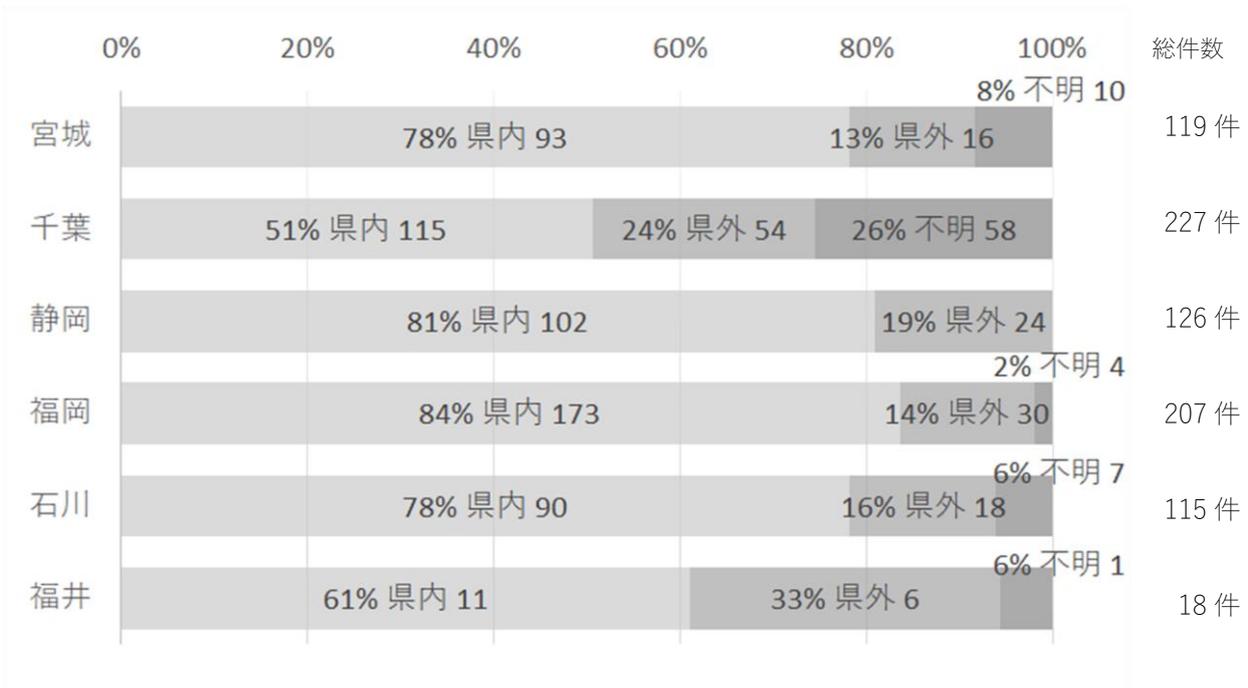


図4 県別 県内・県外比率（新規件数）

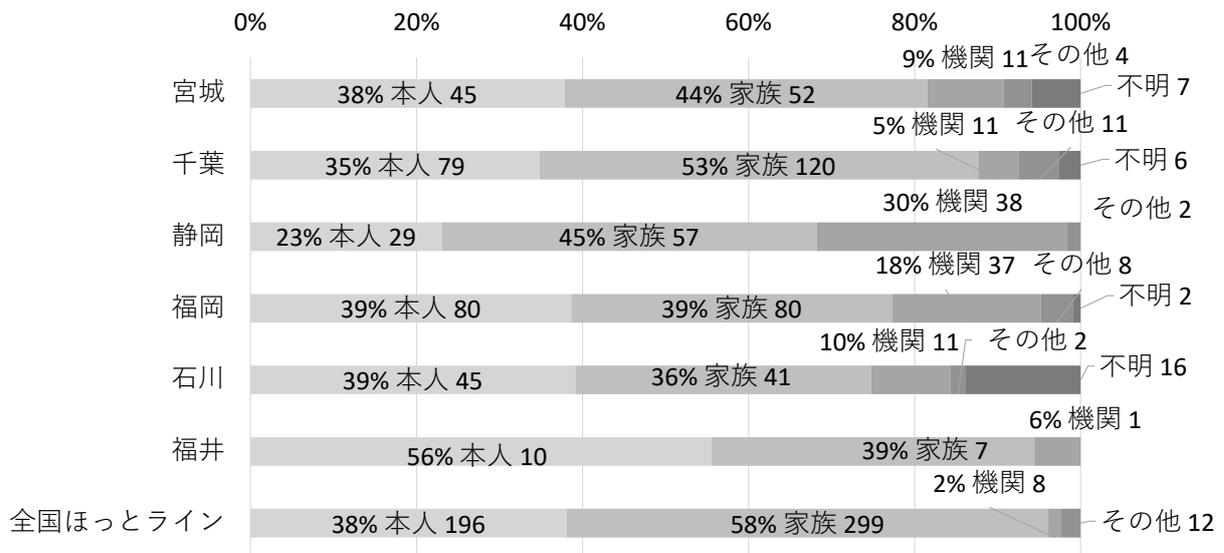


図5 県別 相談者内訳（新規件数）

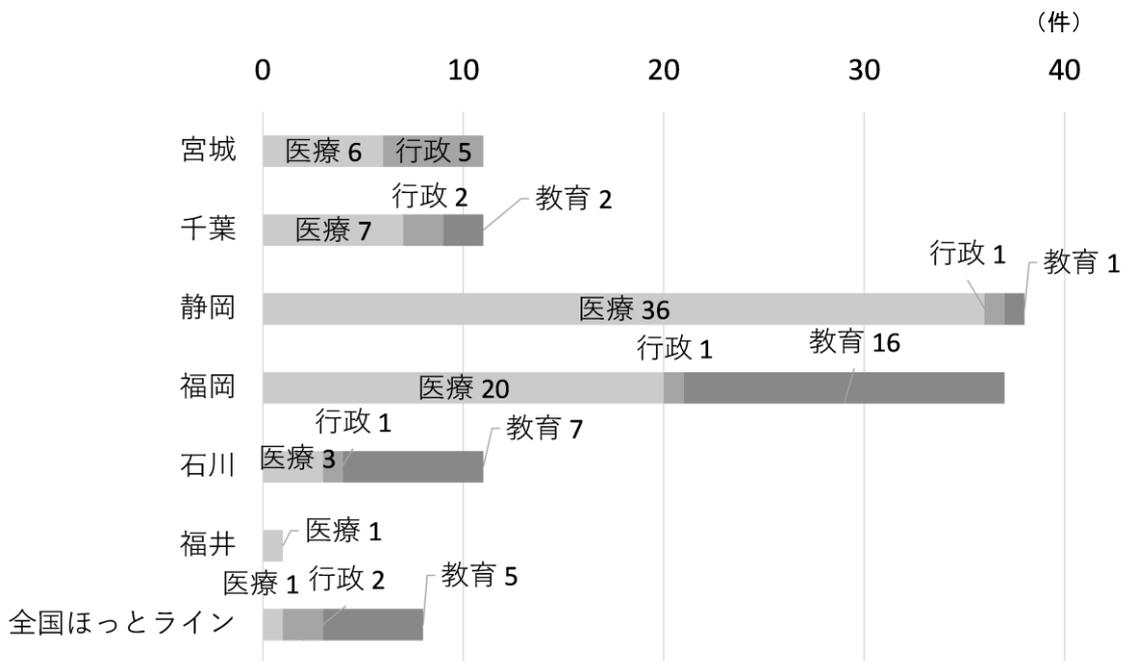


図6 県別 相談者内訳 機関 (新規件数)

2. 相談対象となった患者について

- 10代の患者からの相談が一番多く、次いで20代、30代と続いた(図7)。例年と同様の傾向であった。10代と20代で全体の約50%を占めていた(図8)。
- 他県と比較して、静岡県は20代以下が約70%を占めていた(図9)。
- 患者の属性は学生が一番多く、次いで何らかの形で就業中のものが多かった(図10)。
- 性別は女性が85%、男性が7%であった(図11)。
- 患者の受診状態については、受診中の患者は37%であった。摂食障害以外の疾患で通院中の者が9%であり何らかの形で通院している者は全体の46%であった。前年は57%であり、約1割減少した。11%が受診を中断中で未受診は25%であり、前年とほぼ同様の値だった(図12)。
- 相談経路は79%が電話、21%がメールであったが、メール相談に応じている拠点病院と応じていない拠点病院があり、条件の違いが結果に反映している可能性があった(図13)。
- 新規相談者において患者の抱える問題は、やせ、食事制限、過食、嘔吐などの摂食障害特有の症状に加えて、精神不安定の精神症状も多かった(図14)。

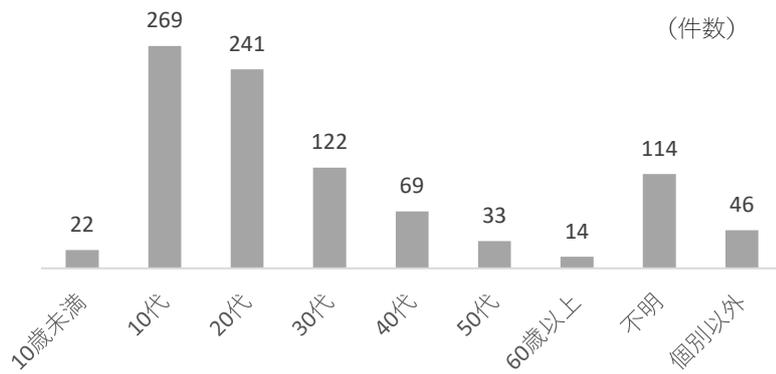


図7 相談対象者 年齢 (新規件数)

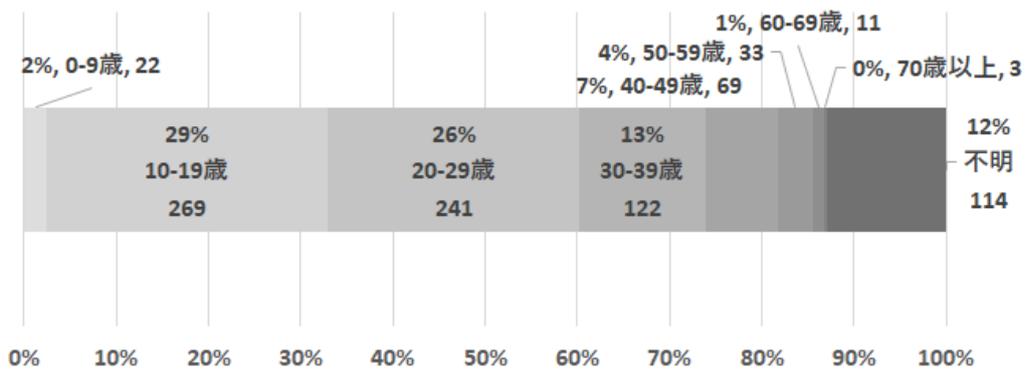


図8 相談対象者 年齢比率 (新規件数)

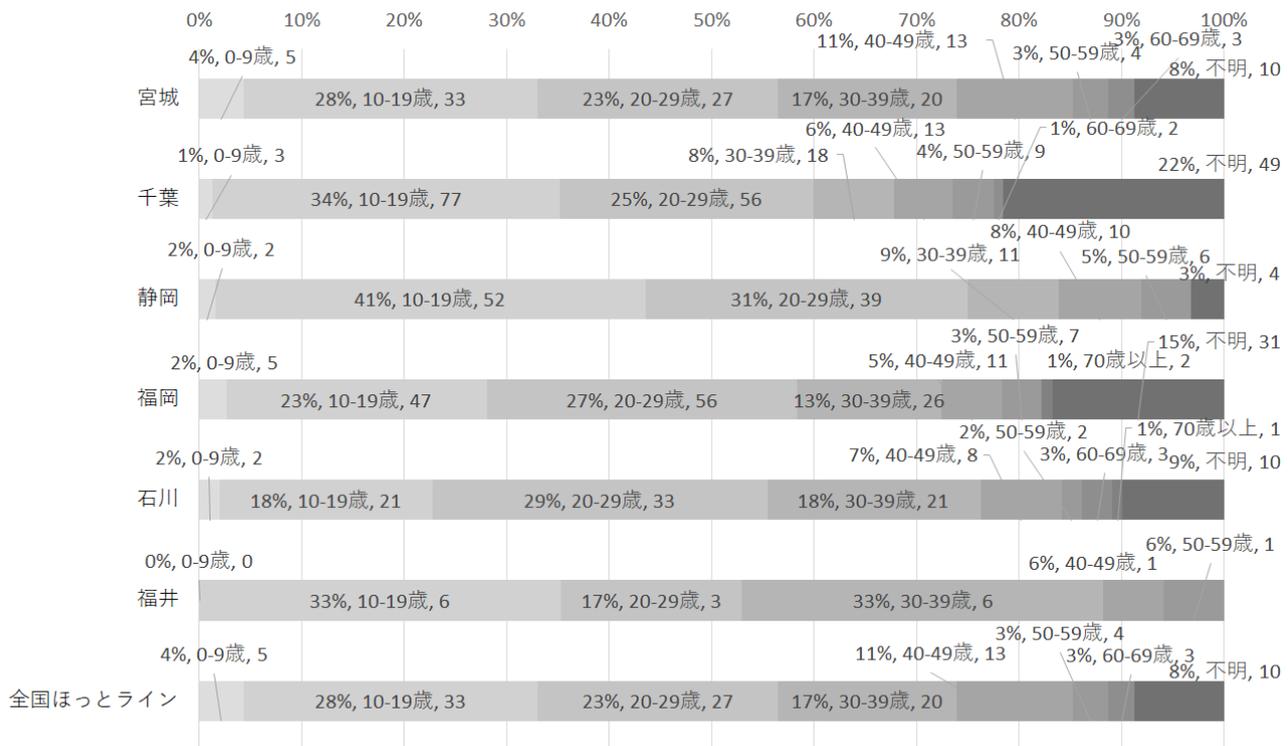


図9 県別 相談対象者 年齢比率 (新規件数)

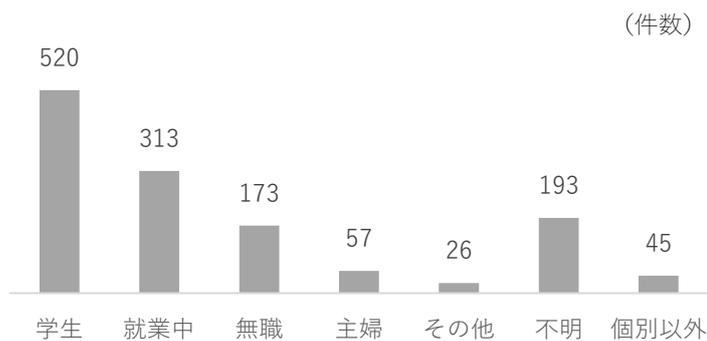


図10 相談対象者 属性 (新規件数)

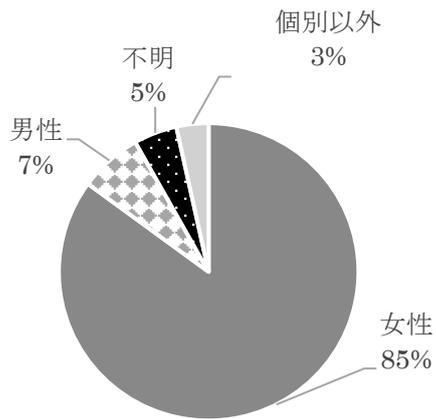


図11 相談対象患者 性別（新規件数）

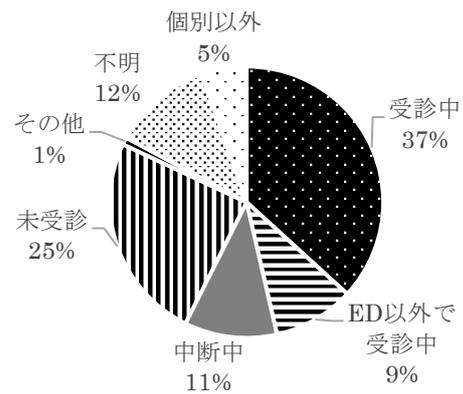


図12 摂食障害での受診状況（新規件数）

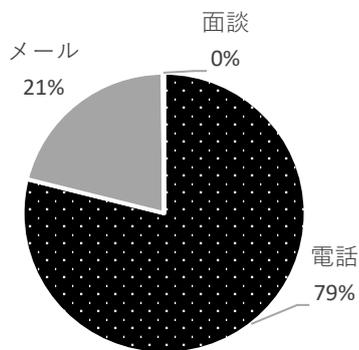


図13 相談経路（新規件数）

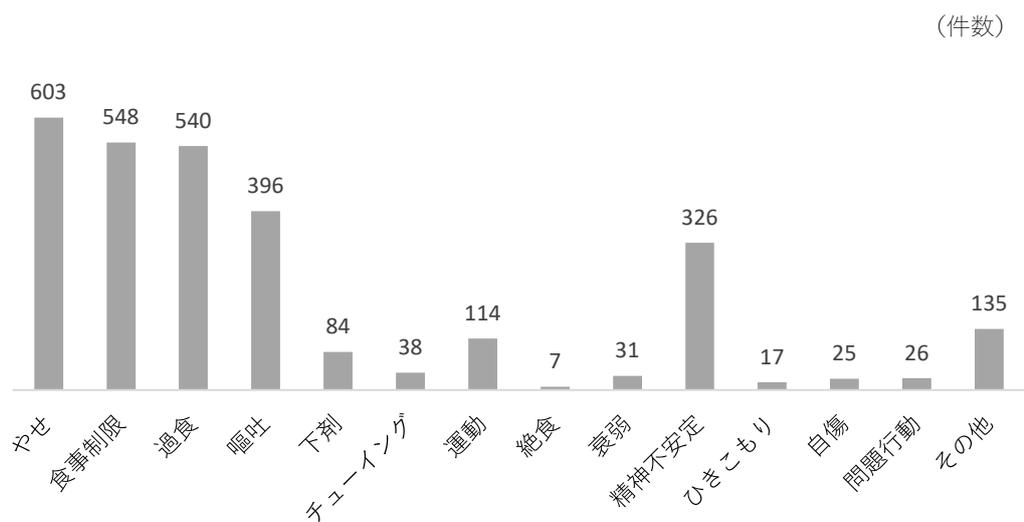


図14 相談対象者 状態（新規件数）

3. 相談と対応の内容について

- ・ 相談内容(延べ件数・複数回答)は、これまでの傾向と同じく「受診相談」が最も多かった(図 15)。
- ・ 対応内容(延べ件数・複数回答)は、上記に応じて「病院紹介」が最も多かった(図 16)。
- ・ 他県との比較で、「受診相談」の割合が最も高いのは静岡の 80%であった。相談センターが受診先を紹介してくれる役割を持つことが地域で認知されている可能性も考えられた(図 17)。
- ・ 他県との比較で特徴的な点として、「助言」の割合が高いのがほっとライン 46%、静岡 41%であった(図 18)。
- ・ 「病院紹介」において、「拠点病院(自施設)」の割合が最も少ないのは、福岡 25%であった(図 19)。

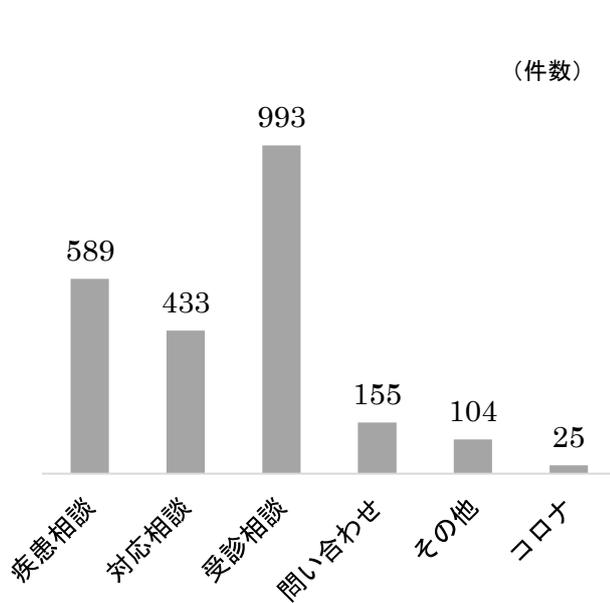


図15 相談内容 (延べ件数 複数回答)

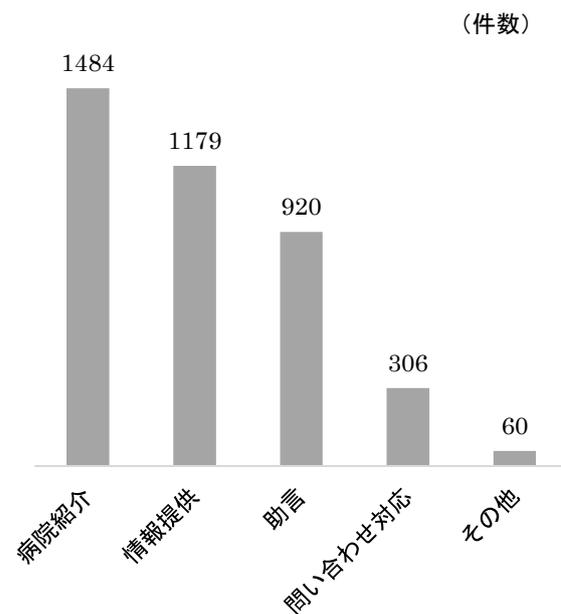


図16 対応内容 (延べ件数 複数回答)

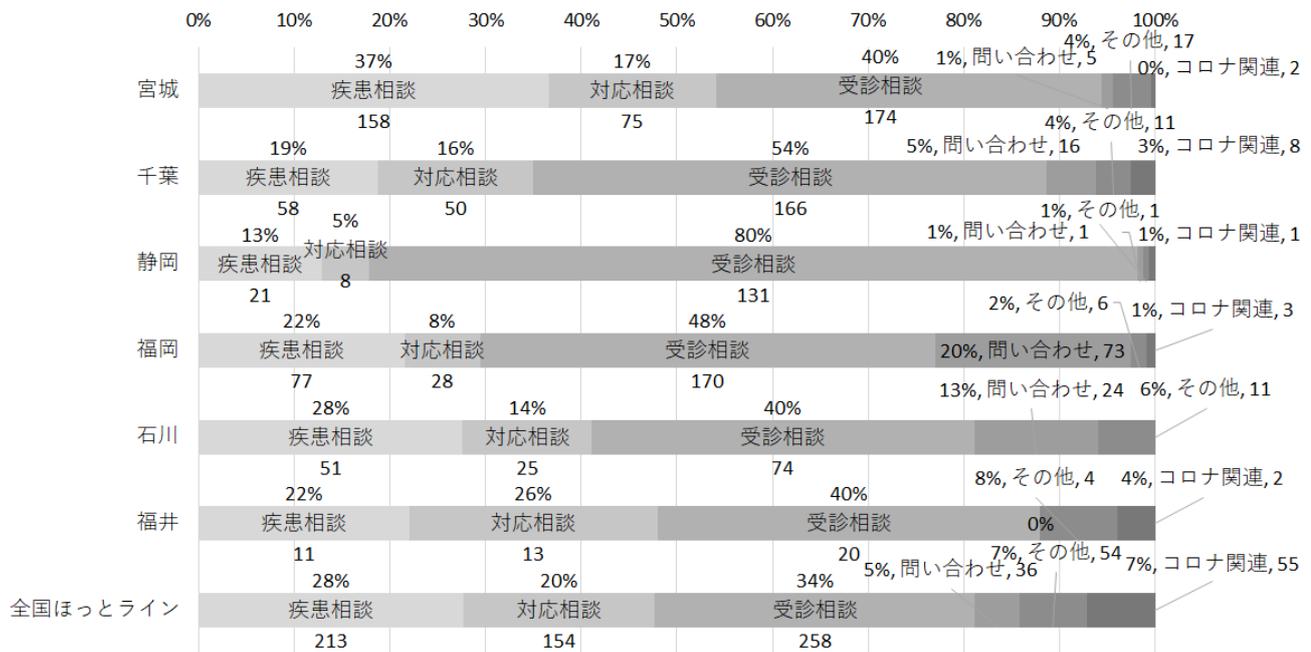


図 17 県別 相談内容 比率 (新規件数)

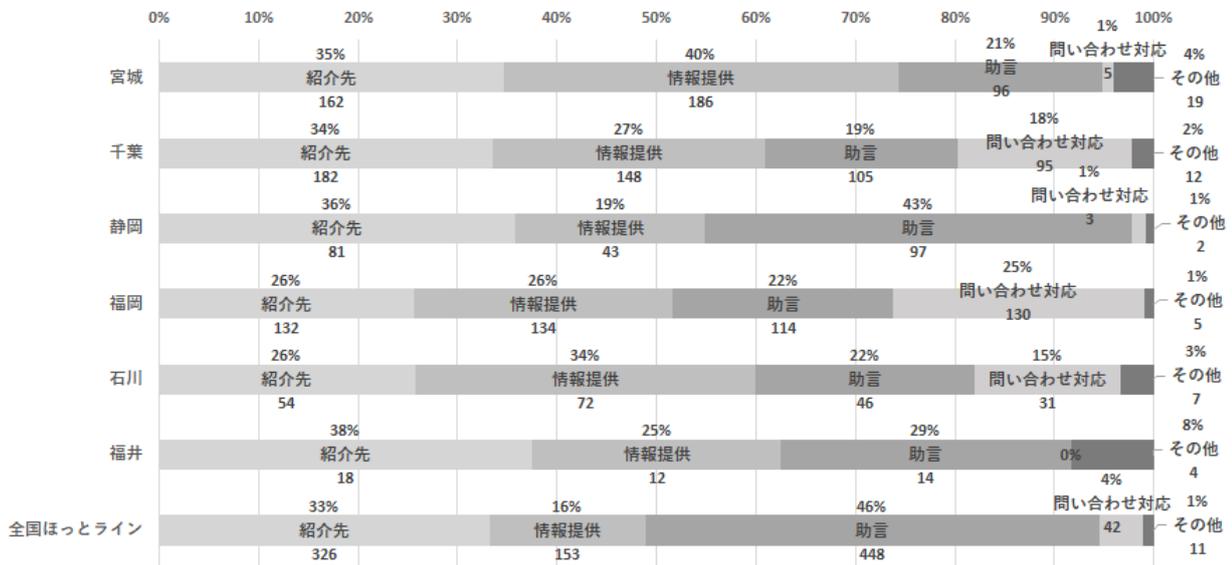


図 18 県別 対応内容 比率 (新規件数)

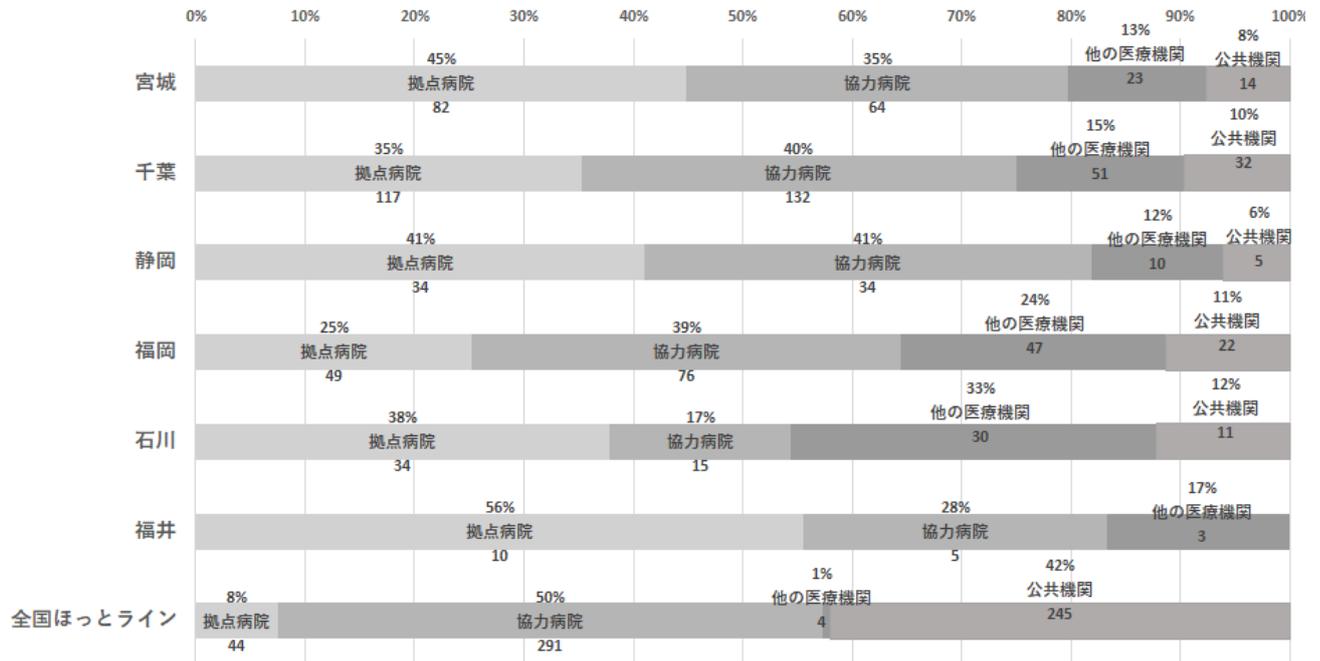


図 19 県別 対応内容 紹介先 比率 (新規件数)

<全体のまとめと提言>

- 延べ相談件数は、1951 件であり、そのうち新規の相談が 1327 件(69%)であった。昨年の件数(延べ 1512 件,新規 1181 件,新規割合 78%)よりも増加し、高い相談ニーズが伺われる。
- 相談対象者の年齢以外の相談者の属性、患者の状態、相談内容には昨年度までとは大きな変化はなかった。
- 県外からの相談が 18%を占め、県外からも高い相談ニーズが伺われる。昨年の県外からの相談は 24%であった。全国を対象としたほっとライン開設(国府台病院に委託)以降、各拠点病院においてやや県外からの相談は減少している。拠点病院のない都道府県の相談ニーズを当該県の行政及び医療機関にフィードバックし、支援拠点病院設置の機運の向上につなげる方略を確立すべきである。
- 家族からの相談が半数以上を占め、特に母親からが多かった。患者・家族支援のリソースとして、ピアサポーターの育成、家族相談会の開催などの支援を検討したい。
- 受診の相談や病院紹介についての高い相談ニーズが伺われる。これに対しては、ほっとラインの相談を継続し、摂食障害を診療している医療機関リストを公開し、対応している(次項 治療支援・研修を参照)。

6. 治療支援・研修

治療支援・研修・計画

1. 昨年度までに開発した摂食障害治療研修プログラム(初心者向けの外来研修、入院治療研修)を活用しオンライン研修会を開催し、全国に摂食障害治療者の裾野を広げ、入院治療の質の担保を図る。
2. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」のビデオリンクの配布体制を確立する。

治療支援・研修・結果

1. 全国の病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター、教育機関等に勤務し摂食障害に関心を有する医療従事者を対象に、「初心者が知っておくべき外来治療」をテーマに研修会を実施した。本研修に産婦人科医師・小児科医師の参加者が多いことや、同領域の質問が多いことを受けて本年度より「産婦人科領域における摂食障害の対応」「小児科医が診る摂食障害」の講義を新たに追加した。摂食障害の診方、考え方、初期対応、外来・入院診療、疾病・心理教育、医療連携の基本について学び、摂食障害の診療により自信をもってもらうことを目的とした。
2. 摂食障害の入院加算に関わる施設基準が緩和されたことを受け、入院診療のノウハウを提供するために、医療施設の医療者を対象として『摂食障害入院診療研修会』をオンライン開催した。
3. 受け持った摂食患者を相談できる先がないという研修会受講者の声を受けて、7月に開催した摂食障害治療研修会を日本摂食障害学会と共催して、第26回摂食障害学会学術大会(2023年10月21日22日東京)で症例検討を行った。

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第6回	
開催日	R5/04/20～05/12、R5/05/13
対象者	病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、作田亮一、小川真里子、田村奈穂
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 225 ライブ191
第20回摂食障害治療研修	
開催日	R5/7/12～7/14
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	安藤哲也、高倉修、山内常生、小原千郷、宇佐美政英、西園マーハ文、鈴木真理、中里道子、森野百合子、武田綾、佐藤康弘
開催場所	ライブ配信
参加人数	101

摂食障害治療研修『初心者が知っておくべき外来治療』第7回	
開催日	R5/11/10～12/2 R5/12/3
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、山内常生、小川真里子、作田亮一、田村奈穂
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド 270 ライブ 223
摂食障害入院治療研修『入院治療の留意点とコツ』第2回	
開催日	R5/12/11～R6/1/31 R6/01/19
対象者	摂食障害の入院診療に関わる医療従事者
講師	講師:竹林淳和、磯部 智代、鈴木麻友子、大野 富来子、牧野 知美 質疑応答:関口敦、井野敬子
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	オンデマンド364 ライブ138
医療再生講演会(高知県)	
開催日	R6/3/4
対象者	精神科の専攻医をはじめとする高知大学精神科医局のスタッフ,高知県内の関係機関
講師	講師:関口 敦 質疑応答:関口 敦、井野 敬子
開催場所	オンライン
参加人数	

参考資料: 摂食障害治療研修会時間割/チラシ

2023年度 精神保健に関する技術研修
摂食障害治療研修
 ~初心者が知っておくべき外来治療~(第6回)

日付	時間	講師名	所属
4月20日(木)~5月12日(金)	<オンデマンド配信> 1. 摂食障害の今	安藤 哲也	国際医療福祉大学 成田病院 心療内科 教授
	<オンデマンド配信> 2. 一般医でもできる初期治療	高倉 修	九州大学病院の療内科 講師
	<オンデマンド配信> 3. 摂食障害の理解~患者、家族にどう伝えるか~	佐藤 康弘	東北大学病院の療内科 講師
	<オンデマンド配信> 4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携	吉内 一浩	東京大学医学部附属病院 心療内科 准教授
	<オンデマンド配信> 5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法	山内 常生	大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師
	<オンデマンド配信> 6. 小児領域の摂食障害~小児の特徴と外来~	作田 亮一	埼玉医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長
	<オンデマンド配信> 7. 産婦人科領域における摂食障害への対応	小川 真里子	東京医科大学市川総合病院 産婦人科 准教授
	12:40~	《お弁当の受付開始》	
	13:00~13:05 (5分)	開会のご挨拶	金 吉晴
	13:05~13:10 (5分)	ガイダンス	関口 敦
13:10~13:55 (45分)	<ライブ配信> 8. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ	田村 奈穂	国立国際医療研究センター国際がん研 心療内科 科長
13:55~14:00 (5分)	《休憩》		
14:00~15:30 (90分)	<ライブ配信> 9. 質疑応答	全講師	
15:30	《閉講式》		

令和5年度 第20回摂食障害治療研修会 講義日程

日時 : 令和5年7月12日(水)~14日(金)
 場所 : オンライン開催

日付	曜日	時間	講師名・所属/講義内容		
7月12日	水	9:20~9:30	開講式 ガイダンス 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所長 金 吉晴 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 室長 関口敦		
		9:30~11:00	安藤 哲也 国際医療福祉大学 成田病院 心療内科 教授 疫学・病態・治療概論		
		11:15~12:45	高倉 修 九州大学病院 心療内科 講師 初期対応と外来診療		
		13:30~15:00	山内 常生 大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師 入院治療		
		15:15~16:45	小原 千穂 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 研究員 文芸大学 人間科学部 臨床心理学科 特任専任講師 心理教育		
		7月13日	木	9:30~11:00	鈴木 真理 造形学園女子大学 心理学部 臨床心理学科 特任教授 身体合併症・身体的管理
				11:15~12:45	宇佐美 政英 国立国際医療研究センター国際がん研 子どものこころ総合診療センター長 児童精神科 診療科長 小児期の初期対応と診療
13:30~15:00	西園 マーハ 文 明治学院大学 心理学部 心理学科 教授 精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害				
15:15~16:45	中里 道子 国際医療福祉大学 医学部 精神医学 教授(代表) 過食症に対するガイド・セルフヘルプ				
7月14日	金	9:30~11:00	森野 百合子 成増厚生病院 なります子どものこころケアセンター センター長 児童・思春期摂食障害患者さんとそのご家族への家族療法的アプローチ		
		11:15~12:45	武田 綾 特定非営利活動法人のびのび会 心理療法士 当事者の話を聞く		
		13:30~15:00	佐藤 康弘 東北大学病院 心療内科 講師 症例検討		
		15:15~15:45	質疑応答(佐藤 康弘・関口 敦・井野 敬子)		

摂食障害治療研修

初心者が知っておくべき外来治療

第1部 オンデマンド配信
 令和5年11月10日(金) 10:00~12月2日(土) 23:00

1. 摂食障害の今 | 安藤哲也 [国際医療福祉大学]
2. 一般医でもできる初期治療 | 高倉修 [九州大学]
3. 摂食障害の理解~患者、家族にどう伝えるか~ | 佐藤康弘 [東北大学]
4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 | 吉内一浩 [東京大学]
5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法 | 山内常生 [大阪公立大学]
6. 小児科医が診る摂食障害 | 作田亮一 [埼玉医科大学埼玉医療センター]
7. 産婦人科領域における摂食障害への対応 | 小川真里子 [東京医科大学市川総合病院]

第2部 ライブ配信
 令和5年12月3日(日) 9:30~12:00

8. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ | 田村奈穂 [国立国際医療]
9. 質疑応答 全講師
※講義のご質問に対し、運営事務局から回答をもちます。後日配信は行いません。

対象 | 摂食障害に関心を有する医療従事者等
 第1部・2部どちらも参加できる方。
 会場 | オンライン開催
 参加費 | 3,000円
 定員 | 300名
 申込 | 下記URLからお申込みください。
(詳細も以下より参照ください。)
https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_RS.html
 締切 | 令和5年9月26日(火)
申込多数の際は、早期締め切り

お問い合わせ先 | 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害治療研修問い合わせ」

摂食障害入院治療研修

入院治療の留意点とコツ 第二回

対象 | 摂食障害入院治療を実施している施設の医療関係者
 会場 | オンライン開催
 参加費 | 無料
 定員 | 400名
 申込 | 下記URLからお申込みください。(詳細も以下より参照ください)
<https://www.edportal.jp/pro/investigation.html>
 締切 | 令和5年12月1日(金) 過ぎあり

第1部 オンデマンド配信
 令和5年12月11日(月) 10:00~令和6年1月31日(水) 23:00

1. 摂食障害診療総論 | 竹林淳和 [浜松医科大学医師]
2. 入院治療プログラムの解説 | 竹林淳和 [浜松医科大学医師]
3. 看護士の関わり方: 業務手順や患者説明 | 野村美裕、鈴木麻友子 [浜松医科大学看護師]
4. 心理師の関わり方: 心理教育、疾病教育、家族指導、家族教育の運営 | 望月洋介 [浜松医科大学心臓士]
5. 栄養士の関わり方: デイケアでの患者指導、医師との連携 | 位田文香 [浜松医科大学栄養士]
6. 地域医療連携の構築 | 竹林淳和 [浜松医科大学医師]

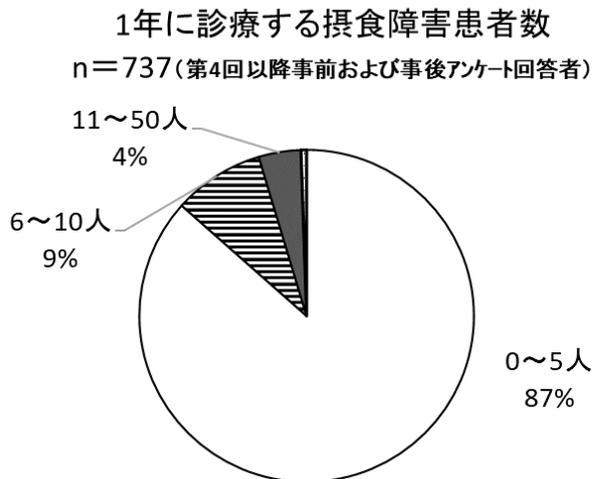
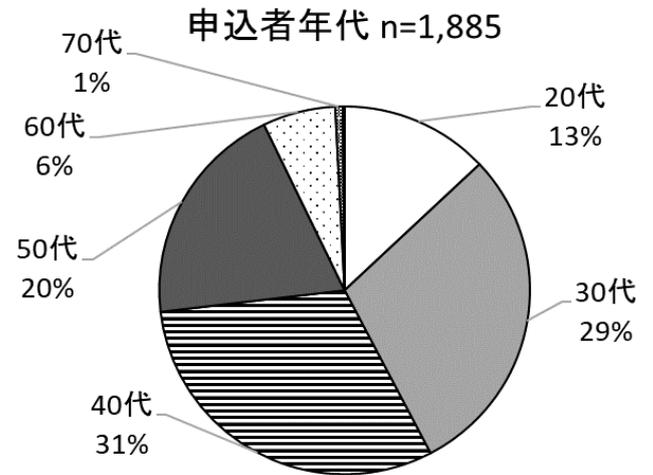
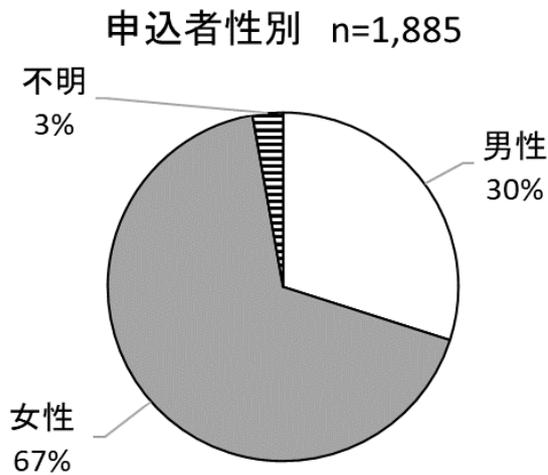
第2部 ライブ配信
 令和6年1月19日(金) 15:00~17:00

7. 質疑応答 | 竹林淳和、野村美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香
※講義のご質問に対し、運営事務局から回答をもちます。後日配信は行いません。

お問い合わせ先 | 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害 入院治療研修 問い合わせ」

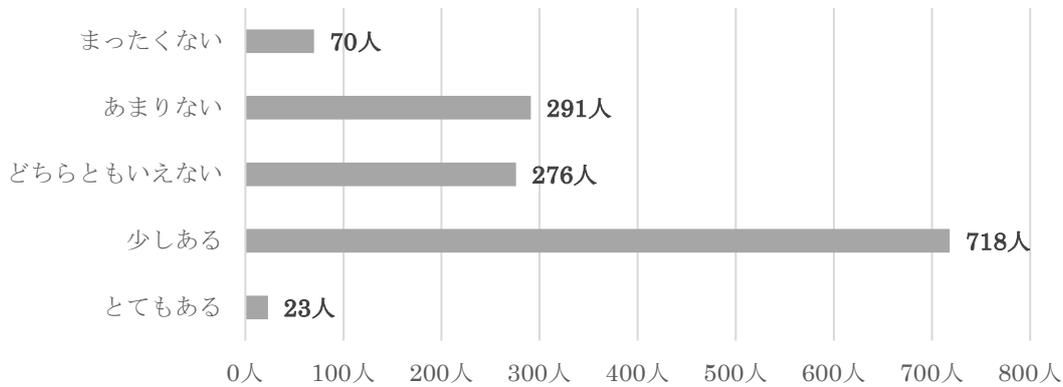
研修会アンケート結果(2021年度-2023年度:初心者が知っておくべき外来治療)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信参加者(名)	事後アンケート回答者(名)	備考
第1回(2021.1.24)	351	326	305	
第2回(2021.12.5)	446	227	241	オンデマンドで閲覧可能にした
第3回(2022.2.27)	227	121	126	身体管理・専門家連携を追加
第4回(2022.8.28)	217	170	176	産婦人科・小児科を追加
第5回(2022.12.4)	149	122	120	
第6回(2023.5.13)	225	191	178	
第7回(2023.12.3)	270	223	232	
合計	1,885	1,380	1,378	



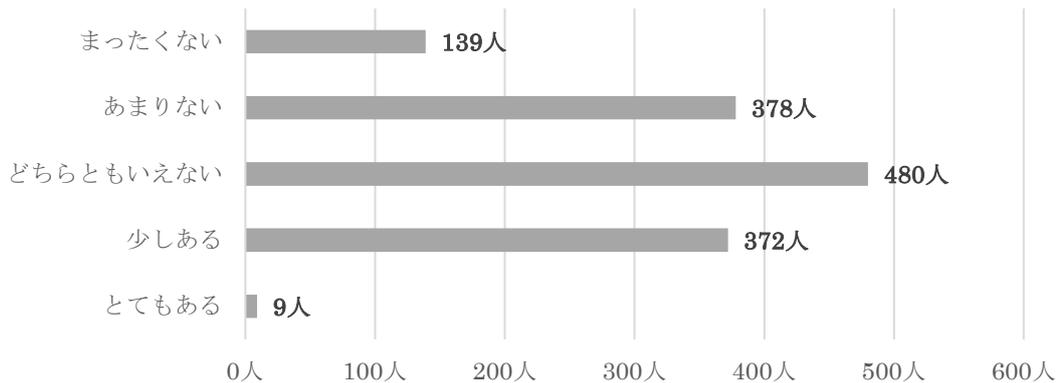
摂食障害患者を外来で治療するための知識はありますか？

【研修後】 n=1,378



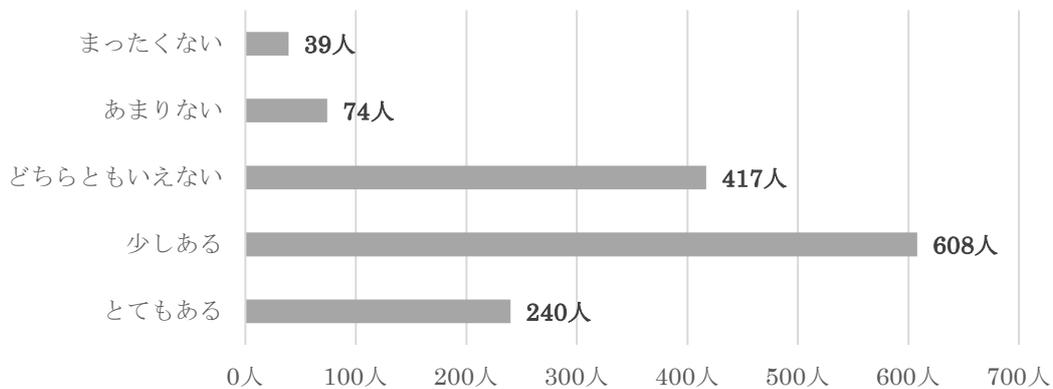
摂食障害患者を外来で治療するための自信はありますか？

【研修後】 n=1,378



摂食障害患者を外来で治療したいと思いますか？

【研修後】 n=1,378



7. 普及啓発活動

普及啓発活動・計画

1. 情報ウェブサイトコンテンツの更新・拡充を実施する。令和6年の3月頃までに実施する。
2. 日本摂食障害協会と共催し、世界摂食障害アクションデイ2023にて当事者向け企画を開催する。従来/新規メディア関係者に登壇を依頼し、摂食障害とメディアとの良い関係性を構築するため議論を行う。

普及啓発活動・結果

1. 摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営

- ・ 摂食障害情報ポータルサイト(一般向け、専門職向け)運営委員を実施団体5名で構成した。
- ・ 令和2年度障害者福祉推進事業「摂食障害の実態把握及び後事例の把握に関する検討事業」の成果物である「摂食障害を診療している医療機関リスト -Web版-」を摂食障害情報ポータルサイトへ掲載している(2022年10月リリース)。受診先に困っている摂食障害患者の受診の一助になると考えている。軽微な情報修正を年2回程度行った(2024年2月リリース)。
- ・ ポータルサイトの一部のコンテンツを更新した。摂食障害と歯の原稿依頼をした。
- ・ ポータルサイトにおいて、随時イベント、研修案内、摂食障害に関する情報を掲載した。全国支援センターHPのコンテンツを更新した。
- ・ 国府台病院にて摂食障害「相談ほっとライン」のホームページを更新し、SNS(Twitter)においても情報を発信し啓蒙に努めた。
- ・ 令和4年1月～令和5年12月までの12ヶ月間で一般向け、専門向け合わせ1,096,010ページビュー、576,595ユーザーのアクセスがあった。ページビュー数は前年比82%、ユーザー数は同98%であり、今年度はいずれも減少している。
- ・ サイト内で最もアクティブユーザー数が多いページは、一般サイト「摂食障害はどんな病気? | 摂食障害について」であった。
- ・ 摂食障害全国支援センターのHPページビュー数が73,520、ユーザー数30,736であった。ページビュー数は前年比91%で約1割減少し、ユーザー数同113%と約1割増加した。

2. 世界摂食障害アクションデイ2023

- ・ 2023年6月5日『世界摂食障害アクションデイ2023』の市民公開講座を、日本摂食障害協会との共催で、オンライン開催した。今年のテーマは「摂食障害とメディアの良い関係を目指して」であり、メディア関係者、摂食障害専門家に登壇頂き、取り組みを公表した。摂食障害患者を含めた260名にご参加いただいた。

3. メディア関連対応

- ・ メディアの取材に応じ、摂食障害という疾患について、摂食障害にまつわる医療体制の課題、本事業の活動などについて情報提供をした。
- ・ Googleと連携し、摂食障害と検索するとOne Box(検索結果の上に表示される情報部分)に摂食障害相談「ほっとライン」の相談日と電話番号が掲載されるようにした。

ウェブサイトへのアクセス状況

2023年1月～2023年12月のセッション数、ページビュー数、ユーザー数（新規・リピーターユーザー数）を表1に示す。また2018年度から2023年度までのアクセス数の経過を図1,2に示す。

集計は、Google アナリティクスを用いて下記の定義で実施した。

- ・ページビュー数：ユーザーが表示したウェブページの数、
- ・セッション数：ユーザーが訪問した数
- ・ユーザー数：アクセスした個別ユーザー
- ・アクティブユーザー：アクセスしたユーザーの延べ数

摂食障害情報ポータルサイトは、ページビュー数、セッション数、ユーザー数のいずれの項目も前年と比較して減少した。2019年以降ユーザー数、セッション数共に年々減少している。摂食障害全国支援センターHPは、ユーザー数のみわずかに増加し、2020年以降ユーザー数、セッション数共に年々増加している。

各サイトの都道府県別のアクティブユーザー数を表2に示す。支援センターも、ポータルサイトも上位10県は、東京や神奈川、千葉、埼玉などの首都圏と、北海道、関西、中部、九州の主要都市であり、人口に比例した可能性があった。

表1 インターネット閲覧回数

	ページビュー数	セッション数	ユーザー数	新規	リピーター
摂食障害情報ポータルサイト	1,096,010 (82%)	692,139 (91%)	576,595 (98%)	554,322	22,273
摂食障害全国支援センターHP	73,520 (91%)	36,003 (100%)	30,736 (113%)	27,386	3,350

() 内は前年比

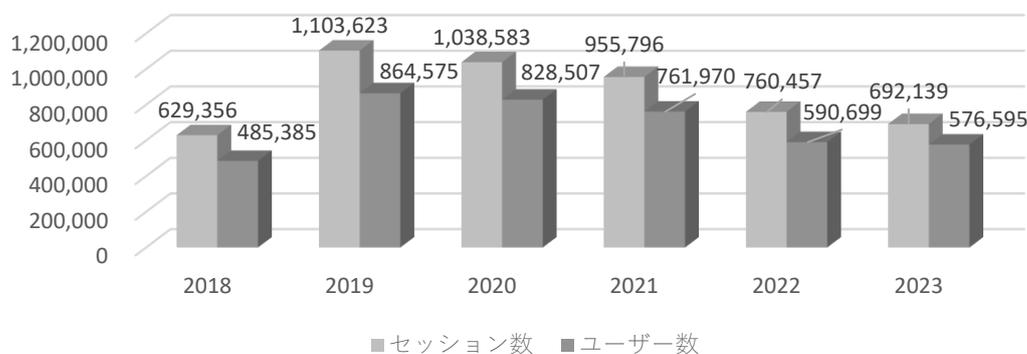


図1 摂食障害情報ポータルサイトのアクセス数

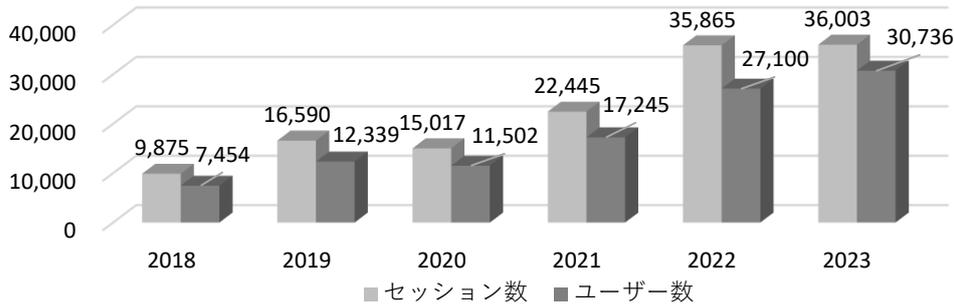


図2 摂食障害全国支援センターHPのアクセス数

表2 都道府県別アクティブユーザー数一覧

左：摂食障害全国支援センター 右：情報ポータルサイト (2023/7/1-12/31)

地域	アクティブユーザー数	地域	アクティブユーザー数
1 Tokyo	4007	24 Yamagata	118
2 Osaka	874	25 Yamanashi	116
3 Kanagawa	683	26 Gifu	114
4 Chiba	614	27 Iwate	109
5 Hokkaido	572	28 Ishikawa	105
6 Saitama	568	29 Kagawa	95
7 Aichi	425	30 Nara	92
8 Hyogo	401	31 Fukui	72
9 Fukuoka	351	32 Toyama	69
10 Kyoto	296	33 Shiga	68
11 Ibaraki	281	34 Yamaguchi	67
12 Tochigi	236	35 Fukushima	63
13 Ehime	214	36 Okinawa	50
14 Hiroshima	207	37 Wakayama	48
15 Shizuoka	203	38 Miyazaki	45
16 Nagano	183	39 Nagasaki	43
17 Niigata	172	40 Tokushima	43
18 Mie	166	41 Oita	41
19 Miyagi	154	42 Kumamoto	38
20 Shimane	140	43 Akita	35
21 Aomori	130	44 Kagoshima	33
22 Gunma	127	45 Tottori	31
23 Okayama	123	46 Saga	28
		47 Kochi	26
		1 Tokyo	89904
		2 Osaka	21660
		3 Hokkaido	17544
		4 Chiba	13601
		5 Kanagawa	10499
		6 Saitama	9949
		7 Hyogo	8642
		8 Aichi	8592
		9 Fukuoka	8524
		10 Kyoto	8171
		11 Ehime	8156
		12 Ibaraki	7506
		13 Tochigi	7330
		14 Hiroshima	6292
		15 Mie	5506
		16 Niigata	5493
		17 Shizuoka	5205
		18 Aomori	4628
		19 Shimane	4405
		20 Yamagata	4355
		21 Gunma	4132
		22 Iwate	3492
		23 Okayama	3367
		24 Nagano	3090
		25 Yamanashi	3047
		26 Gifu	2918
		27 Kagawa	2766
		28 Miyagi	2303
		29 Fukushima	2271
		30 Shiga	1396
		31 Yamaguchi	1323
		32 Nara	1306
		33 Ishikawa	1134
		34 Kumamoto	1128
		35 Nagasaki	1073
		36 Toyama	1066
		37 Oita	1058
		38 Kagoshima	1026
		39 Wakayama	1018
		40 Tokushima	1003
		41 Miyazaki	995
		42 Okinawa	994
		43 Fukui	953
		44 Saga	757
		45 Akita	734
		46 Kochi	677
		47 Tottori	544

各コンテンツへのアクセス状況

ポータルサイト（一般の方向け）のコンテンツでは、「よくある相談」への訪問者が最も多かった（図3）。また「摂食障害について」「摂食障害で悩んでいる方へ」のページのさらに深い層のコンテンツである「摂食障害はどんな病気？」「摂食障害のサイン」への訪問者も多く、症状の特徴・サインについて情報を求めている様子が認められた（図4）。「摂食障害を支える周囲の方へ」の嘔吐や下剤乱用、子どもの摂食障害への訪問者数も多かった（図4）。

ポータルサイト（専門の方向け）のコンテンツでは摂食障害の概説と疫学が最も多く、ついで治療やガイドラインへの訪問者が多かった。摂食障害の疾患への理解と治療方法やガイドラインの情報を求めている可能性があった（図5）。

摂食障害全国支援センターウェブサイトにおいては、「相談窓口」、「拠点病院設置サポート」、「調査・研究」の訪問者数が多かった。「相談窓口」のページには、摂食障害相談ほっとラインのURLやリーフレットのリンクが埋め込まれている。直帰率は、訪問者が他のWebサイトへ移行した確率を示すが、「相談窓口」は直帰率が高く（81.6%）、訪問者は相談先を求めて本サイトを訪問した可能性もあった（図6）。

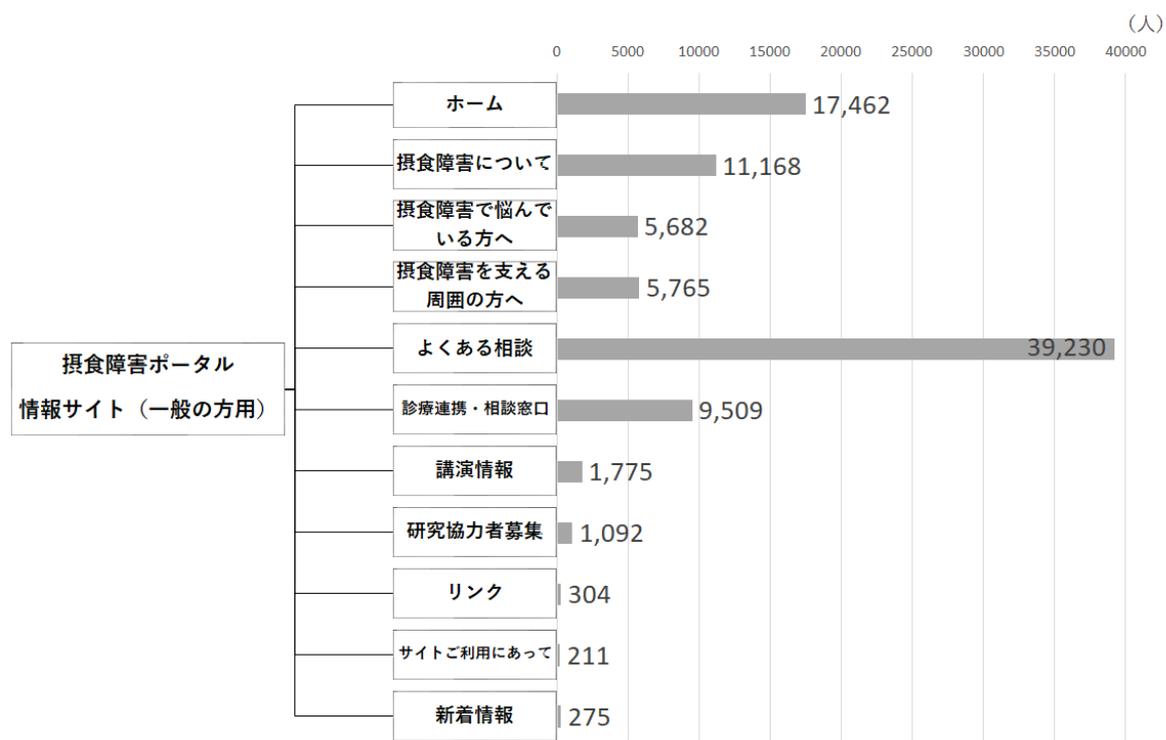


図3 摂食障害情報ポータルサイト（専門職の方） 各ページのアクティブユーザー数

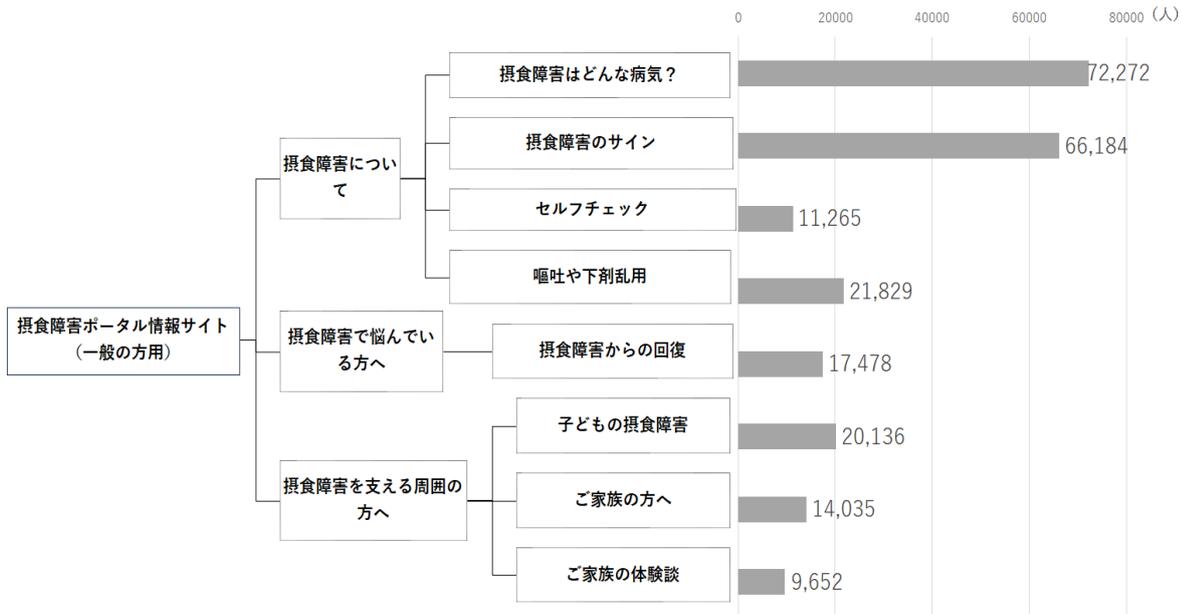


図4 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方） 各ページのアクティブユーザー数

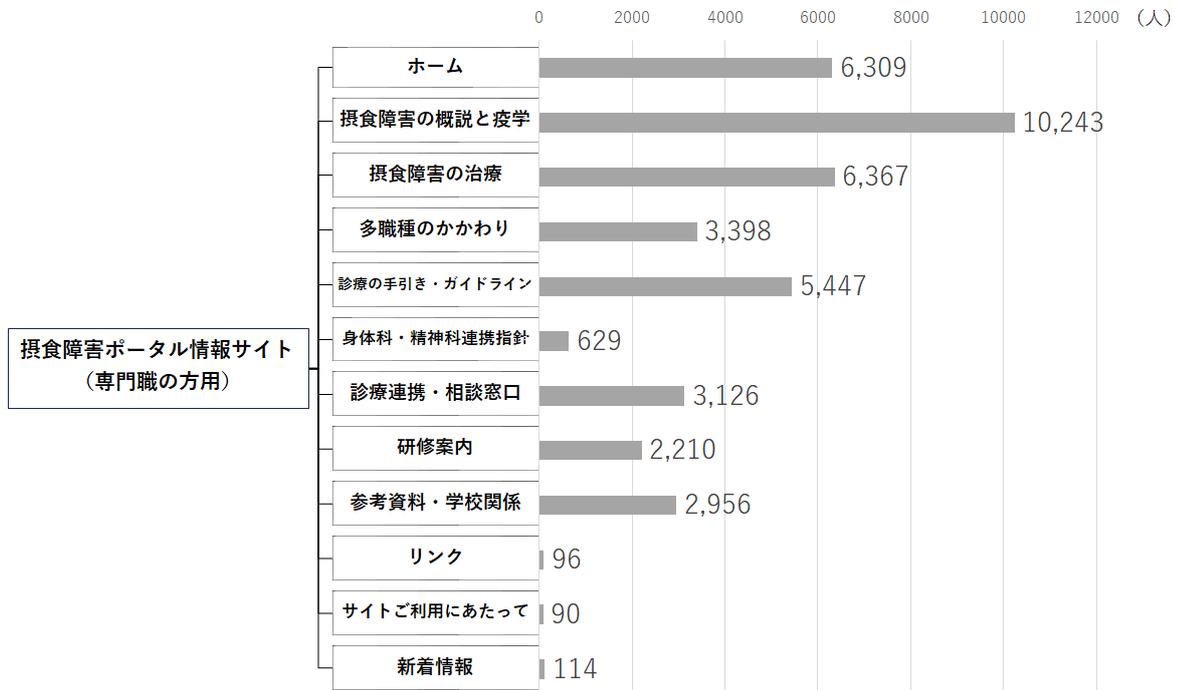


図5 摂食障害情報ポータルサイト（専門職の方） 各ページのアクティブユーザー数

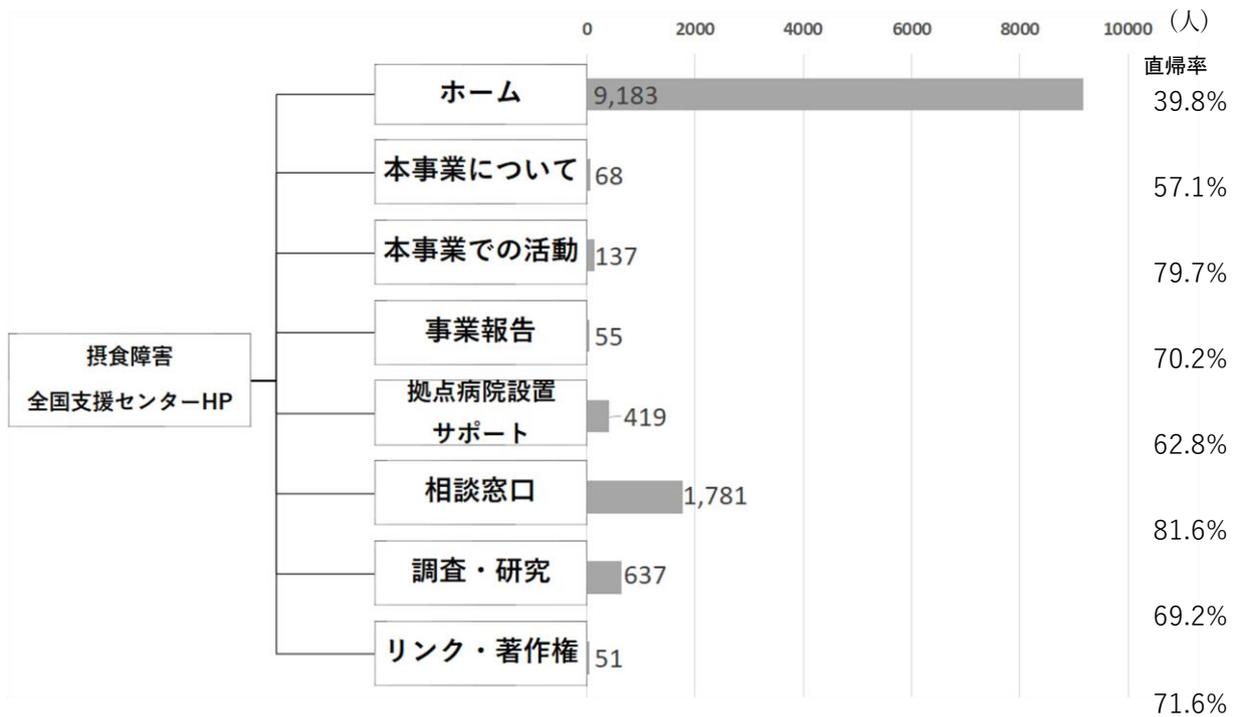


図6 摂食障害全国支援センターHP 各ページのアクティブユーザー数と直帰率

メディア対応（取材に応じかつ記事がリリースされたもののみ掲載）

「摂食障害 学校で対応」6割 身体計測などで判明 養護教諭調査 摂食障害全国支援センター・関口敦センター長の話	
リンク	https://mainichi.jp/articles/20230605/ddm/001/040/145000c
メディア媒体	毎日新聞
公表日	2023年6月5日朝刊一面 2
取材対応	関口敦
オトナとコドモ 痩せたい気持ちとどう行き合う？	
リンク	なし
メディア媒体	共同印刷 美的 GRAND 夏号 p122-125 び・い・く 親と子の美容英才教育プロジェクト
発行日	2023年6月12日
取材対応	取材対応はなし 記事に摂食障害情報ポータルサイトの情報が掲載された

世界摂食障害アクションデイ 2023

世界摂食障害 アクションデイ 2023

～摂食障害とメディアの
良い関係をめざして～

2023年
6月4日 日
▶13:00～16:00
オンライン開催 (Zoom)

プログラム構成

- 1 開会挨拶
- 2 来賓挨拶
- 3 調査レポート
「養護教諭を調査対象とした
コロナ禍での10代摂食障害の影響調査」
- 4 全国に広げる支援体制
～摂食障害治療・支援体制拡充への取り組み～
- 5 2022年度&2023年度の活動報告
- 6 日本摂食障害協会学生部の発足とSNS運用について
- 7 調査レポート
「インターネットやSNSなどの利用について」
- 8 メディア/プラットフォーム事業者による取り組みについて
- 9 総会討論
- 10 閉会挨拶

世界摂食障害アクションデイは、2016年より世界的に始まった運動で、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行う「世界摂食障害アクションデイ—World Eating Disorders Action Day—」が今年も開催されます。摂食障害について1人でも多くの方に知っていただくことを目標に掲げ、メディアなどを活用して行動を起こし、全世界で摂食障害に対する意識を高めることを目指します。

コロナ禍を経験した近年、インターネットやSNSを見る時間が増え、「コロナ太り」「ダイエット」などの関連記事や動画が多く公開され、目にする機会も増えました。昨年行った協会の調査でも約62%の方が、「調べた情報を参考に自分で試したことがあった」と回答をしています。

そこで、本年は、「摂食障害とメディアの良い関係をめざして」をテーマに、協会で行った実態調査発表や、プラットフォーム事業者や専門家、メディア関係者と一緒にインターネットやSNSの現状と利用の仕方などを一緒に考えていきます。

参加申し込み方法

対象：当事者、ご家族、支援者、メディア関係者、救済関係者、セルフヘルプグループ、家族会、学校関係者、スポーツ関係者など ※摂食障害に関心のある方、勉強をされたい方など、どなたでもご参加頂けます。
参加費：無料 (要事前申し込み・定員 300名・先着順)

一般社団法人日本摂食障害協会のホームページ <https://www.jafed.jp/world-eating-disorders-action-day/>
または右のQRコードよりアクセスしていただき、必要事項をご入力の上、お申込みください。
※定員に達した場合は申し込みを終了させていただきますので、あらかじめご了承ください。
※フリーアドレスやパソコン環境で受信できるアドレスを推奨します。



●主催 摂食障害全国支援センター、一般社団法人 日本摂食障害協会

後援：文部科学省、法務省、東京都、大阪府教育委員会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本栄養士会、公益社団法人日本産婦人科医会、公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本女医会、公益社団法人日本精神神経学会、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本ヘルスケア協会、一般社団法人日本内分泌学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人日本社会精神医学会、一般社団法人日本女性心身医学会、一般社団法人日本心身医学会、一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人スロー・カリフォルニア研究会、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会、一般社団法人日本体力医学会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人パーソナルトレーナー協会、一般社団法人美容サロン協議会、一般社団法人ミス日本協会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会、特定非営利活動法人日本心療内科学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、日本摂食障害学会、日本スポーツ精神医学会、ランニング学会、女性スポーツ医学研究会 (順不同・36団体)

お問い合わせ 摂食障害全国支援センター Eメール EDcenter@ncnp.go.jp



8. 考察

令和5年度は、福井県に新規指定された摂食障がい支援拠点病院の設置や、摂食障害入院医療管理加算の要件緩和に伴う入院治療研修会の開催など、前年度に引き続き、摂食障害支援の充実を目指した活動を展開した1年であった。特に、静岡県における摂食障害診療連携体制をフォーマットとした『摂食障害診療連携モデル』を提唱し、摂食障害全国支援センターと既存の支援拠点病院から支援拠点病院の新規指定のサポートのノウハウを蓄積し『摂食障害支援拠点病院設置準備サポート』と銘打って、全国各地の医療機関や自治体に向けて支援拠点病院設置を促す活動を展開することができた。本年度の成果と新たに浮かび上がった課題を振り返り、さらなる事業運営体制の強化に向けた考察を行う。

本年度最大の成果の一つは、福井県に新規指定された摂食障がい支援拠点病院の指定である。昨年度の石川県に続く新規指定であり、北陸地方における摂食障害の診療体制が一層強化された。更に、静岡県の好事例を『摂食障害診療連携モデル』として提唱し、全国的な摂食障害診療連携の展開に明確な方向性を示すことができた。また、入院治療研修会において、静岡県における入院治療と多職種連携、県内の診療連携フォーマットに関する講義を行い、全国の摂食障害入院診療施設における摂食障害治療の質の向上に寄与した。国府台病院に委託している摂食障害「相談ほっとライン」の相談日の維持など、既存の支援体制の維持強化も進められた。これらの取り組みは、摂食障害支援の質の向上と、支援体制の充実に寄与している。

しかし、新規支援拠点病院の指定や研修会の開催にもかかわらず、摂食障害治療に対する認識の低さや診療体制の不足が依然として課題として残っている。特に、小児例に対する摂食障害の支援者支援のニーズの高さが確認されたことは、今後の活動方針において重要な指標となる。これに対応するため、日本摂食障害学会や厚生労働省研究班と連携し、小児科診療従事者を対象とした研修会の開催準備を進めることができた。

また、支援拠点病院の設置準備サポートの定式化による新規支援拠点病院の指定に向けた動きは加速度的に拡大しているが、依然として新規指定には困難が伴う。特に、医療機関や自治体が摂食障害支援のニーズを十分に把握していない、摂食障害対策の優先度を上げられない、現状の診療体制に問題を感じていないといった声は、前年度からの課題として引き続き多くの地域から聞かれる。これらの課題を克服し、より多くの支援拠点病院の設置を促進するためには、全国支援センターとしてのさらなる取り組みが求められる。

最後に、普及啓発活動においても、情報ウェブサイトの運営や日本摂食障害協会との協働による世界摂食障害アクションデイの開催、各種メディア対応を通じて、摂食障害に関する正しい知識の普及と啓発を継続して行った。これらの活動は、摂食障害のスティグマ対策にも寄与しており、今後も継続的に行う必要がある。

令和5年度の活動を通じて、摂食障害支援の質の向上と体制の強化が進められたが、依然として解決すべき課題が多く残る。これらの課題に対応し、さらなる支援体制の充実を目指すためには、学会、協会、医療機関、自治体、関係省庁、マスメディア、企業などの関係機関との連携をさらに深め、全国的な摂食障害支援のネットワークを強化していく必要がある。

3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 5 年度

宮城県摂食障害支援拠点病院

Miyagi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院心療 内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区 星陵町 1-1	022-717-7328

URL 宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
福土 審	東北大学大学院医学系研究科心療内科学/ 東北大学病院心療内科	教授/科長
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	講師
金澤 素	東北大学大学院医学系研究科心療内科学/ 東北大学病院心療内科	准教授/副科長
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

2. 要旨

摂食障害支援拠点病院では、摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

相談支援では 相談体制を専用回線、専用メールアドレスにて週 3 日相談を受付。コーディネーターが相談内容を聞きとり、医師と相談し回答。今年度（4-11 月期間）は新規相談 119 件、延べ相談 447 件で、若年層(0-20 代)の新規相談対象患者が 6 割近くを占め、未就学児の相談も寄せられた。

治療支援にては 昨年度、増加していた摂食障害の新規患者数が、今年度（4-11 月期間）においては一旦ピークアウトにも見えるが、若年層の割合は多く、治療支援においても 10 歳以下の患者がいた。

研修において 院内での症例検討会、連携病院との研修を継続しておこなった。

啓発普及活動 継続して市民公開講座、家族教室を開催。参加者は依然多く、市民の摂食障害への強い関心と同時に問題意識の高さが伺える。

行政とは、 摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

その他の活動 ホームページや SNS を活用して啓蒙活動を継続。

考察 相談支援、治療支援においても、対象患者となる若年層の割合が減ることはなく、低年齢化が止まらない状況と考えられる。今後も摂食障害についての相談、早期治療につながる継続的支援が不可欠である。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	福土 審	医師（東北大学病院心療内科 科長、医学系研究科心療内科学 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	富田 博秋	医師（東北大学病院精神科、医学系研究科精神神経学分野 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	佐藤 康弘	医師（東北大学病院心療内科 講師）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	金澤 素	医師（東北大学医学系研究科心療内科学 准教授、病院心療内科副科長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	村上 靖	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 室長）	県保健福祉部精神保健推進室
同上	大内 浩昭	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 発達障害・療育支援班 室長補佐（班長）	県保健福祉部精神保健推進室
同上	小原 聡子	医師（精神保健福祉センター 所長）	県精神保健福祉センター
同上	石川 達	医師（東北会病院 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	野村 泰輔	医師（のむら内科・心療内科クリニック 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	船越 俊一	医師（宮城県精神医療センター 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	遠藤 由香	医師（広瀬病院）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	町田 知美	医師（東北労災病院心療内科 副部長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	小川 美穂	宮城県仙台保健福祉事務所（塩釜保健所） 地域保健福祉部総括技術次長	保健所
同上	〇〇〇〇〇	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	〇〇〇〇	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和5年5月26日	令和5年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について
第2回	令和6年1月19日	令和5年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告について

4. 相談支援

相談体制

専用回線、専用メールアドレスにて、火～木曜日の週3日にて相談を受付。

コーディネーターが相談内容（相談者の属性、相談対象者の困っている症状や状態、性別、年齢、身長、体重、医療機関受診の有無、お住まいの地域）を聞きとり、医師と相談後、対応について回答。

対応相談

摂食障害の症状、状態に応じ、医師と相談し、対応を回答する。摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引きの使用や、摂食障害ポータルサイト、「学校と医療のより良い連携のための対応指針」、EAT119、書籍、自助グループ等を紹介。

受診相談

県内対象者の場合

対象者の状態に応じて拠点病院の連携医療機関やカウンセリングを希望の場合には相談機関を案内。

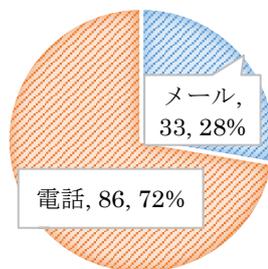
県外対象者の場合

摂食障害ポータルサイト上の「摂食障害相談施設リスト」に掲載されている対象者の住まい地域の自治体にある医療機関や、各都道府県の精神保健福祉センターの連絡先を案内。

相談支援結果

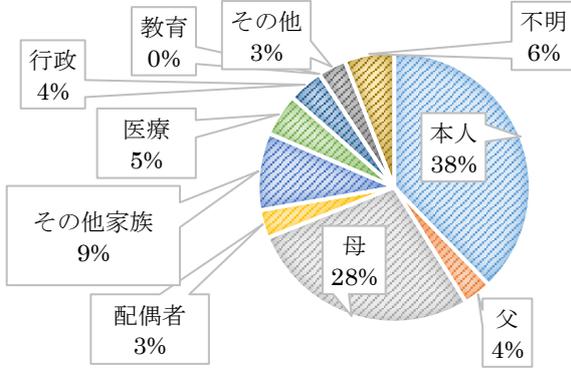
令和5年4～11月までの相談延べ件数は447件（R4年4～11月：433件）、新規相談件数は119件（R4年4～11月：111件）で、昨年同時期より多かった。新規相談件数119件の内訳は、電話相談が86件（72%）、メール相談が33件（28%）であった。

相談経路別内訳119件



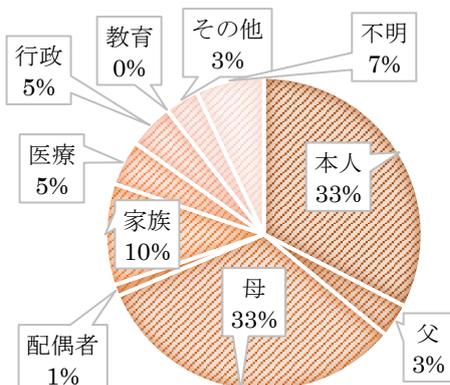
新規相談の7割が電話相談。

新規相談者内訳119件

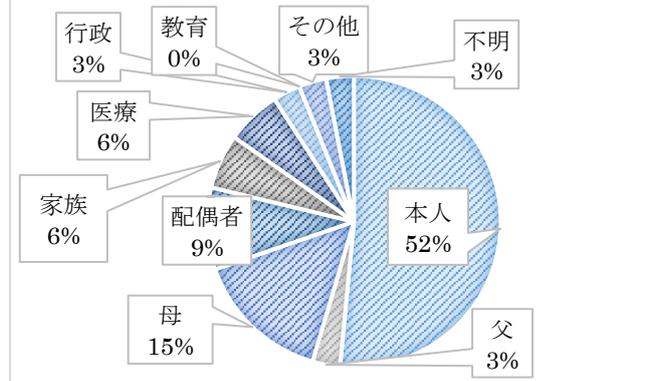


新規相談の4割が本人、次いで3割が母親である。

新規電話相談者内訳86件



新規メール相談者内訳33件

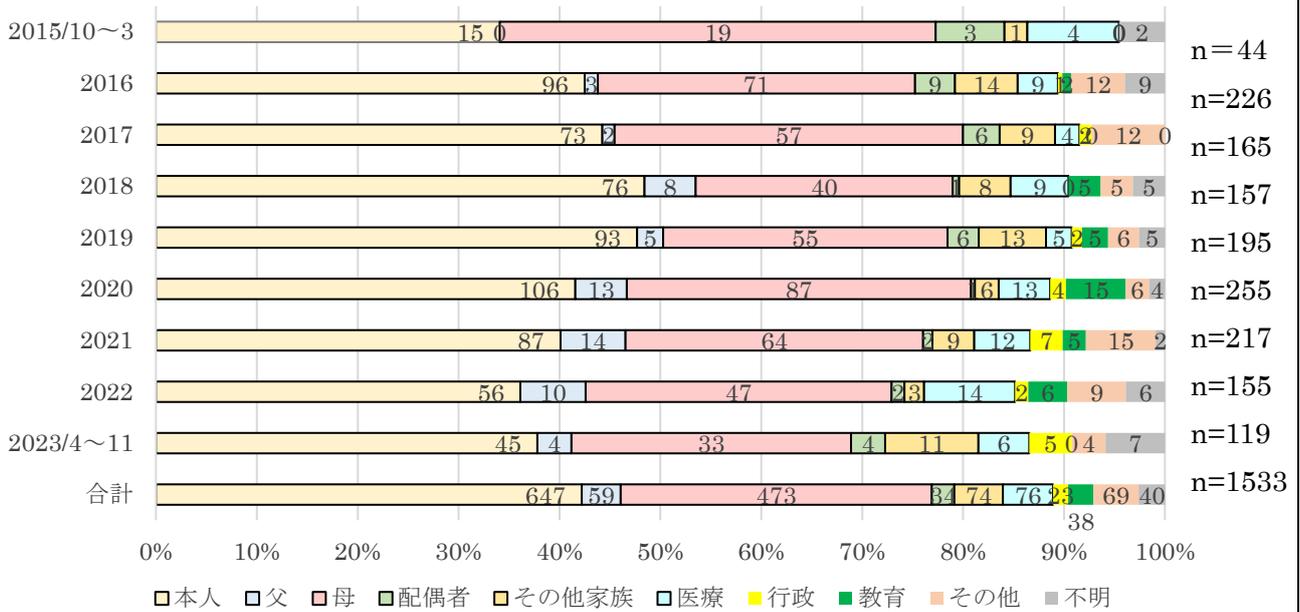


※グラフの「家族」は、父母以外の家族からの相談※

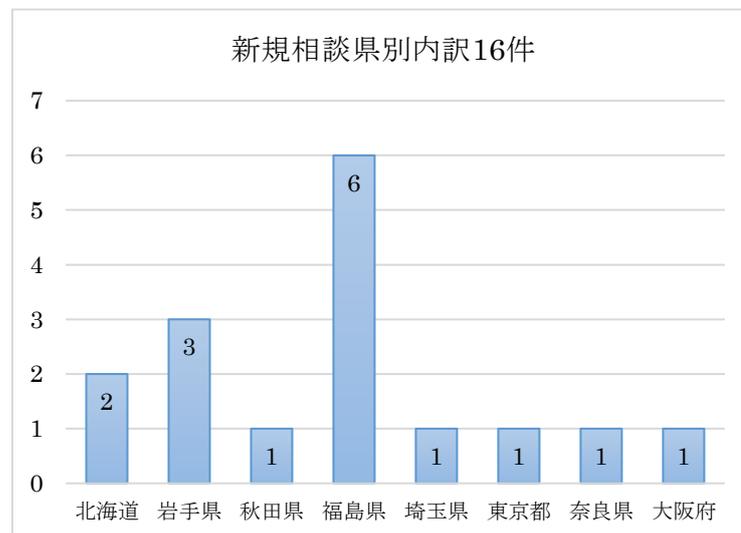
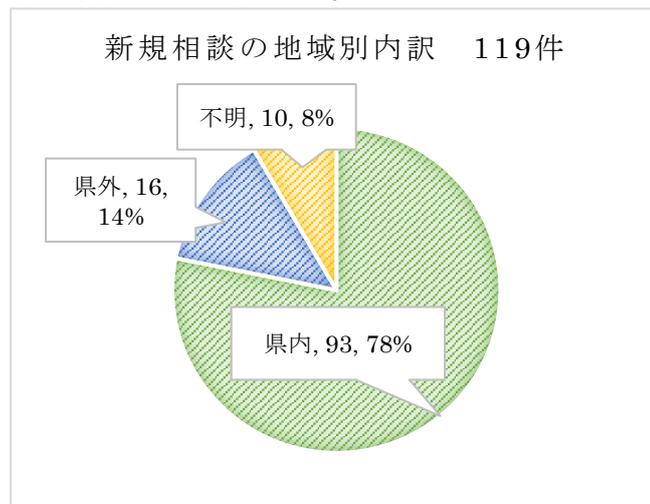
電話相談は、本人と母からの相談が7割近くを占め、メール相談は、半数が本人からであった。

経年推移で見ても、本人、母からの相談が多い。

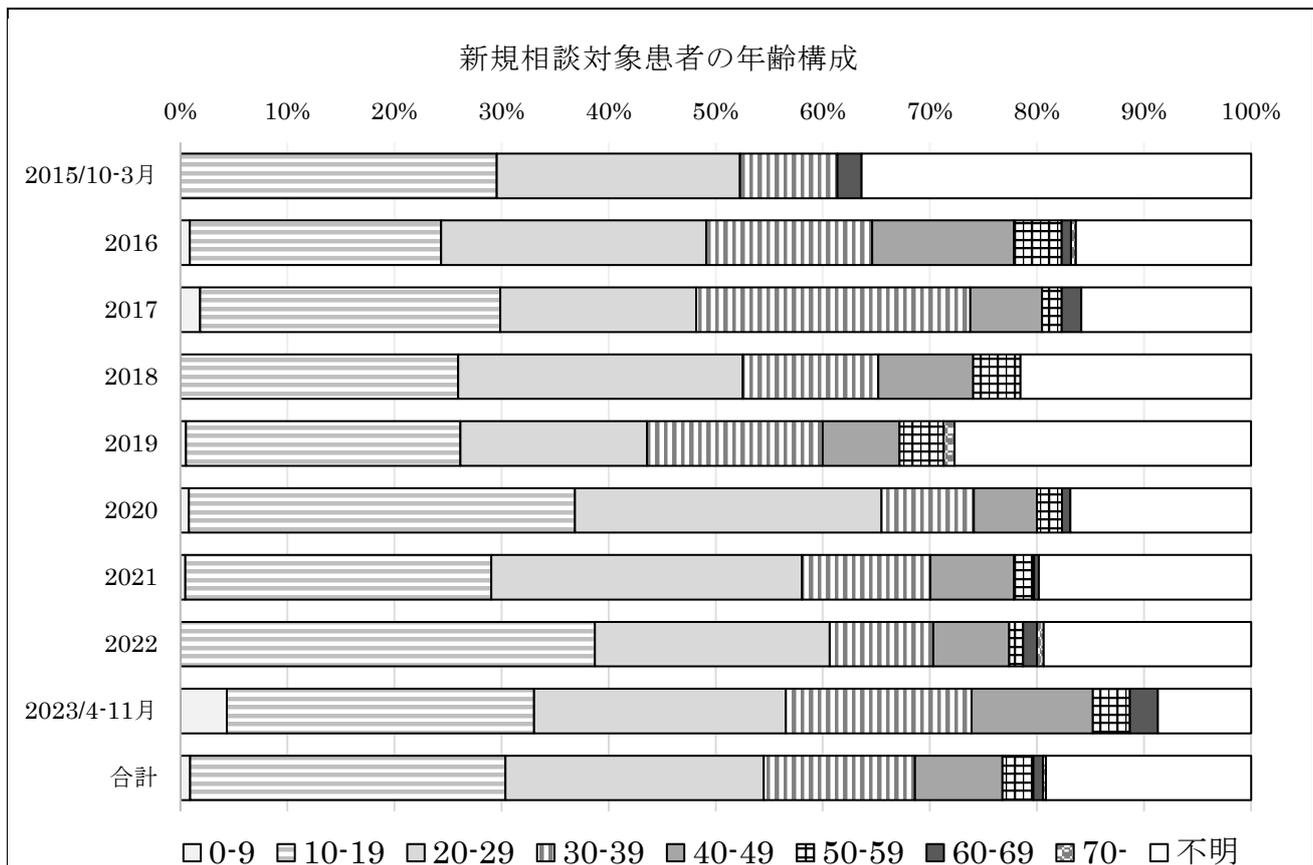
新規相談者（経年変化）



また、地域別の相談内訳では、県内からの相談が8割近く（その内：仙台市56件60.2%であり、県内の6割を占める）、県外からの相談が2割近かった。



県外からの相談は6割が隣県の東北地方からであり、地域を問わず相談窓口が必要とされている。



経年推移で見ても、0-20代の若年層は半数の割合を占めている。

新規相談対象患者は0-20代の若年層が6割近く(65名:54.6%)を占めていた。昨年度は相談がなかった10歳以下の相談が5件寄せられ、なかには未就学児もおり、摂食障害の低年化がみられた。

相談内容としては、相談対象患者が、「摂食障害と考えられるが摂食障害でしょうか」、「嘔吐しているのが分かるが注意してもよいか」など摂食障害の状況についての不安や心配が寄せられた。

また、治療が必要な場合には、「何科に行ったらよいか」、「患者にどう声をかけ医療機関に連れていけばよいか」、「体調が悪そうだが本人が拒否して病院に行ってくれない」といった相談が寄せられた。

そして、摂食障害からの回復には時間がかかる現実から悲観する相談者も多く、治らない病気ではないことを繰り返し伝えた。

情報提供としては、ポータルサイトや書籍の紹介、県外からの相談であれば、「摂食障害治療施設リスト」の案内、またそれに掲載されているお住まい地域のある医療機関を紹介、各都道府県の精神保健福祉センターの案内、EAT119 林利香さんのホームページなどの紹介をおこなった。

相談件数 期間:R5.4-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
119	447

地域(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

県内	県外	不明	計
93	16	10	119

相談者(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
45	4	33	4	11	6	5	0	4	7	119

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 119 平均年齢: SD= ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
5	33	27	20	13	4	3	0	10	4	119

相談対象患者の性別(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
101	6	0	8	4	119

相談対象患者状態(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
71	66	50	37	5	1	8	0	6	69	4	4	7	11

相談対象患者属性(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
8	7	18	12	28	16	9	2	15	4	119

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
49	14	30	11	1	10	4	119

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 119 期間:R5.4-R5.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
85	9	1	3	0	0	3	0	0	0	0	18

相談経路(延べ件数)n= 447 期間:R5.4-R5.11

電話	メール	面談	計
274	173	0	447

相談内容(延べ件数)n= 447 期間:R5.4-R5.11

疾患相談	対応相談				受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
158	75	66	2	35	174	5	17	2

対応内容(延べ件数)n= 447 期間:R5.4-R5.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
162	82	64	23	14	186	175	181	137	2	96	5	19

家族支援

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R5.8.26	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	65	「摂食障害-よくある誤解を解く-」 講師： 政策研究大学院大学名誉教授 跡見学園女子大学心理学部 臨床心理学科 特任教授 鈴木 眞理	Web
R6.3.8予定	摂食障害患者の家族		「家族にできるサポート」 講師： 東北大学病院心療内科講師 佐藤 康弘 講師：文教大学人間科学部臨床心理学科 特任専任講師 小原 千郷	Web

5.治療支援

治療体制・計画

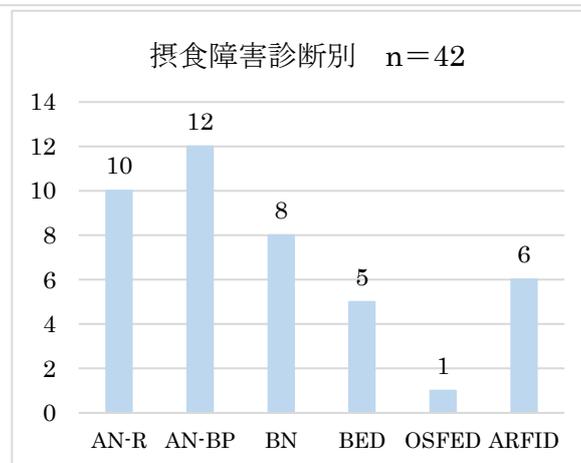
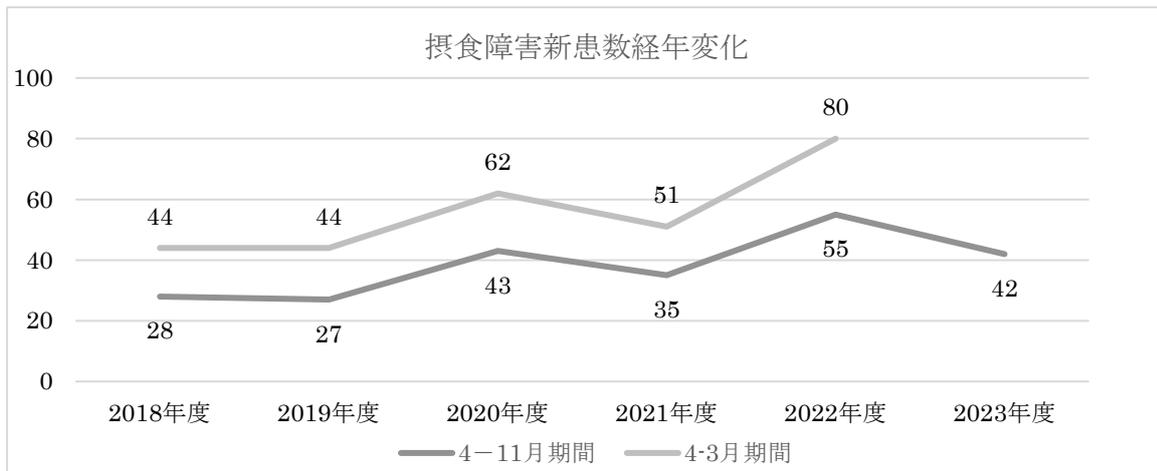
治療体制は、心療内科医師 4 名、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、地域医療連携室等による多職種連携にて対応。拠点病院への相談や、医療機関からの相談による受診について対応。相談対象患者、患者の状況や状態によって、連携医療機関と連携構築。院内に摂食障害治療支援センター運営委員会を設置し、運営委員が所属する専門領域における摂食障害診療の望ましい運用とコンサルテーションに対応する。

治療支援実施結果

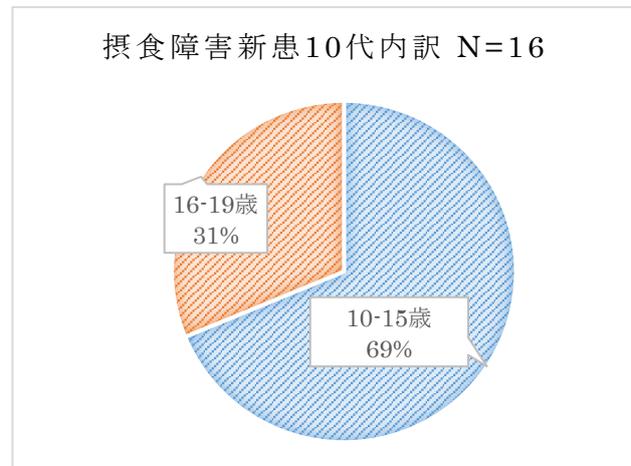
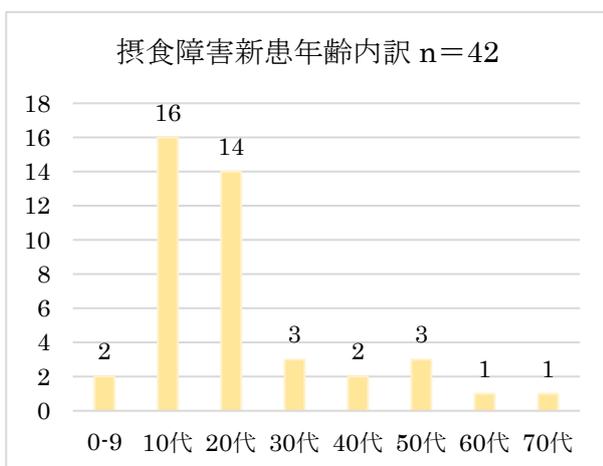
支援拠点病院設置病院 初診患者数 (R5.4- 11) 42 人 内、拠点病院経由での受診 21 人

初診患者数	42 人	性別	女性	37 人	男性	5 人		
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
	2 人	16 人	14 人	3 人	2 人	3 人	1 人	1 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	10 人	12 人	8 人	5 人	1 人	6 人		
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	33 人	0 人	9 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	2 人	3 人	13 人	2 人	4 人	5 人	12 人	1 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	27	5	2	8				

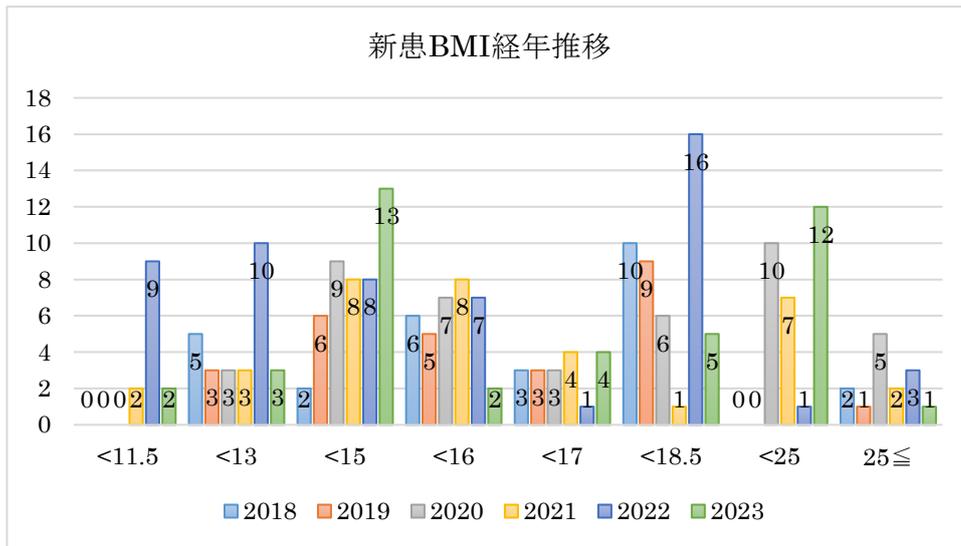
令和5年4～11月の間に東北大学病院心療内科を受診した摂食障害の新規外来患者数は42名(29.1%)であった。同期間の心療内科新規外来患者数の3割が摂食障害であった。



摂食障害の内訳は、神経性やせ症患者(AN)が22名(52.4%)、うち制限型(AN-R)10名(23.8%)、過食排出型(AN-BP)が12名(28.6%)。神経性過食症患者(BN)は8名(19%)、過食性障害患者(BED)5名(11.9%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者は6名(14.3%)、他の特定される食行動障害または摂食障害(OSFED)が1名(2.4%)で、神経性やせ症患者(AN)が変わらず多い。



年代別にみると、10代以下が2名(4.7%)、10代が16名(38.1%)、20代が14名(33.3%)で合わせて32名(76.2%)と、若年層(0～20代)が摂食障害新規患者数の8割近くを占めており、その内、拠点病院経由での若年層の割合は、17名(53%)であった。また、10代を10-15歳と、16-19歳で分けてみると、10-15歳11名(69%)、16-19歳5名(31%)と10代の内訳では、10-15歳が7割を占めていた。そして、摂食障害の新患の半数が拠点病院経由21名(50%)である。



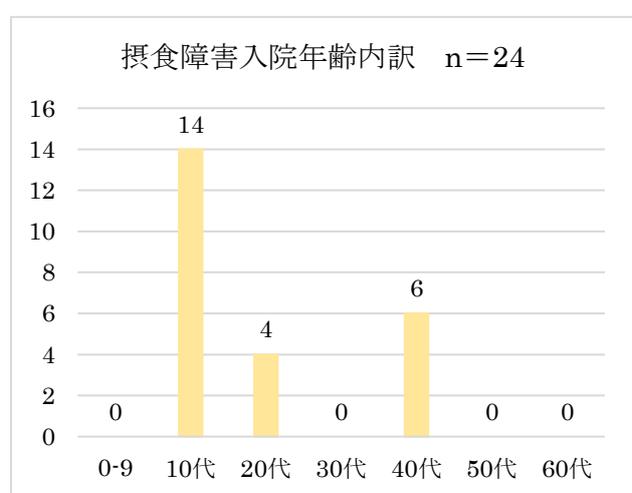
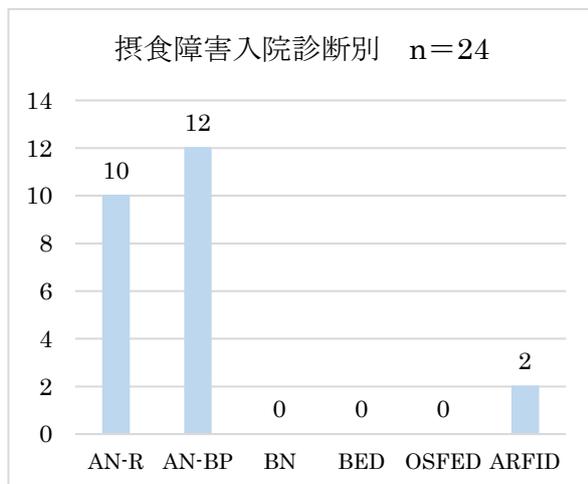
新患 BMI の経年推移では、2018-2020 年度（4-11 月同期間）まではゼロであった BMI<11.5 が 2021 年度より低体重群がみられ、今年度も 2 名いた。また今年度 BMI<15 と<25 の割合が多い。

支援拠点病院設置病院 入院患者数 24 人 (R5.4- 11)

入院患者性別	女性 23 人	男性 1 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	0 人	14 人	4 人	0 人	6 人	0 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	10 人	12 人	0 人	0 人	0 人	2 人		
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	2 人	9 人	13 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

東北大学病院心療内科への令和 5 年 4～11 月の間における摂食障害入院患者数は 24 名であった。

神経性やせ症(AN)患者が 22 名(91.7%)、うち制限型(AN-R)10 名(41.7%)、過食排出型(AN-BP)12 名(50%)、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者 2 名(8.3%)。



また、年代別では、10 代が 14 名（58.3%）と 6 割近くを占めており、昨年度同時期より 10 代の割合は増加していた。その 10 代 14 名を 10-15 歳と 16-19 歳で分けてみると、10-15 歳 10 名（71%）、16-19 歳 4 名（29%）で、新患数と同様に 10 代の中では 10-15 歳の割合が 7 割であった。

6. 研修

研修体制・計画

院内職員（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士、心理士ほか）ならびに関連機関において研修会をおこなう。院内および病院同士の連携を深めていくため、拠点病院職員が講義を行い、摂食障害の知識や連携を深める。

研修実施結果

昨年度から開始した院内 Web 連携ミーティングを定期的に継続する。また、令和 5 年 2 月よりおこなっている石巻赤十字病院小児科との Web 連携ミーティングを開催した。

講義を通して、関係機関や多職種連携、摂食障害へのサポート体制構築に努めた。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法（場所）
R5/4/5	石巻赤十字病院 小児科職員	10	第2回摂食障害治療連携ミーティング	Web
R5/7/3	院内精神科、心療内科、小児科職員	15	第9回摂食障害合同症例検討会	Web
R5/9/28	コーディネーター		摂食障害治療支援コーディネーター研修会	Web
R5/10/17	院内心療内科・小児科看護師	30	摂食障害の基礎知識と治療・看護	対面
R5/11/6	院内精神科、心療内科、小児科職員	22	第10回摂食障害合同症例検討会	Web
R6/3/4予定	院内精神科、心療内科、小児科職員		第11回摂食障害合同症例検討会	Web
R6/3月予定	院内職員		摂食障害の基礎知識と治療	東北労災病院

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

一般の人々に摂食障害の病態・治療および早期治療の重要性に関する知識を浸透させるため、摂食障害治療についての市民公開講座を開催する。さらに、令和6年3月には摂食障害治療の専門家を招き家族教室を開催する。また、拠点病院のホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連するイベント情報や医療従事者に対する研修会の案内などを掲載し普及啓発を行う。

普及啓発活動実施結果

令和5年8月に摂食障害治療についてオンライン市民公開講座を開催し、摂食障害の理解について啓蒙した。ホームページや、チラシなどの宣伝によって82名の事前申込みがあり、摂食障害への高い関心がうかがえ、当日の講演では多くの質問や感想が寄せられ、摂食障害に対して支援の必要性が多方面からあった。アンケート結果に寄せられた今後聞いてみたい内容として、「摂食障害のこころの治療」「摂食障害の外来治療」、「家族の接し方」が多かった。相談支援においても、家族が相談対象患者への接し方に苦慮し疲弊する声も寄せられることから、引き続き、患者をサポートする家族への支援が不可欠である。そういった家族支援の一つとして、継続している家族教室を令和6年3月に摂食障害治療の専門家を招き開催する。

また、拠点病院ホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連する情報の案内などを掲載し普及啓発を行った。

講演会

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R5/8/26	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	65	第10回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座 「摂食障害-よくある誤解を解く-」 講師：政策研究大学院大学名誉教授 跡見学園女子大学心理学部 臨床心理学科 特任教授 鈴木 眞理	Web
R6/3/8予定	摂食障害患者の家族		摂食障害の家族教室 「摂食障害のこと 最新版」 講師：東北大学病院心療内科講師 佐藤 康弘 「家族にできるサポート」 講師：文京大学人間科学部臨床心理学 科特任専任講師 小原千郷	Web

第10回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座チラシ

- ・宮城県内医療機関（精神科・心療内科・小児科・婦人科）/県内保健所・保健福祉センター、仙台市内市民センター /宮城県内小・中・高校・専門学校・大学 送付

R5/ 8/3 発刊 河北新報朝刊

摂食障害治療の道探る

26日オンライン市民講座

摂食障害治療の最新事情を紹介する市民公開講座が、26日（土）、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使ってオンライン配信される。主催は宮城県で、座長は県摂食障害支援拠点病院院長で東北大病院心療内科科長の福土審さんが務める。政策研究大学院大学名誉教授、跡見学園女子大学心理学部特任教授の鈴木真理さんが「摂食障害―よくある誤解を解く」と題して講演する。時間は午前10時～11時30分。50分の講演の後、30分間の質疑応答時間を設ける。

宮城県摂食障害支援拠点病院は厚生労働省と宮城県が2015年、東北大病院を連携内科内に開設した。心療内科内に開設した。申し込みはQRから。市長は県摂食障害支援拠点病院院長で東北大病院心療内科科長の福土審さんが務める。政策研究大学院大学名誉教授、跡見学園女子大学心理学部特任教授の鈴木真理さんが「摂食障害―よくある誤解を解く」と題して講演する。時間は午前10時～11時30分。50分の講演の後、30分間の質疑応答時間を設ける。

宮城県摂食障害支援拠点病院は厚生労働省と宮城県が2015年、東北大病院を連携内科内に開設した。心療内科内に開設した。申し込みはQRから。市長は県摂食障害支援拠点病院院長で東北大病院心療内科科長の福土審さんが務める。政策研究大学院大学名誉教授、跡見学園女子大学心理学部特任教授の鈴木真理さんが「摂食障害―よくある誤解を解く」と題して講演する。時間は午前10時～11時30分。50分の講演の後、30分間の質疑応答時間を設ける。



問い合わせは宮城県摂食障害支援拠点病院 022-71-12200

メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
R5/ 8/4 発行日	河北新報朝刊	第10回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載
R5/8/3 発刊日	河北ウィークリー せんだい	第10回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載
R5/11/19 配信日	ネットメディア取材	コスモポリタン 「“ストレス食い”に注意！「エモーショナルイーティング」の引き金&克服法」 佐藤康弘 https://www.cosmopolitan.com/jp/beauty-fashion/health/a45611299/emotional-eating/

R5/8/3 発刊河北ウィークリーせんだい

【 第 10 宮城県摂食障害支援拠点病院 Web 市民公開講座 鈴木真理先生 】

心の病気：40年ぶりに高校保健体育で

2022年4月 文部科学省の新しい学習指導要領

高校1年生 保健体育

「心の病気」に関する学習（4時間）が約40年ぶりに復活

精神保健が日本国民にとって生涯の健康維持に欠かせない知識

4つの対象疾患：うつ病、統合失調症、不安症、**摂食障害**



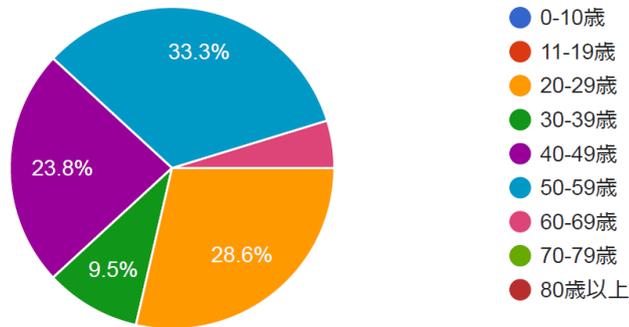
心の健康教室 サニタ<https://sanita-mentale.jp/general.html>

2

第 10 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座アンケート結果抜粋（聴講 65 名の内 21 名回答）

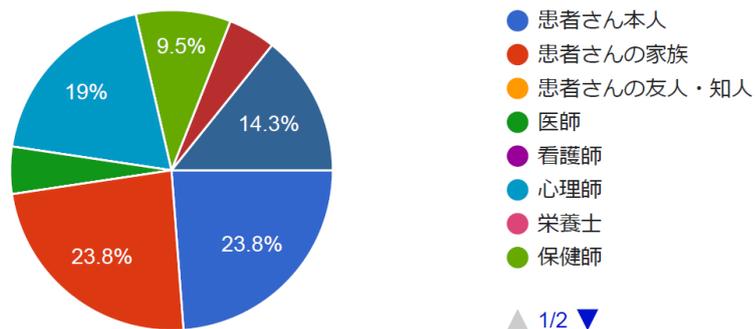
1. あなたの年齢を教えてください.

21 件の回答



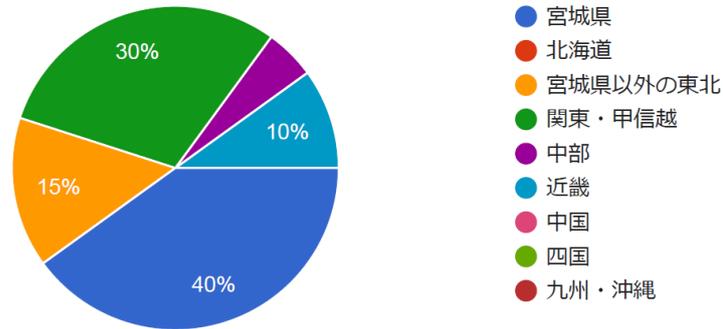
3. あなたは次のどれにあたるでしょうか.

21 件の回答



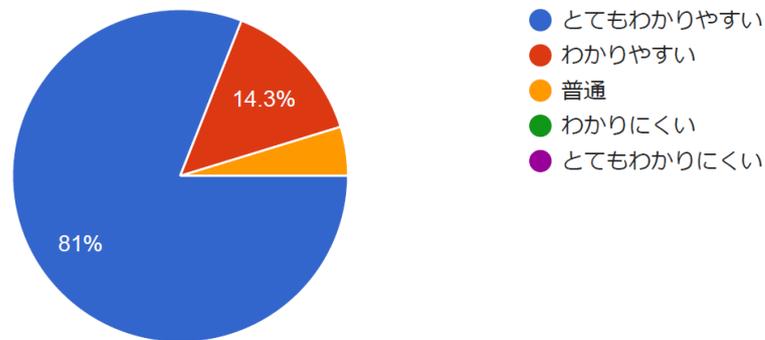
4. お住まいの地域を教えてください。

20 件の回答



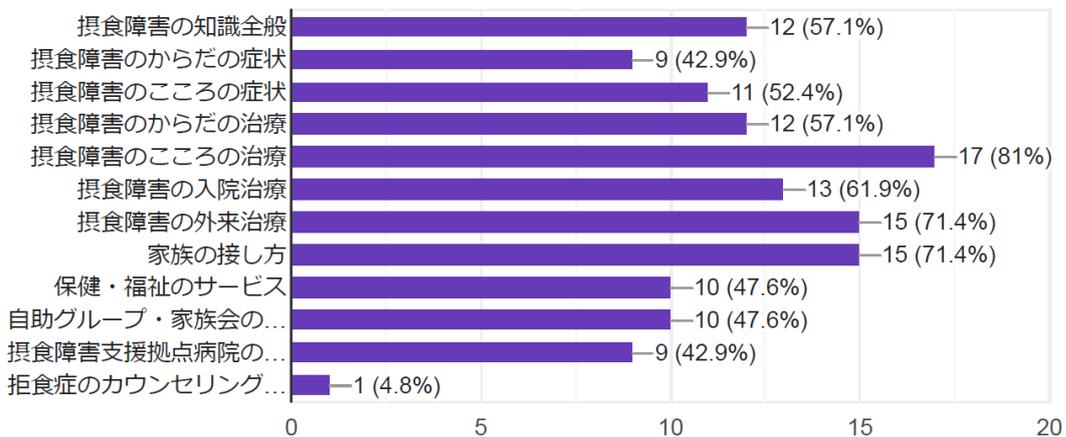
7. 今日の講演の内容はどうでしたか。

21 件の回答



8. 今後の市民公開講座で聞いてみたい内容を選んでください（複数回答可）。

21 件の回答



感想抜粋

本日は貴重なお話をありがとうございました。また機会があれば、摂食障害にお詳しい鈴木真理先生の専門的なお話をお聞きしたいです。本日はありがとうございました。

私は、当事者でありつつ、精神科病院で働いています。精神科病院で働いているにも関わらず、摂食障害になってしまった葛藤もありますが、信頼できる主治医のもとで治療していきたいと思います。

鈴木先生、素晴らしいご講演内容をありがとうございました。

大変分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。

質問コーナーでの鈴木先生の回答がどれも納得のいくもので、具体的な支援がイメージできました。鈴木先生の素敵なお人柄がよく伝わってきて、癒しの時間になりました。

最後の方で佐藤先生がおっしゃっていた、インターネットを介した認知行動療法について、何らかの形で情報提供していただけませんか？どうぞよろしく願いいたします。当事者家族として、治療していただける病院やこのような講座等、治療に向けた情報を手に入れるのが難しく、今日は本当に勉強になりました。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年度毎に2回、宮城県摂食障害対策推進協議会をおこなう。

研修実施結果

令和5年5月に、令和5年度第1回の協議会を開催し、令和4年度の事業報告および令和5年度の摂食障害に関する治療支援また連携について討議する。令和6年1月に第2回を開催する。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R5/5/26	協議会委員	11	令和4年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告、令和5年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について確認	Webミーティング
R6/1/19	協議会委員	10	令和5年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告	Webミーティング

9. その他の活動

実施体制・計画

ホームページを更新する。また、フェイスブックにて、摂食障害についての情報を随時発信する。

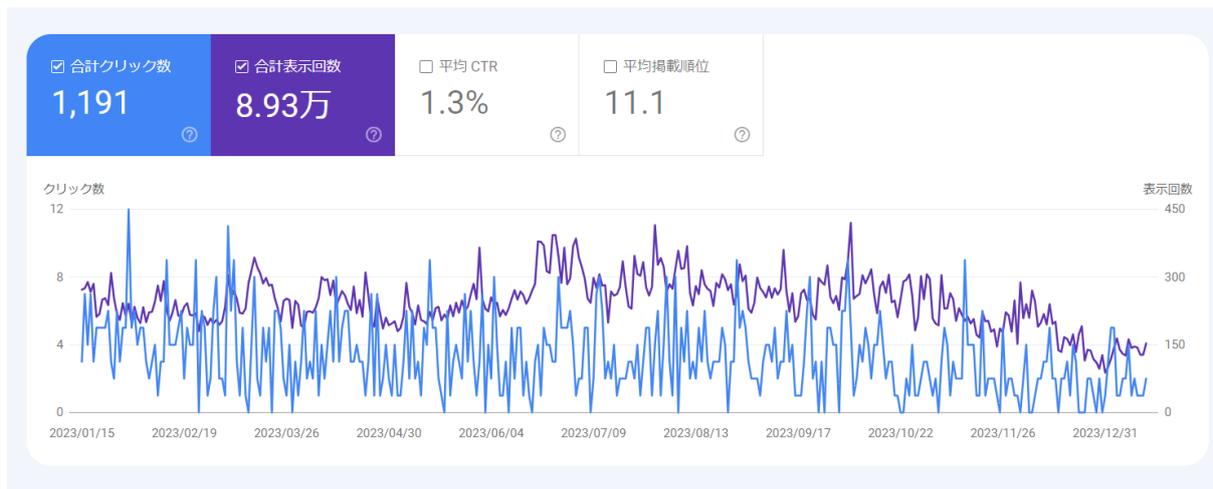
実施結果

随時、ホームページおよびフェイスブック、X（旧 Twitter）にて、摂食障害に関する情報を発信している。

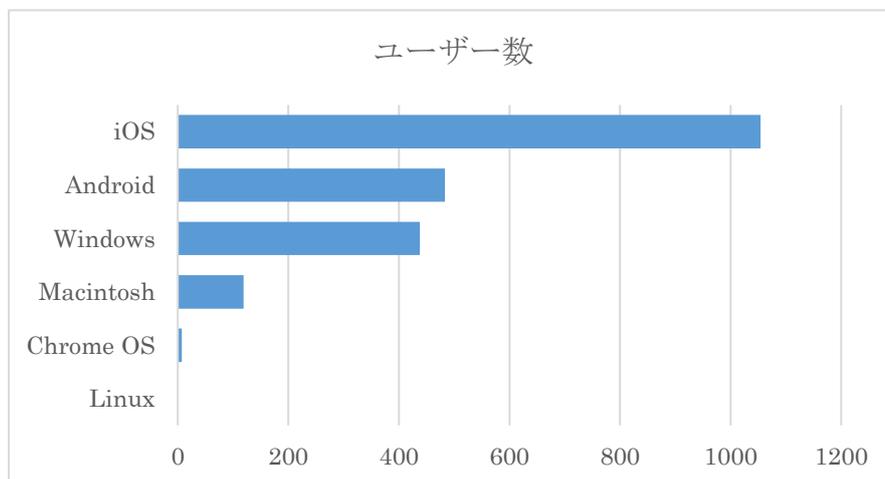
・ Facebook いいね！ 320件（令和6年1月14日現在）

・宮城県摂食障害支援拠点病院ホームページ アクセスカウンター 62418 (2024年1月14日現在)

Google Search Console 分析結果 検索パフォーマンス(2023/1/15-2024/1/15)



順位	上位のクエリ	クリック数	表示回数
1	拒食症 食事 1日	186	14,575
2	拒食症 どこから	56	13,013
3	摂食障害 仙台	36	639
4	摂食障害 病院	29	2,356
5	摂食障害に強い 病院	25	577
6	摂食障害 どこから	18	1,060
7	摂食障害支援拠点病院	17	669
8	拒食症 一日の食事量	15	963
9	摂食障害 病院 おすすめ 仙台	15	247
10	摂食障害 食事	11	912



10. 考察

- ・相談／治療対象患者は10歳以下にも広がっているように考えられる。
- ・相談／治療対象患者の低年齢化も見られることから、早期予防、早期発見につなげられるよう、摂食障害に対しての正しい情報や知識についての研修、啓蒙活動が一般市民、また、特に児童と関わりをもつ教育関係者や医療関係者に対して、継続的に不可欠と考えられる。
- ・摂食障害からの回復はどうしても時間を要し根気がいるため、患者／家族の治療意欲や気持ちが切れないよう、治らない病気ではないことを繰り返し伝え、治療に希望をもてるような声かけや支援が継続的に必要である。

4. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和5年度

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

令和5年度(2023年4月～2023年11月)

精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置事業報告書

1. 基本情報

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

センター名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
千葉県摂食障害支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	272-8516	千葉県市川市国府台1-7-1	047-372-3501 (代)

URL: 千葉県摂食障害支援拠点病院

<http://www.ncgmkohndai.go.jp/sessyoku/index.html>

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
石戸 淳一	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
長田 美央	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	心理療法士
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
岩崎 心美	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
大家 聡樹	千葉県摂食障害支援拠点病院	事務助手
池田 知恵子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
前川 知香	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
岩崎 心美	看護師,保健師,臨床心理士,公認心理師
池田 知寿子	看護師,公認心理師
前川 知香	看護師,公認心理師

2. 要旨

今年度は、コーディネーター3名(非常勤)、事務助手2名(非常勤:専任1名、兼任1名)の体制で、週3回の相談業務を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、相談業務は対面式ではなくメールや電話で行った。千葉県摂食障害対策推進連絡協議会はWebで開催した。

今年度(令和5年4月1日～令和5年11月30日)の相談件数は、新規227件、延べ312件(延べ件数において、電話相談186件、メール相談126件、面談0件)であり、月の平均相談数は39.0件であった。月の平均件数は、昨年度の51.1件より減少している。相談内容は昨年同様に受診先と疾患に関するものが中心であった。

相談者の割合は過去4年と同様に母が93件(41%)で一番多く、次いで患者本人からの相談が79件(35%)であった。千葉県摂食障害支援拠点病院は首都圏唯一の摂食障害支援施設であり、首都圏からの相談が依然として多かった。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が77件(34%)と最も多く、次いで20-29歳の56件(25%)、30-39歳の18件(8%)と続いている。(不明者除く割合。)相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は109件(48%)、中断中は22件(10%)、未受診は44件(19%)、摂食障害以外で受診中は14件(6%)、その他4件(2%)、受診状況不明は34件(15%)であった。昨年度に比べて受診中患者の相談数の割合が少ない。相談者の基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度94%、2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%、2023年度は35%であった。

アンケート調査で、研修会に参加希望と返答があった施設を中心として、治療研修会を開催予定である。新たな試みとして、研修主催を摂食障害治療支援拠点病院(心療内科)だけでなく、対策推進協議会委員の施設(精神科・小児科)でも開催し、3回以上出席した治療者には、支援拠点病院独自の認定書を発行する計画を立てている。

2023年4月～11月までのホームページへのアクセス数は:9068件であった。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科・千葉県摂食障害治療支援センター	医療
副委員長	菊池 周一	袖ヶ浦さつき台病院 病院長	医療
委員	中里 道子	国際医療福祉大学大学院精神科 主任教授 千葉大学大学院学研究院 特任教授	医療
同上	安藤 咲穂	千葉県こども病院 精神科部長	医療
同上	鈴木 高男	摂食障害家族の会ポコ・ア・ポコ 会長	患者家族
同上	Aさん	患者本人	当事者
同上	石川 真紀	千葉県精神保健福祉センター 次長	行政
同上	岡東 歩美	千葉県精神保健福祉センター 主管兼臨床検査課長	行政

	氏名	所属・職名	区分
同上	松下 寛	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課精神保健推進班 班長	行政
同上	新宮 昌志	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課精神保健推進班 主査	行政
同上	依頼中本年度は該当者なし	養護教諭・保健所	教育
同上	田村 奈穂	医師	医療
同上	山本 ゆりえ	薬剤師	医療
同上	岩崎 心美	看護師,保健師,公認心理師	医療

摂食障害対策推進協議会等会議

	開催日	議 題
第1回 千葉県摂食障害対策推進協議会	6月6日	令和5年度の千葉県摂食障害対策の実施計画について等
第1回 全国摂食障害対策連絡協議会	7月24日	令和5年度の事業計画の策定等
令和5年度 第1回 摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	7月10日	各拠点病院からの活動報告等

4. 相談支援

相談体制

本年度は、保健師・看護師・公認心理師等の資格を持つコーディネーター3名で週3日の相談業務を行った。

相談支援結果

今年度(令和5年4月1日～11月30日)の相談総数は、新規227件、延べ312件(延べ件数において、電話相談186件、メール相談126件、面談0件)であり、月の平均相談数39.0件であった。大部分は新規相談(227件、72.8%)であった。月の平均件数は、昨年度の52.1件より大きく減少した。(以下、全て新規相談件数による。)

相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は109件(48%)、中断中は22件(10%)、未受診は44件(19%)、摂食障害以外で受診中は14件(6%)、その他4件(2%)、受診状況不明は34件(15%)であった。昨年度に比べて受診中患者の相談数の割合が少ない。相談内容は受診先の問い合わせ(受診相談)が166件(55%)と昨年同様に最も多く、疾患に関する相談が58件(19%)で二番目に多かった。相談者は過去4年と同様に母が93件(41%)で一番多く、次いで患者本人からの相談が79件(35%)であり、両者で76%を占めていた。今年度は県内の相談者が177件(70%)、県外からの相談者は75件(30%)であった(居住地不明を除く)。昨年は54%が千葉県内の相談であった。千葉県摂食障害支援拠点病院は首都圏唯一の摂食障害支援施設であり、首都圏からの相談が多数あるが、今後も50%以上は千葉県内の相談を目指して活動していきたい。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が77件(43%)と最も多く、次いで20-29歳の56件(31%)、30-39歳の18件(10%)と続いている。このほか、40歳代以上の相談者は24名(13%)であった。(不明者除く。)

月毎の相談者数の年齢分布を集計して図(「千葉県摂食障害支援拠点病院の年齢別相談件数の推移と COVID-19」)にしたが、緊急事態宣言 (state of emergency :SE) の時期に一致して10代の患者の相談数は一過性に増加していた。低年齢層の摂食障害患者が新型コロナウイルス感染症拡大による感染拡大に影響を受けている可能性はある。ただし、その増加は一過性でその影響の評価は慎重に行う必要がある。

病院紹介を行った相談において、基幹病院(国府台病院)への紹介割合は2017年度は94%であったのが2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%、2023年度は35%であった。

普及啓発活動の欄に詳しく記載したが、2020年6月より、Facebook、Instagram、Twitterによる配信を開始した。その時期に一致して相談件数やホームページ閲覧数は増加した。

相談件数 期間:R5.10-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
227	312

地域(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

県内	県外	不明	計
115	54	58	227

相談者(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
79	17	93	3	7	7	2	2	11	6	227

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 227 平均年齢: 23.95 SD= 11.38 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
3	77	56	18	13	9	2	0	49	0	227

相談対象患者の性別(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
201	11	0	15	0	227

相談対象患者状態(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
109	104	110	90	21	6	23	1	2	108	2	11	3	80

相談対象患者属性(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
11	21	38	24	43	31	7	1	51	0	227

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
109	22	44	14	4	34	0	227

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 227 期間:R5.10-R5.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
175	13	3	0	1	0	2	0	0	1	4	28

相談経路(延べ件数) n= 312 期間:R5.10-R5.11

電話	メール	面談	計
186	126	0	312

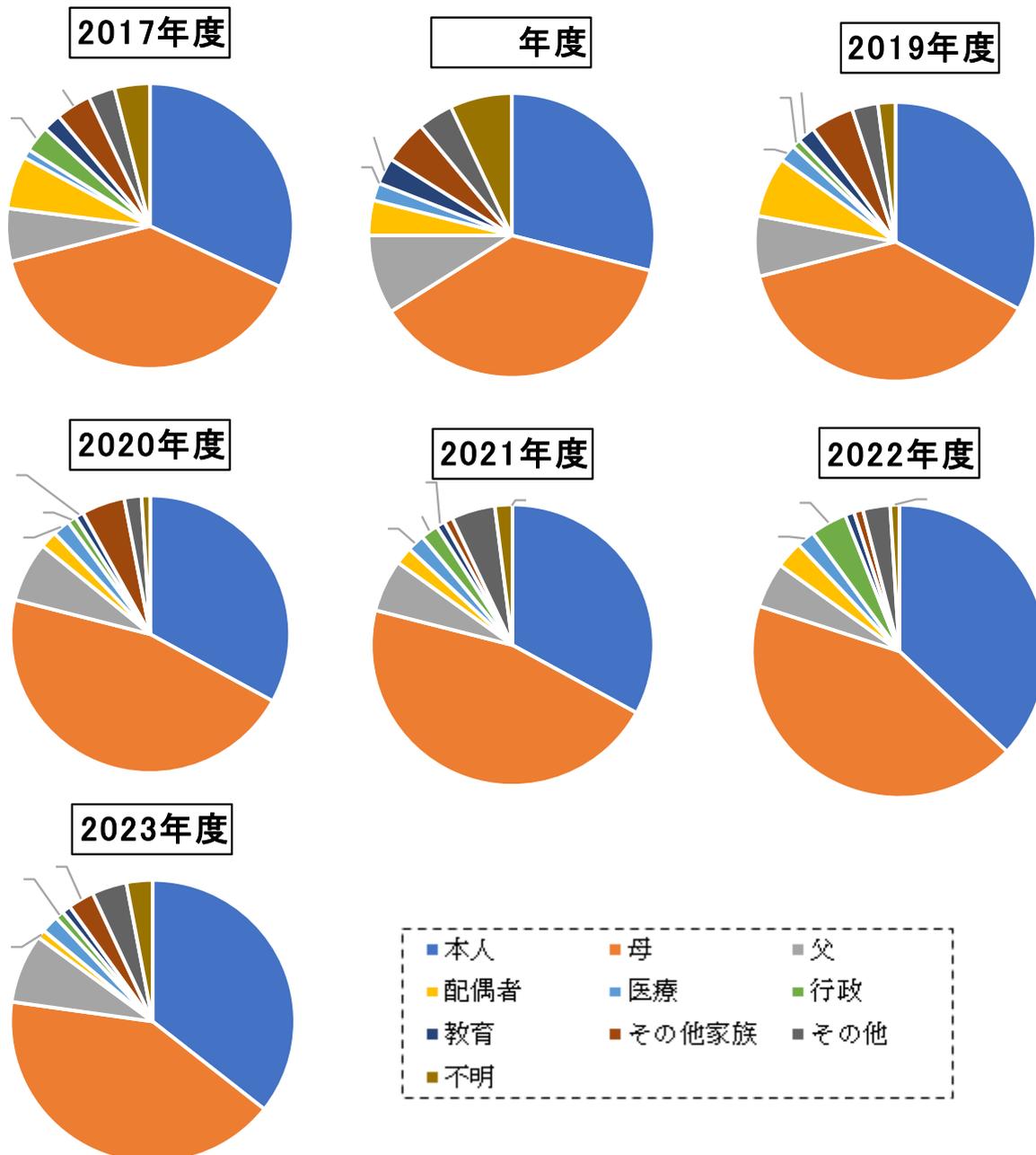
相談内容(延べ件数) n= 312 期間:R5.10-R5.11

疾患相談	対応相談				受診相談	問い合わせ	その他	コロナ 関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
58	50	26	8	13	166	16	11	8

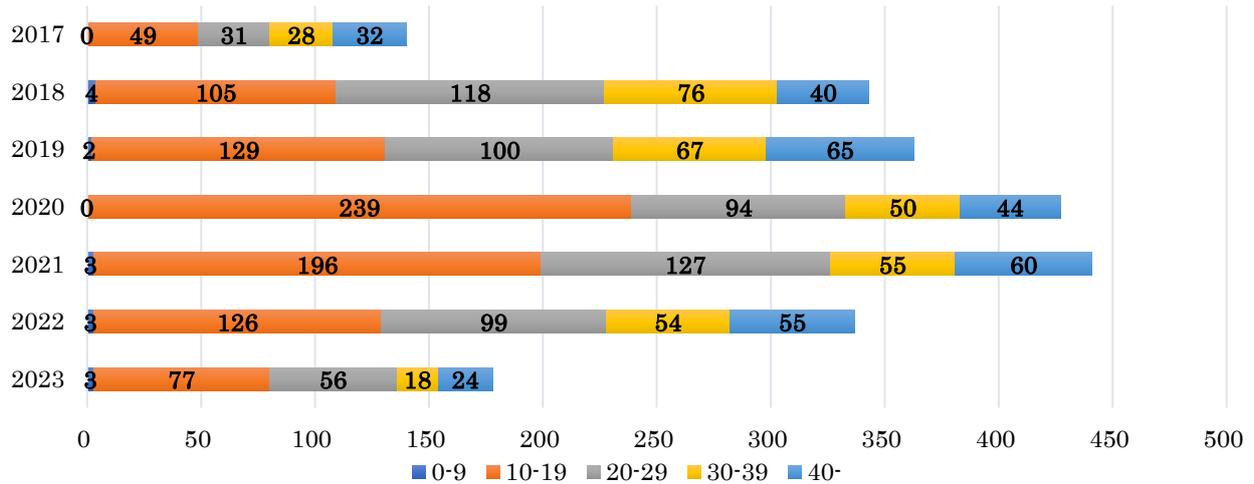
対応内容(延べ件数) n= 312 期間:R5.10-R5.11

有り	紹介先				情報提供					助言	問い合わせ 対応	その他
	拠点病院	協力 病院	他の 医療機関	公共 機関	有り	疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資本			
182	117	132	51	32	148	48	113	4	14	105	95	12

相談者属性の変化(2017-2022 年度,延べ件数)



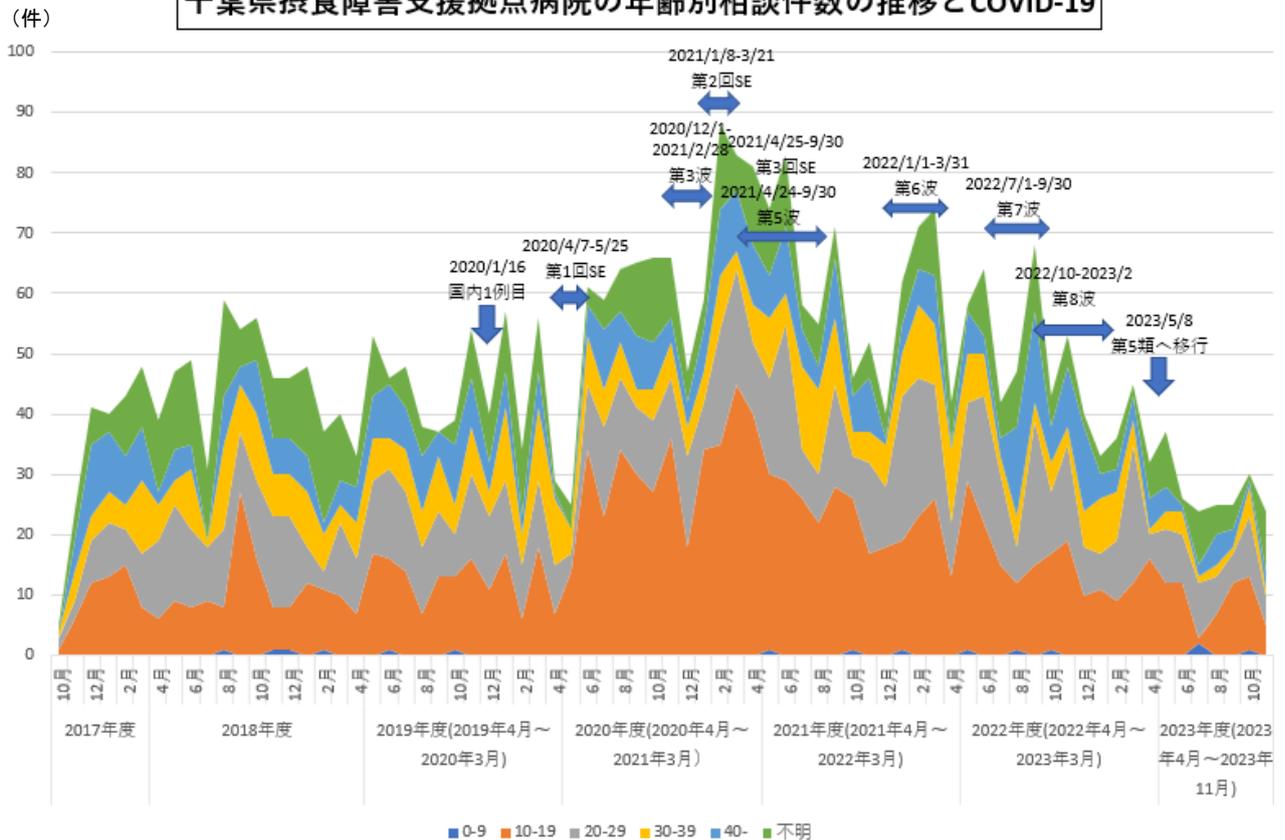
相談件数と年齢の内訳(経年推移)※年齢不明除く

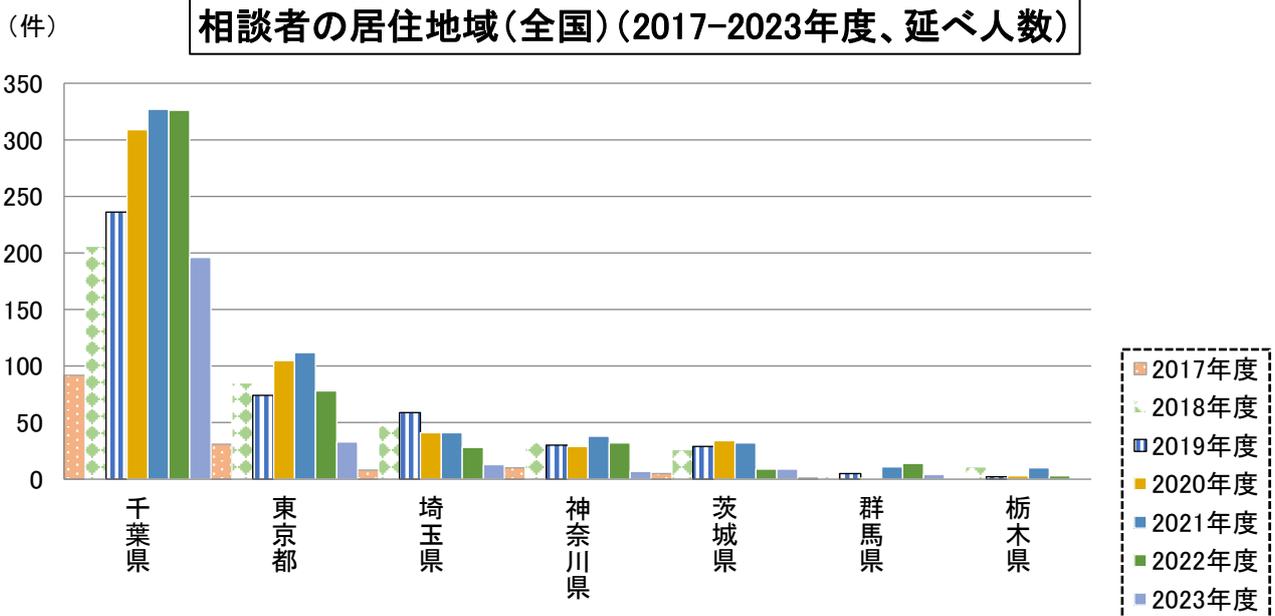


相談件数における年齢層の割合(年齢不明者除く)

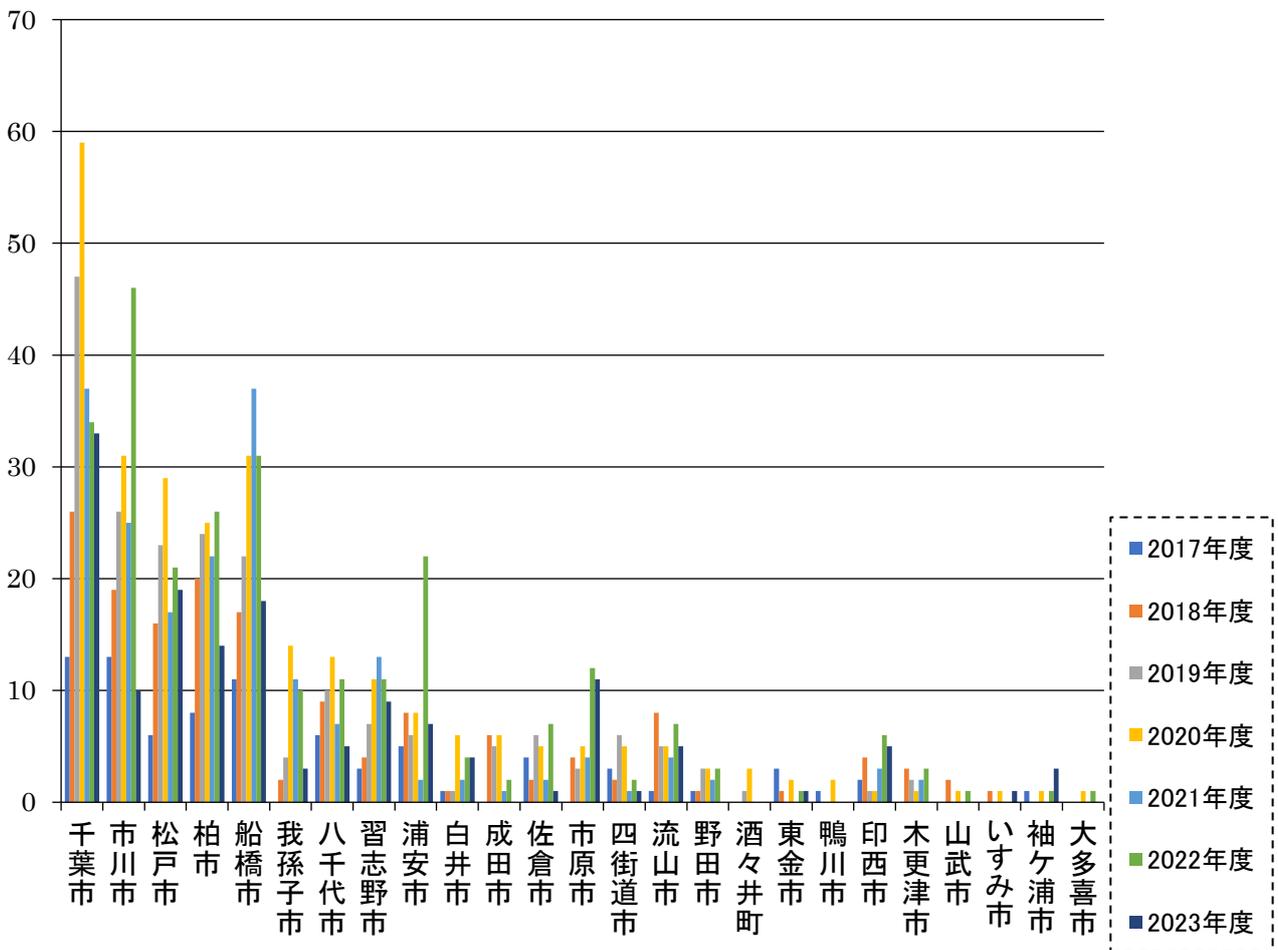
	10代未満	10代	20代	30代	40代以上
2017年度	0%	36%	23%	22%	20%
2018年度	1%	31%	35%	22%	12%
2019年度	1%	36%	28%	18%	18%
2020年度	0%	56%	22%	12%	10%
2021年度	0%	44%	29%	12%	14%
2022年度	1%	60%	47%	26%	26%
2023年度	2%	43%	31%	10%	13%

千葉県摂食障害支援拠点病院の年齢別相談件数の推移とCOVID-19

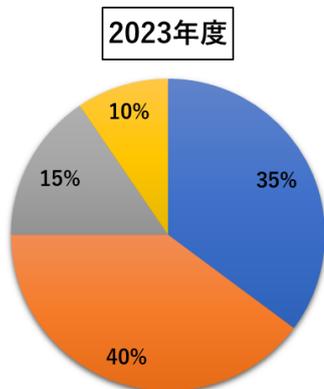
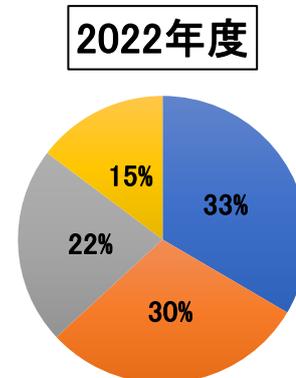
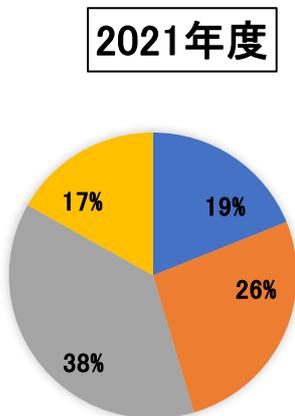
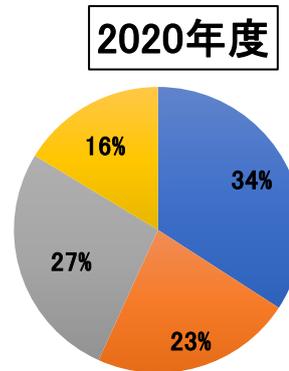
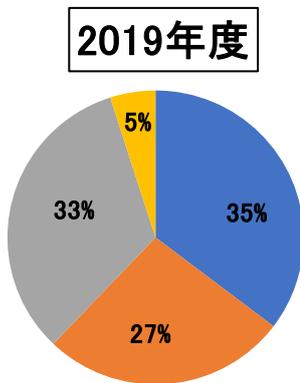
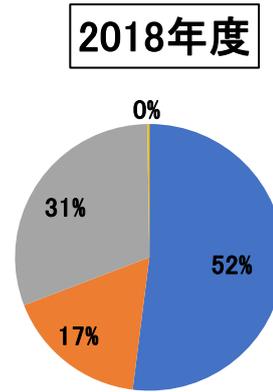
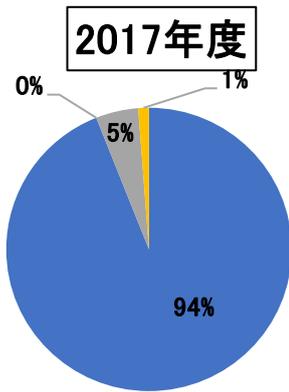




相談者の居住地(千葉県内)(2017-2023年度、延べ件数)

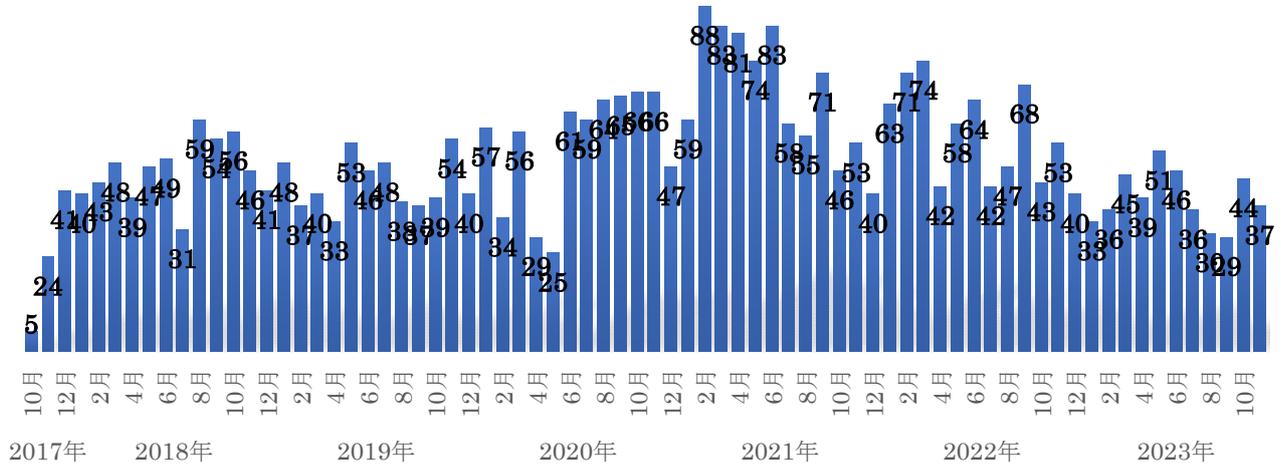


当センターから紹介した施設の内訳(2017-2023 年度,延べ件数)

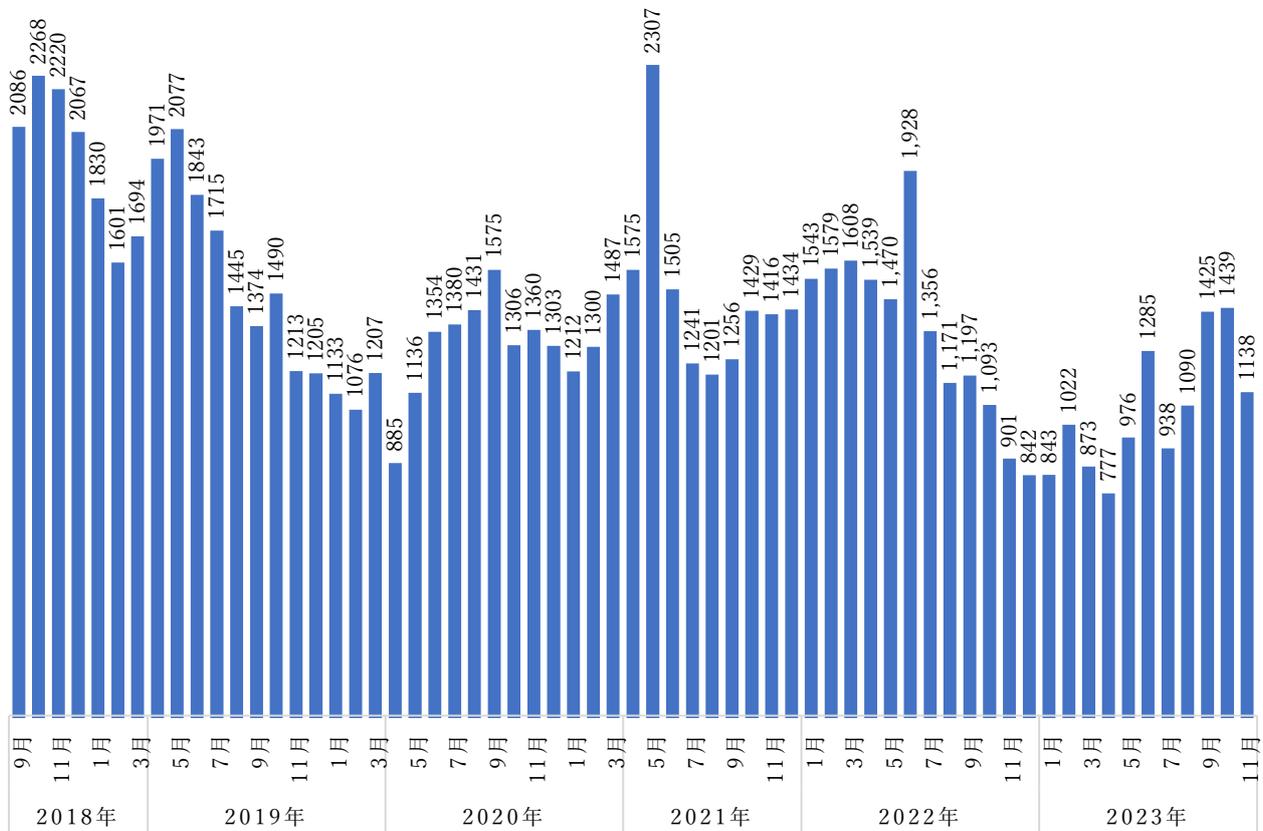


当センター開設からの月別相談件数の推移(千葉県)

(件)



千葉県摂食障害支援拠点病院のHPアクセス数



5. 治療支援

治療体制・計画

基幹病院における2023年4月から2023年11月の新患摂食障害患者は126名であった。治療体制は心療内科医8名(常勤4名、非常勤4名)、非常勤心理療法士5名で治療を行っている。薬物療法の他に支持的面接を中心に各種心理療法(認知行動療法、芸術療法、箱庭療法、自律訓練法、マインドフルネスなど)を行っている。また個人療法に加えて、コラージュ、園芸療法、集団認知行動療法、集団マインドフルネス療法、集団ヨガ療法、心理教育プログラム「ひまわり」などを行っている。摂食障害に特化した治療として、Enhanced Cognitive behavioral Therapyを積極的に行っている。

治療支援実施結果

初診患者数は123人が女性、3人が男性であった。また、10代、20代の患者が多く、次いで、30代、40代の患者が多い傾向がみられ、支援拠点病院の相談ケースと類似した結果が得られた。国府台病院の摂食障害の外来患者数は、2018年に一時的に増加(139件)したが、その後減少し、摂食障害入院患者数は大きな変化を認めていない。支援センター活動開始後も、紹介業務が順調にすすめば、基幹病院への受診患者数は増加しなかった。

千葉県摂食障害治療支援拠点病院(国府台病院)

初診患者数(2023.4-2023.11) 126人

初診患者数	126人								
性別	女性	男性							
	123人	3人							
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	
	0人	41人	41人	17人	14人	9人	3人	1人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	EDNO S	ARFID		
	39人	34人	38人	2人	0人	8人	5人		
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方						
	87人	3人	34人						
BMI kg/m ²	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤	不明
	10人	8人	29人	14人	9人	10人	41人	4人	1人
治療状態	治療中	治療 中断	治療 終了	紹介					
	77人	18人	13人	16人					
治療期間	ヶ月	人	人	人					

協力病院初診患者数(2023.4-2023.11) データなし

病院名: データなし

6.研修

研修体制・計画

千葉県内を中心に、医療従事者、教師、養護教諭を対象として摂食障害に関する研修会を行ってきた。今年度は、県内摂食障害連携アンケート調査で、研修会に参加希望と返答があった施設を中心に研修会を開催予定である。

千葉県精神保健福祉センターと共催という形で、千葉県の医療者を対象に、治療ネットワーク作りのための千葉県摂食障害研究会を年に1回、千葉県摂食障害小研究会を年に3回実施している。現在はZOOMでの開催となっているが、回を重ねる毎に参加者（50人ほど）や世話人の医療者が増え、研究会を通して顔の見える・お互いの診療体制もわかる連携の場となっている。対象者を摂食障害治療初学者や他科（内科・救急科・小児科など）の医療者とするといった工夫を今後考慮している。研究会に3回以上出席した治療者には、支援センター独自の認定書を発行する計画である。

講習会,研修会,ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
2023/4/2	摂食障害治療に携わる者	不明	第10回神経性過食症への認知行動療法研修会(主催 NCGM)	Online and 国府台病院
2023/6/6	精神科医療・摂食障害治療に携わる者	12名	令和5年度第1回千葉県摂食障害対策推進協議会	オンライン
2023/6/22-6/24	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	不明	日本におけるCBT (Enhanced cognitive behavior therapy)の研修システム, シンポジウムこれからの摂食障害治療を考える:スタンダードな身体管理と精神療法に向けて, 第119回日本精神神経学会学術総会	パシフィコ横浜ノース
2023/6/27-6/28	摂食障害治療に携わる者	不明	研究奨励賞受賞講演「生活習慣病や摂食障害への内観療法」, 第45回日本内観学会大会	東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター
2023/6/30-7/1	摂食障害治療に携わる者	不明	研究奨励賞受賞講演「生活習慣病や摂食障害への内観療法」, 第45回日本内観学会大会	東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター
2023/6/29	摂食障害の就労支援に携わる者	54名	2023年度 第1回 治療者の交流を目的とした千葉県摂食障害小研究会	オンライン

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

千葉県摂食障害支援拠点病院では、千葉県障害者福祉課と連携をとり摂食障害患者とその家族、それに加えて一般県民にむけても普及啓発活動を行っている。千葉県摂食障害支援拠点病院のホームページ上で当事者・家族向けのe-ラーニングサイトを開設中である。2020年6月より、Facebook、Instagram、Twitterによる配信(下記)を開始している。

●当センターホームページとSNSに関するURL

ホームページ：<http://www.ncgmkohndai.go.jp/sessyoku/index.html>

閲覧回数(セッション数):9068回(2023.4-2023.11)

Facebook @CPTSCED <https://www.facebook.com/CPTSCED/>

Instagram @chiba_sessyoku https://www.instagram.com/chiba_sessyoku/

Twitter @edsupport_chiba https://twitter.com/edsupport_chiba

普及啓発活動実施結果

Twitter フォロワー数 424名(2024年1月時点)

メディア関係

開催日(発行日,オンエア)	メディア	内容
2023/4/18	You tube	「精神危機に関する情報パネル」OneBoxに摂食障害ほっとラインが掲載されることに関するプレスリリース
2023/7/21	YouTube	Google 日本法人にて、YouTubeヘルスケア & パブリックヘルス ディレクター兼グローバルヘッドの Garth Graham 博士と日本の摂食障害やメンタルヘルスの現状と課題についての意見交換
2023/7/24	朝日新聞	朝日新聞 Think キャンパス「思春期女子に多い「摂食障害」勉強も原因に、危険なサインは？」 (https://www.asahi.com/thinkcampus/article-100659/)
2023/8/17	週刊新潮	石井光太著 「短期集中連載 コロナ・チルドレン 「スマホ依存」が子どもの心を殺す①」の SNS と摂食障害に関する専門家へのインタビュー

研究論文

1. 河合啓介, 廣方美沙, 山本ゆりえ, 池田知寿子, 吉田さやか, 田村奈穂, 首都圏の摂食障害支援拠点病院における摂食障害診療の現状と課題, 日本心療内科学会誌, 27(3), 223-230, 2023.
2. 河合啓介, 特集:摂食障害 ③さまざまな連携や支援 摂食障害全国支援センター, 精神科 Resident, 4(3), 56-58, 2023.
3. 石戸淳一, 田村奈穂, 河合啓介, 女性患者に多い／特有の疾患・病態 摂食障害, 神経性やせ症, 救急医学 47, 1175-1180.
4. 河合 啓介, 特集 拡がり続ける摂食障害(摂食症)-一般化とともに拡散・難治化する精神病理にどう対処するか [日本の治療環境に合わせた治療資源の拡充] 摂食障害相談支援と紹介ネットワークの構築, 精神医学 65 (9), 1288-1295, 2023.

学会発表

1. 小島夕佳, 「摂食障害の治療における病棟での心理士の役割」, "パネルディスカッション(コ・メディカルスタッフ認定制度委員会・日本心療内科学会心理担当委員 共同企画)心身関連の治療をチームで担う心理職を開拓する!", パシフィコ横浜会議センター, 第 64 回日本心身医学総会, June, 30th-July, 1st
2. 山本 ゆりえ, 摂食障害全国支援センター「相談ほっとライン」活動報告, 第 26 回日本摂食障害学会学術集会, Oct, 21st-22nd
3. 石戸 淳一, ゼラチン様骨髄と診断され,白血球減少が遷延した神経性やせ症摂食制限型(AN-R)の一例, 第 26 回日本摂食障害学会学術集会, Oct, 21st-22nd
4. 池田 萌里,長田 美央,長谷川 遥菜,出水 玲奈,石戸 淳一,田村 奈穂,河合 啓介, 神経性やせ症患者への緊急入院対応制度の実態とその予後調査, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.
5. 須田育, 石戸淳一, 長田美央, 池田 萌里, 田村 奈穂, 木村 慧心, 河合 啓介, 神経性やせ症への集団ヨーガ療法, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.
6. 山本 ゆりえ, 長田美央, 石戸淳一, 田村奈穂, 河合啓介, 摂食障害患者における院内下剤処方量に関する実態調査, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.
7. 石戸 淳一, 池田 萌里, 長田 美央, 田村 奈穂, 狩野 俊和, 河合啓介, 抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎が合併した神経性やせ症過食排出型の一例, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.
8. 芳野 滉, 田村 奈穂, 池田 萌里, 長田 美央, 石戸 淳一, 河合 啓介, 2022 年度の国府台病院心療内科の入院患者の特徴 ～摂食障害の病型と紹介の有無について～, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.
9. 小島 夕佳,中谷 有紀,圓 望美,菊地 祐花,荒木 朋美,山本 ゆりえ,田村 奈穂,河合 啓介, 心療内科での心理師の役割, 第 27 回日本心療内科学会総会・学術大会, Dec, 9th-10th.

8.行政機関との連携

研修体制・計画

Web による会議を千葉県障害者福祉課の担当職員と定期的に行っている。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
7月10日	摂食障害支援拠点病院代表者	10人	令和5年度第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン

9.その他の活動

実施体制・計画

特になし。

10.考察

全国相談窓口の開設、コロナ禍の収束傾向によってか、本年度の月の平均相談数 39.0 件であり、昨年度の 52.1 件より減少した。支援拠点病院(当初は支援センター)開設当初の病院紹介先は 94%が基幹病院であったが、その割合の減少傾向が継続していることはセンター事業の重要な成果と考えている。

<展望> 2020年6月より Facebook、Instagram、Twitter による情報配信を開始した。SNS 等をより有効利用する方向で進めることを考えている。千葉県摂食障害支援拠点病院独自の取り組みとして、県内治療施設の疫学調査の結果に基づく連携を目指している。千葉県摂食障害研究会は、大小合わせて年4回開催され、定着しつつあり、その参加医療機関・参加者数が増加傾向にあり、ネットワーク作りに寄与しているものと考え。気軽に参加し、相談できる会にしたいと考えている。また、今後内科・小児科・救急科にも裾野を広げてさらなる治療ネットワークを作り上げていきたい。

<課題> 引き続き、医療連携を推進する。一部の施設に偏らない形で連携先を増加させるモデル作成が摂食障害の臨床には必要である。施設の特性に合わせて、初期治療、急性期の治療、身体的重症な患者の治療を取り扱う施設を分けるなどの工夫を目指す。

5. 静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 5 年度

静岡県摂食障害支援拠点病院

Shizuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
静岡県摂食障害支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科 神経科	431-3192	静岡県浜松市中央区半田山 1-20-1	053-435-2635

URL

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

2. 要旨

本年度は静岡県の第8次保健医療計画（国の第7次保健医療計画）の最終年度にあたる。静岡県における摂食障害治療支援センター設置運営事業において進めてきた医療連携体制の構築により、本年度、都道府県連携拠点機能、地域連携拠点機能、地域精神科医療提供機能を担う医療機関を明確化として、県のウェブサイトに「疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果」として掲載されたことは大きな成果であった。

『相談支援』については、昨年度より本年度にかけて相談件数が減少しており、治療支援、普及啓発など事業の効果と言えるかどうかについて、来年度以降も判断の動向を見ていく必要がある。

『治療支援』については、(1) 県内の精神科および児童精神科の専門研修プログラムと連携して、治療者を支援、治療者が勤務する医療機関によらず治療を継続する体制づくりを始めたところである。また、(2) 小児科と精神科との連携・情報共有により、両科での治療の質を高める試みを始めたところである。(3) 事業の対策推進協議会において、県東部の医療体制の強化が課題として挙げられた。

『研修』についてはゲートキーパーである養護教諭・産業医、また、「治療支援」と関連して、小児科・精神科共同の講演会に加え、症例検討会を始めて開催した。

『普及啓発活動』については、『摂食障害フォーラム』を3年ぶりに対面で開催した。前半は児童思春期における摂食障害について講演を行い、後半は当事者・家族・支援者の対応について参加者と専門家との質疑応答の対話形式で行った。

『行政機関との連携』については、昨年度同様に静岡市こころの健康センター（精神保健福祉センター）との共同で家族教室を行った。浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院も参加し、浜松市の摂食障害治療の連携・支援について検討した。

『その他の活動』として、昨年度に引き続きピア・サポーター養成を兼ねたサポートグループを開催し、養成プログラムを受けたピア・サポーターが、家族支援や摂食障害患者のためのグループセラピーに参加するなどして、当事者や家族に向けて体験談やコメントを発信していただいた。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	竹林 淳和	浜松医科大学・講師	摂食障害治療を専門的に 行っている医師
同上	長谷川 花	沼津中央病院・医師	
同上	高木 啓	鷹岡病院・院長 静岡県精神科病院協会	
同上	五條 智久	県立こころの医療センター・医師	
同上	大石 聡	県立こども病院こころの診療部・部長	
同上	田中 賢司	藤枝駿府病院・院長	
同上	田中 徹	好生会三方原病院・副院長	
同上	西村 克彦	聖隷三方原病院・精神科部長	
同上	大城 将也	菊川市立総合病院・医師	
同上	三田 智子	パルモこども診療所・院長 静岡県小児科医師会・会長	
同上	櫻井 新一郎	桜心メンタルクリニック・院長 静岡県日本精神神経科診療所協会・副会長	
			摂食障害患者
			摂食障害患者家族
同上	下窪 匡章	県富士保健所・所長	摂食障害対策に資するもの
同上	内田 勝久	静岡県精神保健福祉センター・所長	
同上	二宮 貴至	浜松市精神保健福祉センター・所長	
同上	大久保 聡子	静岡市こころの健康センター・所長	
同上	夏目 伸二	静岡県教育委員会事務局健康体育課長	教育関係者
同上	石田 雄一	静岡県健康福祉部障害者支援局長	県
同上	大石 晴康	静岡県健康福祉部障害者支援局 障害福祉課精神保健福祉室長	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和5年8月31日	1. 令和4年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. その他
第2回	令和5年2月3日	1. 令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和6年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. その他

4. 相談支援

相談体制

1. コーディネーターが週 3 日、電話にて摂食障害患者及びその家族への専門的な相談支援を行う。

相談支援結果

相談件数は本年度 11 月末の時点で延べ 151 件であり、本年度末までの見込みは令和 4 年度と同程度である（『相談件数』）。令和 2 年度、3 年度に 10 歳代の相談件数が増加したが、令和 4 年度、本年度の 10 歳代の件数は COVID-19 の流行前の水準に戻った（『本人年齢(新規)』参照）。

COVID-19 の流行時の 10 歳代の件数の増加の影響を差し引くと、相談件数の総数は令和 1 年度、2 年度をピークに減少傾向と言える。

受診内容は受診相談が多くを占めているが、相談件数の減少は治療支援、普及啓発など事業の効果と言えるかどうかは、本件の今後の動向や、新たに設置された支援拠点病院の動向と合わせて判断する必要がある。

家族支援はピア・サポーターの協力を得ながら、行政と協同して継続的に行っている。

相談件数 期間:R5.4-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
126	151

地域(新規件数)n= 126 期:R5.4-R5.11

県内	県外	不明	計
102	24	0	126

相談者(新規件数)n= 126 期間:R5.4-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
29	6	43	3	5	36	1	1	2	0	126

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 126 平均年齢: 23.7 SD= 11.58 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
2	52	39	11	10	6	0	0	4	2	126

相談対象患者の性別(新規件数)n= 126 期:R5.4-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
118	5	0	1	2	126

相談対象患者状態(新規件数)n= 126 期間:R5.4-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
92	90	49	37	11	3	10	0	3	21	2	3	7	11

相談対象患者属性(新規件数)n= 126 期間:R5.4-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業中	無職	主婦				
9	15	23	12	23	8	4	0	30	2	126

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 126 期間:R5.4-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
44	10	47	23	0	0	2	126

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 126 期間:R5.4-R5.11

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明			
	医療	行政	教育								
61	42	2	3	0	0	0	0	0	1	2	15

相談経路(延べ件数)n= 151 期間:R5.4-R5.11

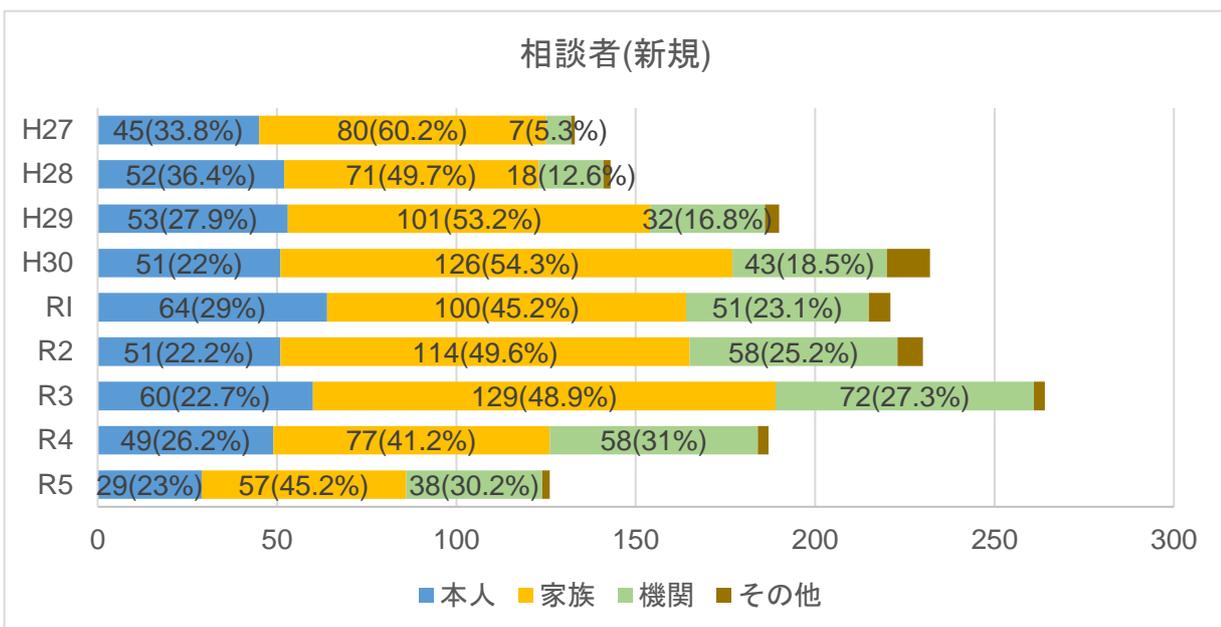
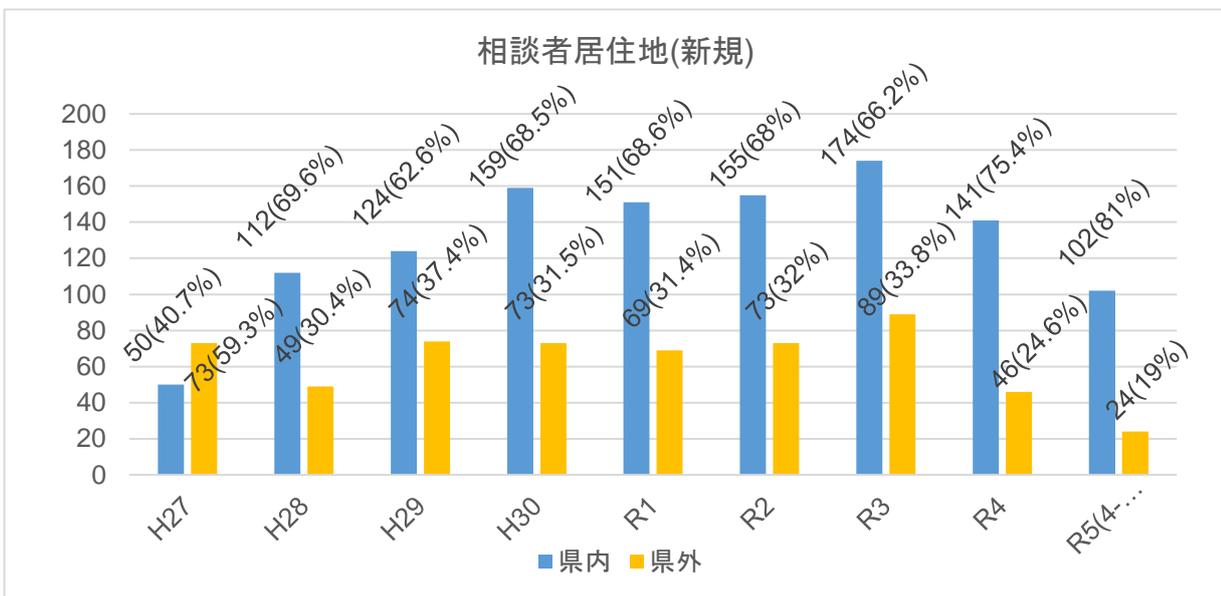
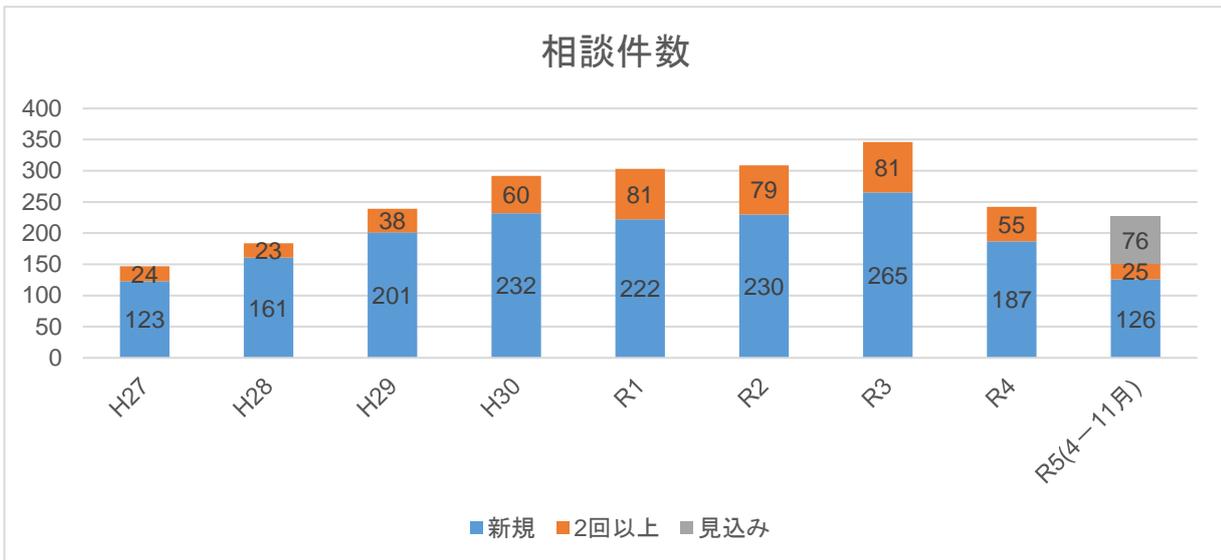
電話	メール	面談	計
151	0	0	151

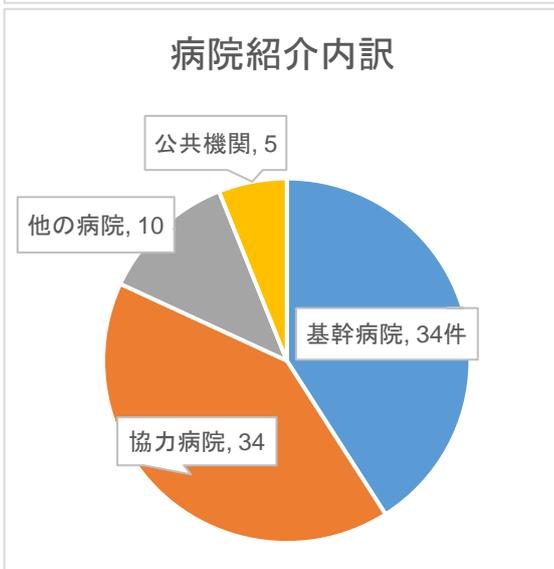
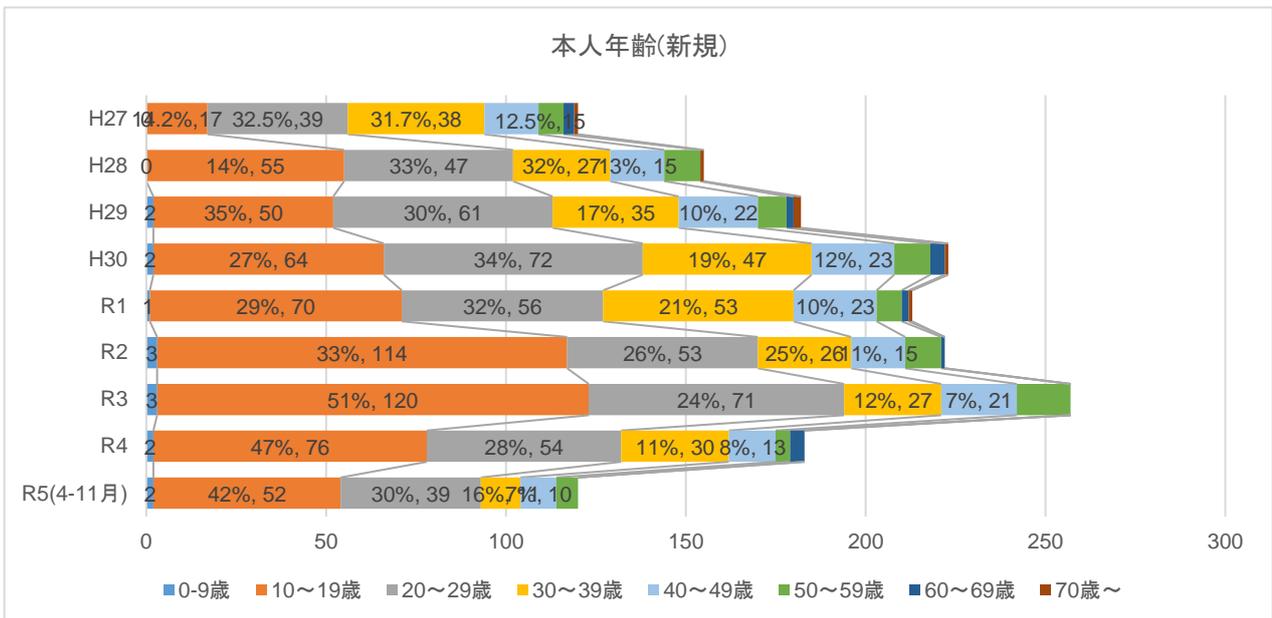
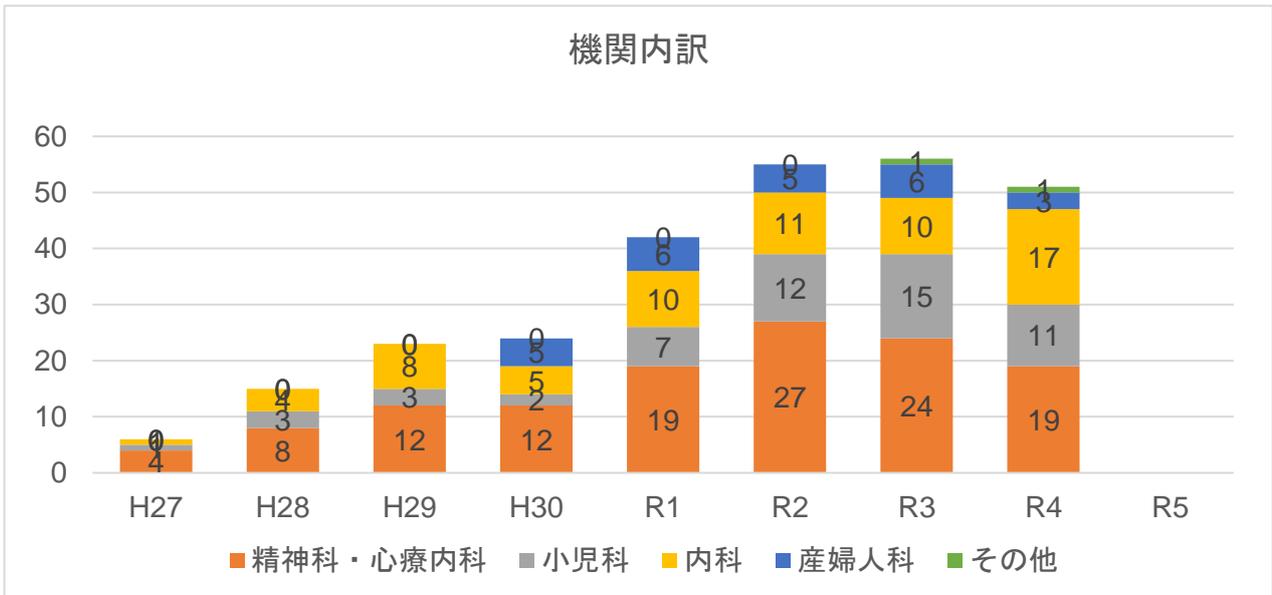
相談内容(延べ件数)n= 151 期間:R5.4-R5.11

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
21	8	3	0	5	131	1	1	1

対応内容(延べ件数)n= 151 期間:R5.4-R5.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ 対応	その他
	拠点病院	協力 病院	他の 医療機関	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資本			
81	34	34	10	5	43	14	28	6	0	97	3	2





〈家族支援〉

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	実施場所
令和5年6月17日、7月22日、8月19日	摂食障害の患者の家族	3	摂食障害への効果的な対応を知ろう・摂食障害の症状を知ろう・摂食障害の回復・サポートのコツ	浜松医科大学
令和5年9月2日、10月14日、11月11日	家族	4	同上	web
令和5年12月16日、令和6年1月27日、2月17日	家族	3	同上	静岡市こころの健康センター
令和5年5月19日、6月16日、7月14日	家族	5(延べ)	同上	浜松市精神保健福祉センター
令和5年10月20日、11月17日、12月15日	家族	11(延べ)	同上	浜松市精神保健福祉センター
令和5年4月22日	家族	11	摂食障害家族交流会	web
令和5年8月19日	家族	7	同上	同上
令和5年12月23日	家族	4	同上	同上
令和5年5月27日、7月22日、9月23日、11月25日、令和6年1月27日、3月23日	家族	37名(1月分までの延べ数)	家族サロンひまわり(家族交流会)	浜松市精神保健福祉センター

5. 治療支援

治療体制・計画

<p>県の第8次保健医療計画における都道府県連携拠点機能、地域連携拠点機能、地域精神科医療提供機能を担う医療機関を明確化する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 静岡県精神病院協会・静岡県診療所協会と連携 2. 児童思春期の小児科での治療連携の強化（『（3）研修』参照） 3. 精神科領域専門医研修プログラムとの連携 4. 子どものこころ専門医機構研修施設群との連携 5. 摂食障害の入院治療を担当する病院との連携（静岡県摂食障害対策推進協議会）

治療支援実施結果

〈摂食障害治療連携検討会〉				
	開催日	参加者	会議名	実施場所
第1回	令和5年7月1日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	プレスタワー 静岡新聞ホール
第2回	令和5年12月2日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	プレスタワー 静岡新聞ホール
第3回	令和6年1月22日	基幹・連携施設責任者	第2回子どものこころ専門医研修管理委員会	オンライン

『第8次保健医療計画』の「疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果」として令和5年9月に静岡県のウェブサイト「県連携拠点機関」「圏域別医療機関名」として掲載された（参照：『令和4年度疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果（摂食障害）』）。

- 1 本年度は静岡県精神科病院協会および静岡県精神神経科診療所協会との連携会議は行っていない。単科精神病院に関しては3. に挙げる『精神科領域専門医研修プログラム』の連携病院と病院協会の病院が重複するため、今後は『精神科領域専門医研修プログラム』を通して単科精神病院と連携を図る。また、精神科診療所に関しては、昨年度に県東部・中部・西部に合計4つの外来担当医療機関を選出していただいております、本年度は拠点病院の患者の紹介・逆紹介を通して連携している。
- 2 小児科と精神科における児童思春期の摂食障害の治療支援、および両科の治療連携の強化のため、小児科と精神科が合同で参加する講演会および症例検討会を開催した。（参照：6. 研修）
- 3 精神科領域専門医研修プログラムとの連携

『浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会』において、各連携施設の摂食障害診療状況を「研修連携施設における専攻医の症例経験に関するアンケート」で調査した。なお、本プログラムの連携施設は21施設で、うち静岡県内の精神科総合病院は5病院（有床は3病院）、精神科単科病院は13病院である。

14病院が神経性やせ症、神経性過食症でBMI 13～15以上であれば外来診療可能で、4病院がBMIに関わらず外来診療が可能であった。一方、入院が可能な病院は本事業の協力病院に加え、5病院で神経性やせ症の入院治療が可能との回答であったが、診療経験不足との不安も聞かれた。

回避制限性食物摂取症の診療については本事業の協力病院や児童思春期専門病院以外の医療機関は不可であった。

診療可能な年齢については小学生以上が4病院、中学生以上が4病院、高校生以上が7病院、年齢に寄らず診療可能な病院が4病院であった。

- 4 子どものころ専門医機構研修施設群との連携
『子どものころ専門医研修管理委員会』にオブザーバーとして参加した。
- 5 摂食障害の入院治療を担当する病院との連携（静岡県摂食障害対策推進協議会）
次年度に向けて以下の課題が出された。
 - 5.1 拠点病院が協力病院に診療を依頼した患者のその後の経過
 - 5.2 総合病院から単科病院に転院・転医した患者のその後の経過
 - 5.3 県東部の総合病院精神科との医療連携
 - 5.4 県東部の総合病院精神科が静岡県摂食障害対策推進協議会への委員就任

令和4年度 疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果 (摂食障害)

1 調査の概要

「静岡県保健医療計画」に定める6疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、肝炎、精神疾患）、5事業（救急、災害、へき地、周産期、小児）の医療連携体制の構築に取り組んでいるが、医療連携の進捗状況を把握するため、年1回医療連携体制調査を実施しており、昨年度も実施された。

圏域ごとの調査結果については、地域医療協議会に諮り、圏域における保健医療計画の進捗状況について協議するとともに、保健医療計画（ホームページ）に掲載する医療機関名リストに反映させることとなっている。

精神疾患については、平成30年度から調査項目が拡大し、摂食障害も調査することとなった。

2 スケジュール

時 期	内 容
令和4年11月	・ 県医療政策課から、各保健所宛て調査実施について依頼 ・ 各保健所から対象医療機関宛て依頼
令和5年1～3月	・ 保健所にて集計し、各圏域の地域医療協議会において協議
令和5年5月	・ 各保健所から障害福祉課に報告された協議結果を集計し、医療政策課に報告
令和5年8月	・ 医療審議会において医療連携体制を担う医療機関を報告
令和5年9月	・ 保健医療計画医療機関名リスト公表

3 令和4年度調査結果

令和5年9月に、調査結果について医療政策課からHPで公表。内容は以下のとおり。

(URL:<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/iryoseisaku/1039973/1044654/1023819.html>)

(1) 県連携拠点機関（県内3か所）

役 割	医療機関名
県下全域の拠点として <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集発信 ・ 人材育成 ・ 地域（圏域）連携拠点機関の支援 ・ 難治性疾患等への対応 	浜松医科大学附属病院 県立こども病院 県立こころの医療センター

圏域別

① 圏域別の医療機関に求められる事項

項目	医療機関に求められる事項
地域連携拠点	・精神症状悪化等の緊急時の対応体制及び多職種によるチームによる支援体制、医療・福祉関係機関等と連携した支援体制の確保 ・県下全域拠点と連携した情報発信や多職種による研修の実施及び地域精神科医療機関への相談支援や難治性疾患等への対応
診断及び治療が可能	当該疾患に対応した専門的なプログラム(認知行動療法、家族教室、心理教育等)を実施

② 圏域別医療機関名

圏域	地域連携拠点	診断及び治療が可能
賀茂	—	—
熱海伊東	—	—
駿東田方	—	○沼津中央病院 ○ふれあい沼津ホスピタル □NTT東日本伊豆病院 ○東富士病院
富士	○鷹岡病院 ○富士心身リハビリテーション研究所附属病院	○南富士病院
静岡	—	—
志太榛原	○焼津病院 ○藤枝駿府病院	藤枝市立総合病院
中東遠	□菊川市立総合病院	○服部病院 ○福田西病院 豊田えいせい病院
西部	○三方原病院 ○精神科・神経科浜北病院 □聖隷三方原病院	○佐鳴湖病院 ○神経科浜松病院 浜松南病院 ○朝山病院

※「○」は精神科病院、「□」は精神病床を有する病院、■は新規
(参考：R3→R4 削除医療機関)

国際医療福祉大学熱海病院(熱海伊東)、三島森田病院(駿東田方)、大富士病院(富士)、掛川北病院(中東遠)、小笠病院(中東遠)、川口会病院(中東遠)

支援拠点病院

初診患者数 (R5.4・R5.11) 39人

初診患者数	39人							
性別	女性	男性						
	37人	2人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	1人	24人	10人	3人	1人	0人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	20人	5人	4人	0人	1人	9人	0人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	28人	5人	6人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	2人	9人	12人	1人	5人	4人	6人	0人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	27人	1人	2人	9人				

入院患者数 (R5.4・R5.11) 34人

入院患者数	34人							
性別	女性	男性						
	33人	1人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	1人	13人	16人	1人	1人	2人	0人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	17人	6人	3人	1人	3人	3人	0人	1人
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	3人	8人	9人	3人	2人	2人	6人	1人

協力病院：初診患者数／入院患者数(令和5年4月-令和5年11月)

静岡県立こども病院：19名／8名（30名／15名）

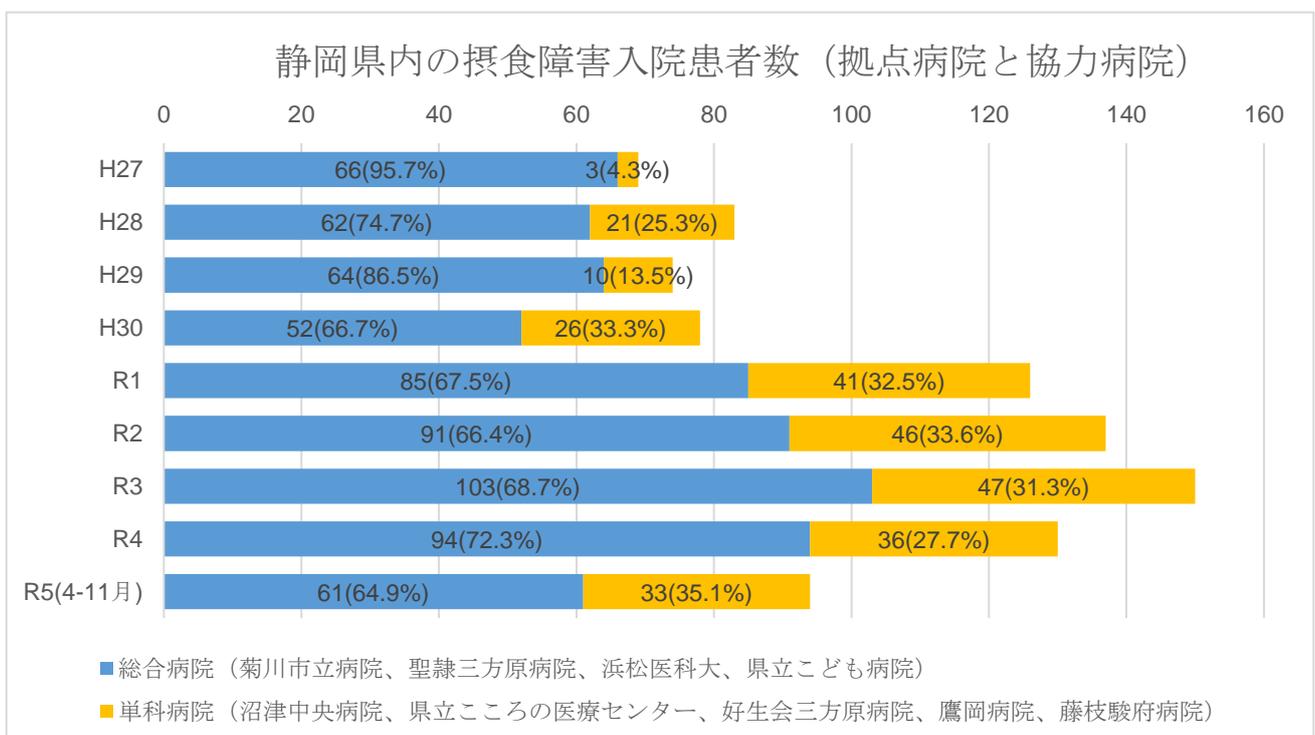
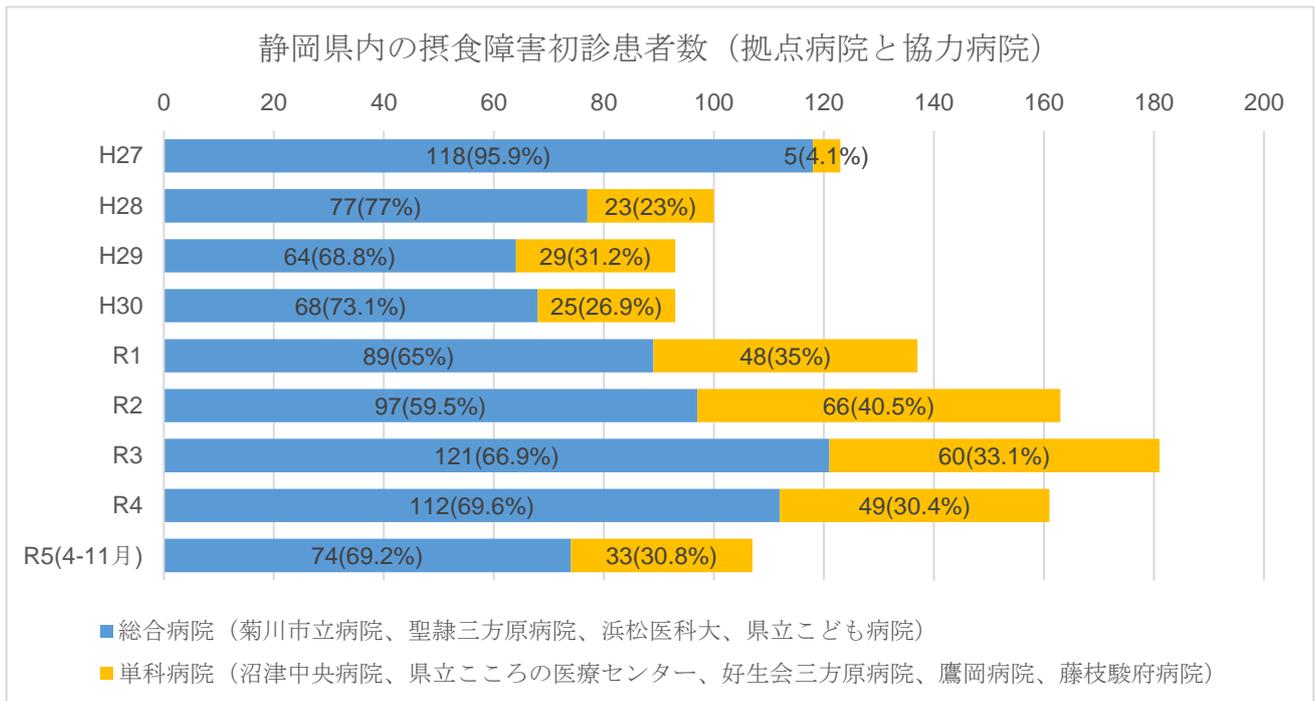
菊川市立総合病院：8名／3名（7名／5名） 聖隷三方原病院：10名／13名（16名／15名）

沼津中央病院：6名／14名（14名／9名） 鷹岡病院：3名・1名（4名／2名）

静岡県立こころの医療センター：17名／11名（21名／19名）

藤枝駿府病院：6名／7名（7名／2名） 好生会三方原病院：1名／0名（3名／4名）

*（）内は昨年度



6. 研修

研修体制・計画

1. ゲートキーパーへの研修（養護教諭・産業医）
2. 児童思春期の摂食障害診療者（精神科医・小児科医およびコメディカル）への研修
3. 摂食障害診療のためマテリアルの作成
4. 摂食障害入院・外来治療連携病院、精神科領域専門医研修プログラム連携病院、子どものころ専門医機構研修施設群へのマテリアルの配布（配信）

研修実施結果

講習会、研修会、ミーティング等

	開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
第1回	令和5年5月25日	ルンドベック・ジャパン、武田薬品社員	34名	ルンドベック・ジャパン(株)社員研修会 摂食障害について	浜松駅前ビル Web配信
第2回	令和5年6月19日	福井県内の精神科医師、コメディカル	68名	Psychiatry WEB Seminar 摂食障害の外来診療～患者に治したいと思わせるための診療のコツ～	Web配信
第3回	令和5年7月8日	奈良県内精神科医	18名	第8回Nara Young Meeting 『摂食障害の入院診療～精神療法から栄養管理まで～』	Web配信
第4回	令和5年8月8日	静岡県内小中学校養護教諭	669名	静岡県養護教員講習会「摂食障害について～発見から治療、支援へ～」	グランシップ中ホール
第5回	令和5年8月24日	県立高等学校・特別支援学校養護教諭	191名	高等学校・特別支援学校養護教員研修会「摂食障害について～発見から治療、支援へ～」	静岡県総合教育センター（掛川市）
第6回	令和5年9月26日 10月10日	独協大学精神科医師	若干名	院内勉強会 「摂食障害診療総論」 「入院プログラム解説」	web配信
第7回	令和5年10月14日	四日市内、周辺地域の医師	22名	第3回ななし会精神科講演会「摂食障害の外来診療と医療連携～患者に治したいと思わせるための診療のコツ～」	プラトンホテル 四日市 (ハイブリッド)
第8回	令和5年10月27日	石川県、福井県内の医師、コメディカル	59名	第132回 石川県神経科精神科医会学術講演会 「浜松医科大学における摂食障害の治療と取り組み～併存する気分障害への対応もふまえて～」	TKPガーデンシティpremium金沢駅西口（ハイブリット形式）
第9回	令和5年11月10日 12月1日 12月15日	産業医	54名 44名 26名	産業医研修 「摂食障害の理解と職場における支援について」	アクトシティ浜松研修交流センター、静岡労政会館、三島市民文化会館
第10回	令和5年12月11日	精神科医・小児科医	アクセス数 小児38 成人66	第3回 摂食障害治療研究	web配信

				会（症例検討会） ※精神科と小児科の連携	
第12回	令和6年1月27日	精神科医・小児科医	小児5 精神12 研修医1	第1回静岡県摂食障害治療 小研究会（症例検討会）	web配信
3、4の摂食障害診療のためマテリアルの作成とその配布については、本事業の摂食障害入院・外来治療連携病院、精神科領域専門医研修プログラム連携病院、静岡県子どもこころ専門医研修施設群との要望を聞きながら作成を進めることとした。					

第3回 静岡摂食障害治療研究会

日程 **12/11 (月) 18:30~20:00**

座長 浜松医科大学医学部 精神医学講座 教授
山末 英典 先生

講演① 18:30~19:00
演者 静岡県立吉原林間学園診療所 院長
櫻井 類 先生
「**児童心理治療施設におけるADHD**」

講演② 19:00~20:00
演者 静岡県立こども病院 こころの診療部 こころの診療科 医長
伊藤 一之 先生
「**回避・制限性食物摂取症 (ARFID: Avoidant / Restrictive Food Intake Disorder) の理解と治療・支援について**」

■ Webで参加される先生方は、講演会前までに、事前申し込みが必要となります。左記二次元コードからの申し込み、または弊社担当までご連絡ください。
■ 講演会前日(12月10日)までに申し込みを完了してください。
■ 申し込みは、本講演会に関する権利・連絡のためのみに使用し、第三者に開示・提供することはありません。また、個人情報保護法に基づき、適切に管理いたします。

Takeda 武田薬品工業株式会社

第1回静岡県摂食障害治療小研究会
～小児科・精神科にまたがる症例を通して～

共催：浜松医科大学附属病院精神科神経科（静岡県摂食障害支援拠点病院）、
県立こども病院こころの診療科
後援：浜松医科大学附属病院小児科、静岡県小児科医会、静岡県精神科病院協
会、静岡県精神科神経科診療所協会

日時
2024年1月27日(土) 14:00~16:00

開催形式：ウェブ開催 (Zoom webinar)
*事前参加申し込みの方法は裏面に記載しています。

プログラム

共同座長：県立こども病院こころの診療部 部長 大石聡 先生
浜松医科大学 精神科神経科 講師 竹林淳和 先生

症例1 14:00~14:50 (50分)
【小児科から精神科へ、多施設連携により
治療へつなげられた摂食障害の一例】
共同演者：聖隷浜松病院小児科 **高山 早紀 先生**
浜松医科大学附属病院 精神科神経科 **中村 佳夏 先生**

症例2 14:50~15:40 (50分)
【摂食障害の背景にアプローチした入院治療の一例】
演者：県立こども病院 こころの診療部 **八木 敦子 先生**

総合討論 15:40~16:00 (20分)

■小児科からの意見

- DSM5 から ARFID の言及はされていたはずだが詳しく勉強できてなかったから収穫があった。ただ実際に介入するのは難しい。
- 実際に専門病院に摂食障害 ARFID の患者さんを紹介したいときにどんな状態だと受け入れて頂きやすいものなのか？(例えば病識はつけた、体重記録とかは親に同意してもらえている、とか)
- 身体疾患が除外でき摂食障害の診断がつきそうであれば、小児科では抱えずに精神科に紹介している。
- リフィーディング症候群には慣れていない
- 栄養や食事についても何を話したらよいかわからない
- 精神科のように診療時間を確保することはできない

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- | |
|--|
| 1. 一般市民、摂食障害当事者、家族、支援者を対象とした摂食障害に関する普及啓発活動を行う。 |
|--|

普及啓発活動実施結果

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
令和5年 10月28 日	一般市民、当事者、家族、支援者	58名	静岡県摂食障害フォーラム2023「子どもの摂食障害～神経性やせ症ではない多様な形」「こんな時どうする？～摂食障害当事者への声掛けと対応～	静岡県産業経済会館
<p>〈プログラム〉</p> <p>第1部 子どもの摂食障害 ～神経性やせ症ではない多様な形～ 講師：静岡県立こども病院 大石聡先生</p> <p>第2部 15:00～15:50 ◆こんな時どうする？ ～摂食障害当事者への声掛けと対応～ ◆当事者の体験談と交流</p>				

インターネット

静岡県摂食障害支援拠点病院 ホームページ <http://www.shizuoka-ed.jp/>

(令和5年9月リニューアル)

主催：静岡県、静岡県摂食障害支援拠点病院
共催：静岡市こころの健康センター、浜松市精神保健福祉センター

静岡県摂食障害 フォーラム 2023



摂食障害は治ります！
みんなで学びを深めませんか？

日時 2023年10月28日（土）
場所 静岡県産業経済会館 3階 特別会議室
静岡県静岡市葵区追手町44-1
静岡駅から車で約7分、徒歩で約20分

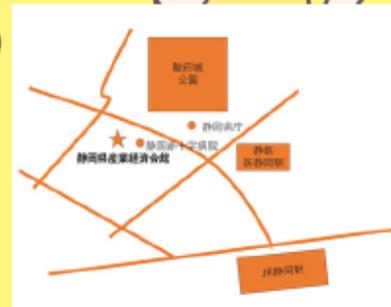
プログラム 第1部 14:00～14:50
子どもの摂食障害
～神経性やせ症ではない多様な形～
講師：静岡県立こども病院 大石聡先生
第2部 15:00～15:50
◆こんな時どうする？
～摂食障害当事者への声掛けと対応～
◆当事者の体験談と交流
(第2部はどちらか一方へのご参加となります。)

対象 当事者、家族、支援者、
摂食障害に関心のある県民

定員 140名（先着順）

参加費 無料

Map



申し込み方法

QRコードもしくはホームページより
お申込みください。
お問い合わせはお電話にて
どうぞ。



静岡県摂食障害支援拠点病院
(浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科内)



www.shizuoka-ed.jp

☎ 053-435-2295 平日9時～15時半

こちらの電話番号は、本フォーラムの問い合わせ専用です。
静岡県立こども病院の受付時間とは異なります。

※個人情報の守秘を守る方に限ります。
※録音・録画は固くお断り致します。
※公共交通機関でお越しください。

8. 行政機関との連携

計画

- 『第7次医療計画』における医療連携体制の構築において、静岡県健康福祉部障害者支援局と連携し、摂食障害の治療体制を確立し、(平成30年度からの6か年計画)。
- 家族教室運営の行政への移行：2019年度に静岡市こころの健康センターに運営を移行した家族教室において、医療機関よりスタッフの派遣を行う。
- 行政が運営する家族支援と医療との連携

実施結果

- 『第8次保健医療計画』の「疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果」として令和5年9月に静岡県のウェブサイト「県連携拠点機関」「圏域別医療機関名」として掲載された(参照：『令和4年度疾病又は事業ごとの医療連携体制調査結果(摂食障害)』)
- 静岡市こころの健康センターとの共同で家族教室を行った。浜松市精神保健センター主催の家族サロンにピア・サポーターを派遣した
- 浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院が参加し、浜松市の摂食障害の連携、支援について検討した。本年度より、市内の小児科医が交代で参加。

静岡市こころの健康センター主催：【家族向け教室】摂食障害 家族教室

日程：令和5年12月～令和6年2月 土曜日(全3回)

(12月16日(土)、1月27日(土)、2月17日(土))

静岡市こころの健康センター主催の「家族向け教室」摂食障害 家族教室のウェブページ。ページには、開催日時(令和5年12月16日、1月27日、2月17日)、時間(10:00-12:00)、対象(摂食障害をかかえる方のご家族 8家族)、申し込み状況(只今、申し込み受付中)が記載されている。

令和5年度 摂食障害家族教室のポスター。参加無料要申込、対象は摂食障害をかかえる方のご家族8家族、申し込み・問い合わせ会場は静岡市こころの健康センター(054-262-3011)と記載されている。

会場	静岡市こころの健康センター (アクセスは裏面参照)		
第1回	令和5年12月16日(土)	10:00-12:00	摂食障害への効果的な対応
第2回	令和6年1月27日(土)	10:00-12:00	摂食障害の症状を知ろう
第3回	令和6年2月17日(土)	10:00-12:00	摂食障害の回復・サポートのコツ

浜松市精神保健福祉センター主催：家族交流サロン

令和5年7月22日「摂食障害家族サロンひまわり～ピアサポーターとの交流」

令和5年11月25日「摂食障害家族サロンひまわり～ピアサポーターのお話を聞いてみよう」

場所：浜松市精神保健福祉センター

摂食障害家族サロン ひまわり
～ピアサポーターとの交流～

令和5年7月の家族サロンひまわりでは、摂食障害の回復者であるピアサポーターをお招きします。当事者のお気持ちから回復者の方と一緒に考えてみませんか？ご参加には事前の予約が必要です。お気軽にお問い合わせください。

※摂食障害を抱える方のご家族限定の会となります。

日時 令和5年
7月22日(土) 午後1時30分～午後3時30分

申込 令和5年
7月21日(金) までにお電話にてお申込ください。

会場
浜松市中区中央1丁目13-3
ウィステリアE-one3F
浜松市若者コミュニティプラザ内
※会場案内の詳細は裏面をご覧ください。

申込・問合せ
浜松市精神保健福祉センター
☎ 053-457-2709
平日午前9時30分から午後6時15分まで

特別企画
摂食障害家族サロン ひまわり

ピアサポーターのお話を聞いてみよう

※ピアサポーターとは、回復傾向にある当事者の方です。

今回は、サロンひまわりにピアサポーターの方々をお招きしてご参加いただいたご家族の困りごとやまどい等についてピアサポーターからご自身の体験や感じたことをお話いただき、共有します。

日時 令和5年11月25日(土)
午後1時30分から午後3時30分
ZOOMにてオンライン開催

対象 摂食障害をかかえる方のご家族

申込 先着12家族
令和5年11月24日(金)締切

申込・問合せ

◎初めての方はお電話でお申込みください。
浜松市精神保健福祉センター
☎ 053-457-2709
平日午前9時30分から午後6時15分まで
(祝日、年末年始を除く)

◎2回目以降の参加の方は以下のQRコードもしくはお電話にてお申込みください。

普段のサロンでは、同じ境遇にあるご家族同士で話をし当事者との関わりで困っていることや感じていることを共有しています。

連携会議等

開催日	参加者	参加人数	内容	実施場所
R5/5/15	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医	11名	摂食障害支援検討会	浜松市精神保健福祉センター
R6/1/29	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医	12名	摂食障害支援検討会	浜松市精神保健福祉センター

■小児科からの意見

- 小児科では「精神科」の名前を出すと驚かれることもある。
- ガイドラインや成書には記載されていない、実際的なやり取りを動画等のマテリアルで見られると良い。

9. その他の活動

実施体制・計画

1. ピア・サポーターを養成と治療・支援への継続的な参加。
1.1 摂食障害フォーラムへの参加（参照：『7. 普及啓発活動』）
1.2 浜松医科大学精神科神経科受診中の摂食障害患者のためのグループセラピーへの参加
1.3 行政との協同による家族支援（参照：『8. 行政機関との連携』）

実施結果

	開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
第1回	令和5年5月27日	当事者	7	当事者グループ（交流会）	オンライン
第2回	令和5年9月23日	当事者	10	当事者グループ（交流会）	オンライン
第3回	令和6年1月20日	当事者	6	当事者グループ（交流会）	オンライン
第4回	令和5年11月25日	家族	6	浜松市精神保健福祉センター主催家族サロンひまわり	オンライン
第5回	令和5年4月8日、22日、5月13日、29日、6月10日、24日、7月8日、22日、8月5日、19日、9月9日、9月23日、10月14日、10月28日、11月11日、25日、12月9日、23日、令和6年1月20日、2月3日、3月9日、23日	当事者	（参加延べピアサポーター） 78名（2月末現在）	継続的な当事者グループ	オンライン

10. 考察

(1) 治療者が継続的に診療を行う体制づくり

静岡県内では入院治療の均てん化が進んでいるが、外来診療は地域差の是正や治療の質の向上の必要がある。来年度は『精神科領域専門医研修プログラム』や『子どものこころ専門医機構研修施設群』などの精神科の専門医研修の施設と連携し、研修医・専攻医が継続的に摂食障害の診療に従事する機会を確保するとともに、研修の体制づくりを進める。これらの摂食障害を診療する医師の継続的な育成を通して、摂食障害診療のさらなる均てん化を図る。

(2) 小児科との連携について

本年度は昨年度までの精神科・小児科が合同で参加する講演会に加え、症例検討会を初めて開催し、小児科における摂食障害診療の質の向上を図るとともに、小児科と精神科との医療分担・連携についての相互理解を深めた。また、浜松市では行政主導での支援検討会に小児科医が参加し、診療上の課題について検討した。これらは来年度も継続していく。

(3) 治療研修の在り方について

基幹センター（NCNP）で外来治療研修、入院治療研修が開催されるようになり、当県では拠点病院主導での病院研修は行っておらず、県内の治療者に対しては基幹センターの研修への参加を促すことで、拠点病院の負担軽減につながっている。今後は基幹センターでの治療研修と県内の事業における治療支援のすみわけについても、対策推進協議会や専門医研修プログラムの委員会等において検討したい。

6. 福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和5年度

福岡県摂食障害支援拠点病院

Fukuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院 心療内科	812-8582	福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

2. 要旨

福岡県摂食障害支援拠点病院（旧：福岡県摂食障害治療支援センター）は2015年12月より、摂食障害患者や関係者への相談支援、摂食障害に診療経験の少ない医療機関への助言指導、県民に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、福岡県における摂食障害医療体制の構築を目指し活動している。

本年度も有識者により構成される福岡県摂食障害対策推進協議会を設置し、計画の策定、検証を行った。

相談支援における相談者数は、例年よりも多いペースで推移している。COVID-19パンデミックの影響が弱まってきていることも要因として考えられる。またメールでの相談が増えたのは、ホームページに相談フォームを作成したことで利用者が気軽にアクセスしやすくなったことが要因として考えられる。

助言指導では、出張講習において、単科精神科病院だけでなく、福岡県精神神経科診療所協会へも案内を行った結果、クリニックからも研修会開催の希望があり実施した。子どものこころ診療部との連携においては、発達障害が疑われる患者についての診療の橋渡しがスムーズに行われるようになっていいる。小児例については福岡大学小児科と連携し、診療の役割分担が進んでいる。本年度より、県内の内科系医療機関に対する連携調査を開始し、約2000の医療機関にアンケートを送付した。

普及啓発活動においては、学校関係者への研修会はハイブリッド形式で開催し、これまで以上に多数の参加者を得ることができた。教員や養護教諭が摂食障害患者に遭遇した際の対処法や医療との連携について学ぶ機会となった。啓発リーフレットはホームページに掲載、自由にダウンロードできるようになった。

以上、相談者の推移から、事業が早期発見・早期治療および潜在患者の掘り起こしに寄与している可能性が考えられた。また、県内の医療連携に加え、院内の連携についての新たな展開が期待され、発達障害合併例や小児例を含むより幅広い医療連携が構築されている可能性が考えられた。また、早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	楯林 英晴	福岡県精神保健福祉センター所長	福岡県
委員	宗 真由美	福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課職員	
同上	大村 重成	福岡保養院院長・福岡県精神科病院協会副会長	摂食障害治療を専門的に行なっている医師
同上	原 祐一	原土井病院副理事長・福岡県医師会理事	
同上	永光 信一郎	福岡大学医学部小児科学講座主任教授	
同上	藤田 浩介	北九州市立精神保健福祉センター所長	精神保健福祉センター 保健所
同上	川口 貴子	福岡市精神保健福祉センター所長	
同上	高田 淳子	福岡県田川保健福祉事務所保健監	
同上	今村 浩司	西南女学院大学教授 福岡県精神保健福祉士協会会長	摂食障害対策に資するもの
同上	-	-	摂食障害患者
同上	-	-	摂食障害家族
事務局	山田 修平	福岡県保健医療介護部健康増進課 こころの健康づくり推進室	/
	重松 貴博		
	中川 洸平		
	須藤 信行	九州大学病院 心療内科	
	高倉 修		
	波多 伴和		
	権藤 元治		
	戸田 健太		
	末松 孝文		
	北島 智子		

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 5 年 6 月 28 日 (Web 開催)	1. 令和 4 年度事業実績報告について 2. 令和 5 年度事業実施計画について 3. その他
第 2 回	令和 6 年 2 月開催予定 (書面開催)	令和 5 年度事業実績報告、令和 6 年度以降の取り組みについて

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（保健師）1名による電話・メール・面談での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～16時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・相談件数は例年より多いペースで経過している。
- ・メールでの相談が増えた。ホームページに相談フォームを作成したことで、利用者が気軽にアクセスしやすくなったことが要因として考えられる。
- ・10代の若年患者に関する相談は2020年をピークに例年並みに戻ったが、20代までの若者からの相談は年々増加している。
- ・連携医療機関の増加により、九大病院以外の医療機関への患者案内が進んでいる。

相談件数

期間	相談件数		相談経路（延べ件数）			地域（新規）		
	延べ	新規	電話	メール	面談	県内	県外	不明
R5/4-11	266	207	184	79	3	173	30	4

相談者（新規）

期間	本人	家族				機関			その他	不明
		父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育		
R5/4-11	80	12	58	5	5	20	1	16	8	2

相談対象患者の年齢（新規）

平均年齢：25.7歳（SD=12.8） n=207

期間	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外
R5/4-11	5	47	56	26	11	7	0	2	31	22

相談対象患者の性別（新規） n=207

期間	女性	男性	その他	不明	個別以外
R5/4-11	164	12	-	9	22

患者状態（新規） n=207

期間	やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
				嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
R5/4-11	96	85	91	70	18	5	30	6	19	25	7	1	4	30

患者属性（新規） n=207

期間	学生				社会人			その他	不明	個別以外
	小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦			
R5/4-11	13	15	11	26	56	14	11	3	36	22

摂食障害での受診状況（新規） n=207

期間	受診中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	個別以外
R5/4-11	59	28	49	19	0	30	22

センターを知ったきっかけ（新規件数） n=207

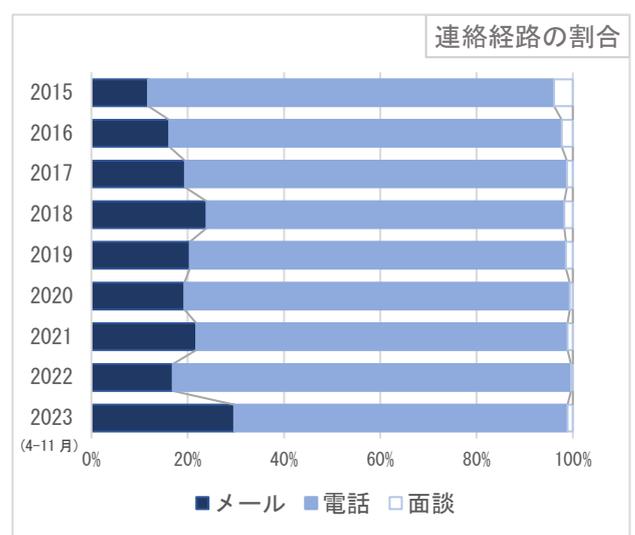
期間	インターネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明
		機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体 広報	その他・ 不明			
		医療	行政	教育								
R5/4-11	124	17	5	9	8	1	0	0	0	17	10	16

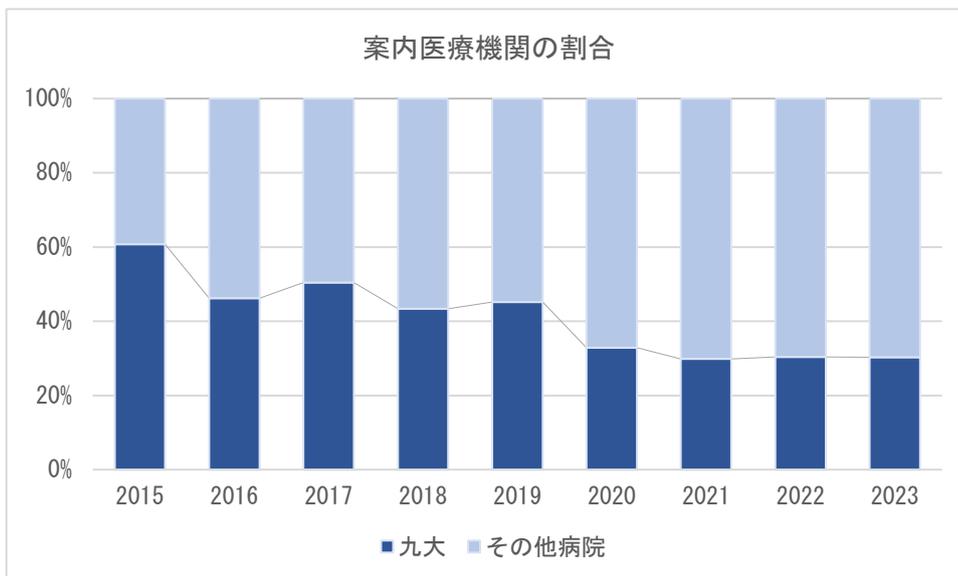
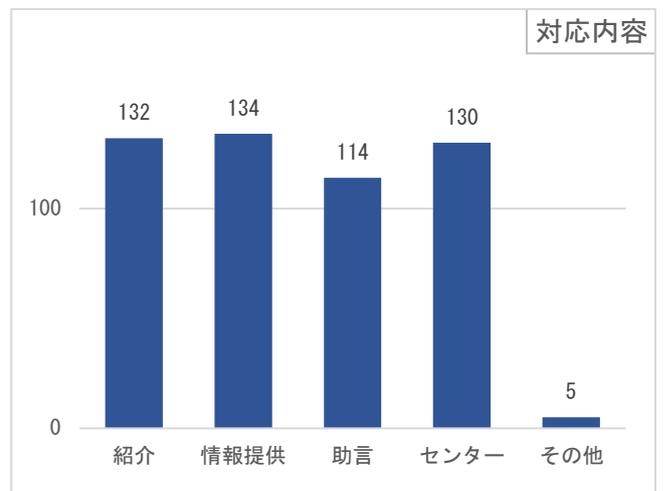
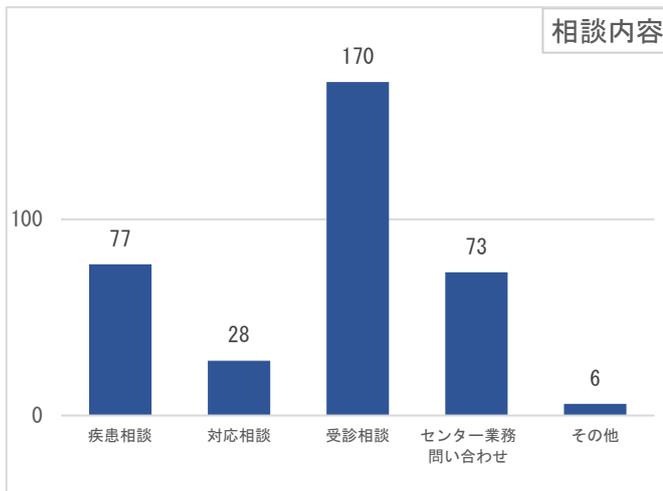
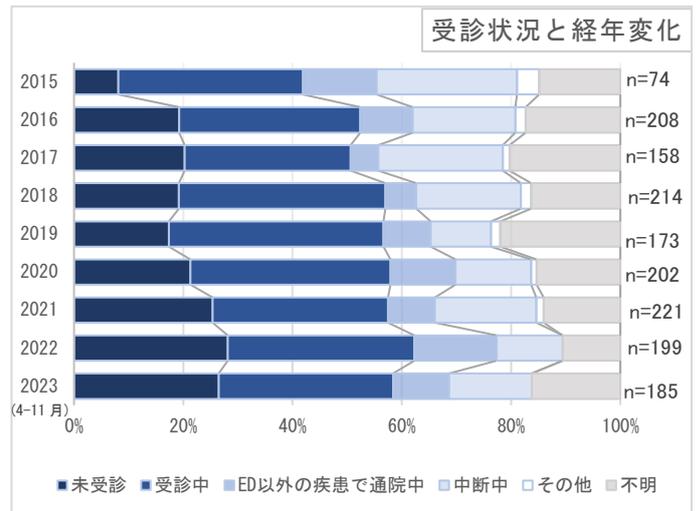
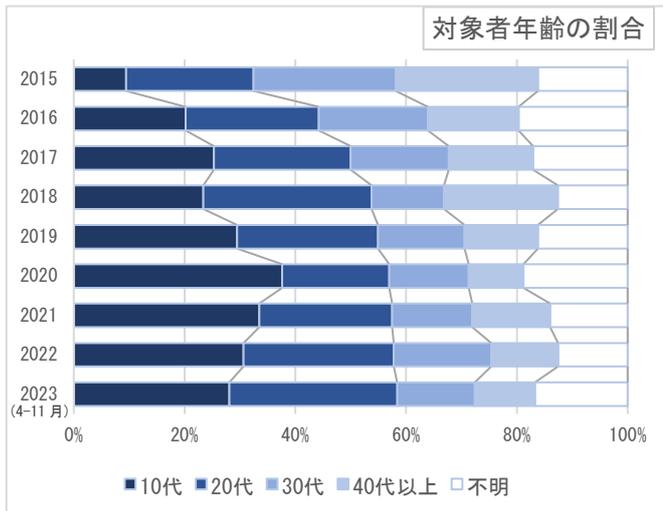
相談内容（延べ件数） n=266

期間	疾患相談	対応相談				受診 相談	問い合 わせ	その他	コロナ 関連
		有り	接し方	生命 危機	受診 拒否				
R5/4-11	77	28	18	3	18	170	73	6	3

対応内容（延べ件数） n=266

期間	紹介先				情報提供					助言	問い 合わせ 対応	その他	
	有り	基幹 病院	協力 病院	他の 医療機関	公共 機関	有り	疾患 知識	治療 受診	資料				社会 資本
R5/4-11	132	49	76	47	22	134	48	115	8	1	114	130	5





5. 治療支援

治療体制・計画

- ・心療内科医師 5 名。
- ・身体的に重篤な患者に関して（BMI < 12kg/m²）は九州大学病院心療内科などの内科系の医療機関の受診を促し、衝動性の強いパーソナリティ障害が疑われるような症例は、精神科系の医療機関への受診を促す。
- ・病状に応じて患者を診療できるような医療機関の連携体制を構築するために、医療機関向けに研修を行い、患者を診療できる医療機関をさらに増やす。
- ・内科を有する医療機関に医療連携に関する調査を行う。

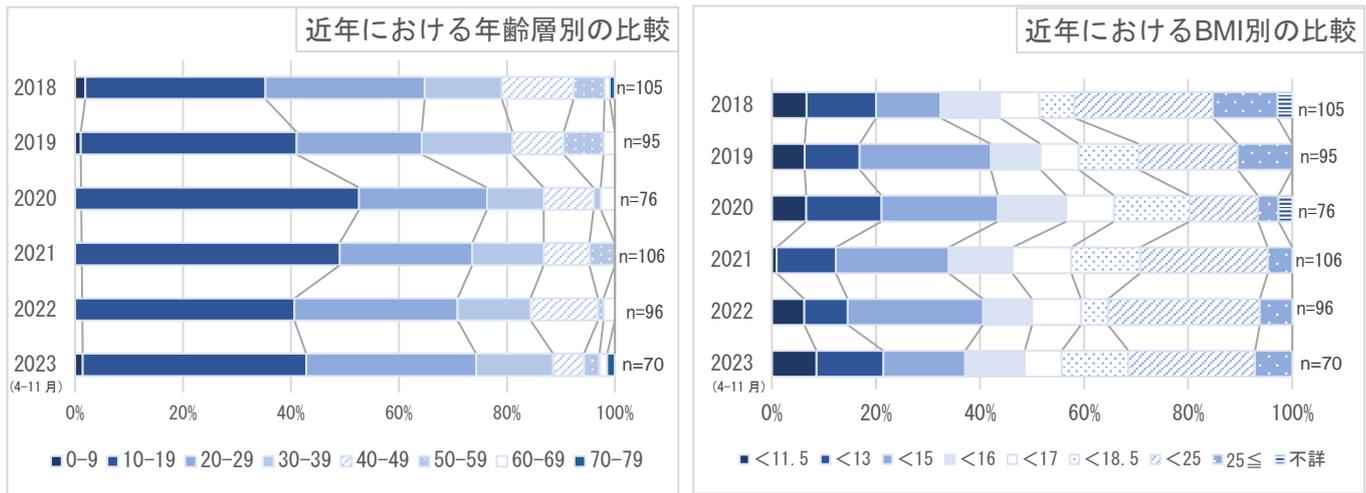
治療支援実施結果

- ・10代の受診患者の割合は多い傾向にあるが、2020年がピークであった。
- ・医療連携に関する調査を内科系医療機関向けに実施した。令和5年12月末時点での回収率は31.1%であった。

支援拠点設置病院

初診患者数（R5.4-12） 70人

初診患者数	96人							
性別	女性	男性						
	68人	2人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	1人	29人	22人	10人	4人	2人	1人	1人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	24人	14人	20人	2人	3人	6人	0人	1人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	60人	4人	9人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	6人	9人	11人	8人	5人	9人	17人	5人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	58人	9人	1人	2人				
治療期間平均	3.6ヶ月							



医療連携に関するアンケート調査

【目的】 県内の摂食障害診療の状況や医療連携について把握する

【対象】 福岡県内の内科を有する医療機関 2005 施設

(昨年小児科を有する医療機関向けに調査依頼した施設を除く)

【方法】 調査票、返信用封筒を送付し、回答はウェブ、郵送、FAX のいずれかの方法で回収する

【調査期間】 令和 5 年 12 月 6 日～令和 6 年 2 月 16 日

【調査項目】

- ・ 主たる診療科
- ・ 摂食障害患者の診察人数
- ・ 県内の医療連携が進めば、摂食障害の診療を行うことは可能か

【進捗状況】

- ・ 配布数：2005
- ・ 対象数：1975 (閉院、転居先不明であった 30 施設を除外)
- ・ 回答数：令和 5 年 12 月末現在 615 (回収率 31.1%)
- ・ 現在回収中のため、次年度内に結果を取りまとめる予定である。

6. 研修

研修体制・計画

- ・ 県内の精神科病院等に対し、出張講習を実施する。
- ・ 医療関係者を対象とした摂食障害に関する研修会を開催する。
- ・ 摂食障害の理解促進を図るため、学校関係者向け研修会を実施する。

研修実施結果

- ・ 現地開催、研修ビデオのオンデマンド配信、ハイブリッド開催など、研修形式の選択肢の幅を広げた。
- ・ 看護部長向けの研修会は、昨年に引き続いて要望があり実施した。
- ・ 食に関する指導研修会は、オンラインでの開催予定であったが当日天候不良で中止となり、先に配布していた資料で各自自主学習となった。
- ・ 出張講習では、クリニックからの申し込みがあり実施。昨年実施した 3 回シリーズの医療関係者向け研修会の録画を視聴していただき、質疑応答を対面で受けた。
また、2月に開催予定の出張講習では、これまで1日で行なっていた研修を2回に分け実施予定。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
R5.5.29	研修会	筑後地区精神科病院 看護部長及び職員	福精協看護部長会筑後地区研修会 「摂食障害の対応について」	オンライン	24
R5.7.7	出張講習	ひとやすみこころの クリニック	摂食障害の病態	録画配信	10
R5.7.10	研修会	食育、給食担当者	令和5年度食に関する指導研修会 「摂食障害の理解と対応について」	各自資料研修	70
R5.7.14	出張講習	ひとやすみこころの クリニック	摂食障害の初期治療	録画配信	10
R5.7.21	出張講習	ひとやすみこころの クリニック	摂食障害治療の実際	録画配信	10
R5.7.21	出張講習	ひとやすみこころの クリニック	質疑応答	ひとやすみこころの クリニック	10
R5.12.22	研修会	学校関係者	学校関係者向け摂食障害研修会 「摂食障害の治療 ～実際の症例を通して～」	アクロス福岡 607会議室 /オンライン	165 現地 46 Web 119
R6.1.15	出張講習	丸野クリニック	摂食障害 概論/症例編	丸野クリニック	12
R6.2.8 予定	出張講習	行橋記念病院	摂食障害 概論	オンライン	/
R6.2.15 予定	出張講習	行橋記念病院	摂食障害 症例編	オンライン	



学校関係者向け研修会アンケート結果

【回答】113（回収率 68.4%）

【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・学校での栄養指導も大切であるが、早期発見や早期治療のために医療機関へもつなぐことの大切さを感じた。
- ・健康診断やバイタルサインで摂食障害に気づくことの重要性を再認識した。
- ・強く受診を勧めるタイミングなどの基準が整理された。
- ・摂食障害と一括りにいっても、様々なタイプがあることを知った。
- ・事例を見ていく中で、回復していく経過を知ることができた。
- ・保護者や病院、学校での連携がとても大切になることを実感した。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、県民向け公開講座を実施する。
- ・これまでに作成したリーフレットをホームページに掲載、随時ダウンロードできるようにする。
- ・リーフレット掲載について、学校関係、精神科医療機関などへ周知する。
- ・ホームページを随時更新する。
- ・インターネット（関連機関 HP との連携や SNS）を利用した情報発信を促進する。
- ・内科を有する医療機関に利用案内、疾患啓発リーフレット、相談案内カードを配布する。

普及啓発活動実施結果

- ・ホームページにリーフレットを掲載した。リーフレットを見て病気かもしれないと相談があったケースもあり、疾患啓発の一助となっている。
- ・インターネットのアクセス数は例年に比べ増加した。リーフレットを掲載したことも影響していると考えられる。相談のきっかけはインターネットが最も多いことから、情報発信として重要である。
- ・内科を有する医療機関に各種リーフレットと医療連携アンケートを送付した。内科かかりつけ医より紹介で相談されたケースもあり、拠点病院を知っていただく機会となったと考えられる。

講演会

開催日	種別	対象者	参加数	内容	実施場所
R6.1.27	公開講座	一般	73 オンライン：61 会場視聴：12	「やせと肥満の栄養指導」 東京大学医学部附属病院病態栄養治療部 副病態栄養治療部長 関根里恵先生	オンライン / 九州大学病院 コラボステーション I 視聴覚ホール

メディア関係

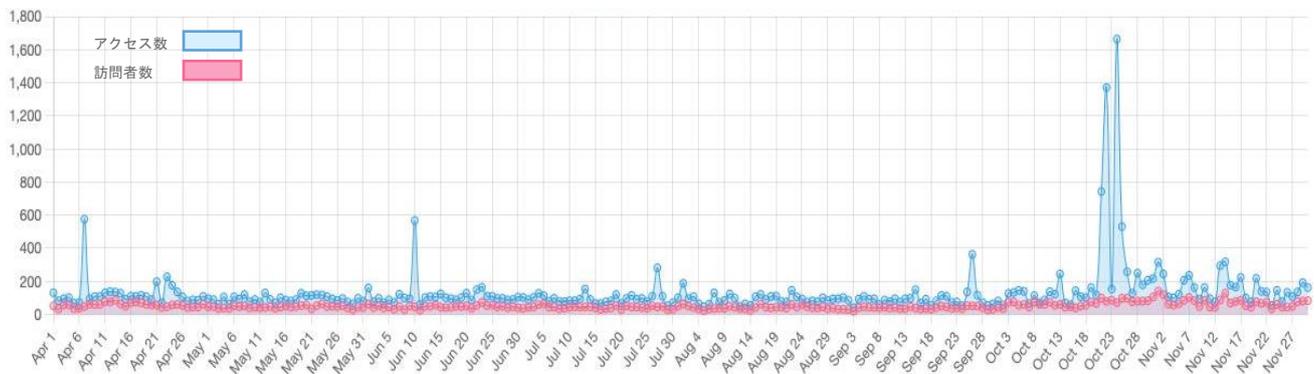
開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R5.6.12 オンエア	テレビ西日本 「記者のチカラ」	摂食障害とは

出版物

■ 雑誌

- 高倉修, 須藤信行. 摂食障害. 医学と薬学 80(5) : 483-89, 2023
- 高倉修. [摂食障害の治療] 認知行動療法—なぜ現在の形式となったのか. 精神医学 65(9) : 1262-70, 2023
- 高倉修. 過食性障害（むちゃ食い症）. 精神科 Resident 4(3) , 2023
- 高倉修. 九州大学心療内科における摂食障害診療の現状と課題. 日本心療内科学会誌 27(3) , 2023

ホームページアクセス数（R5.4-11）



アクセス数 : 31,724 訪問者数 : 12,414

リーフレット

● ホームページ掲載の案内

送付日	周知先	周知方法
R5.10.31	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関関係（福岡県精神科病院協会、福岡県精神神経科診療所協会） 学校関係（県立大学、県立公立学校、政令市立学校） 市町村担当課 保健所・精神保健福祉センター 	メール
R5.11.2	大学（国立、公立、私立、短期大学、高専）43校	直接送付
R5.11.13	国立小・中学校 8校	直接送付

● 配布

配布日	配布先	配布物
R5.12.6	内科を有する医療機関 2005 施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用案内リーフレット 「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット 相談案内カード <p style="text-align: right;">各 1 部</p>

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、学校関係者向け研修会、県民向け公開講座を実施する。
- ・研修案内は県の関連部署に依頼し、案内周知に協力を得る。
- ・ホームページへのリーフレット掲載について、学校関係、精神科医療機関などへ周知する。
- ・内科を有する医療機関に医療連携に関する調査の実施とリーフレット送付について協力を依頼する。

研修実施結果

- ・学校関係者向けの研修会案内、リーフレット掲載のお知らせを、県担当者から福岡県、北九州市、福岡市、私学の教育担当部署に依頼して案内を行なった。
- ・精神科医療機関へのリーフレット掲載についての周知に当たり、県を通じて福岡県精神科病院協会、福岡県精神神経科診療所協会へ依頼、メールで案内された。
- ・出張講習の案内においては、福岡県精神神経科診療所協会へも依頼した結果、案内を見たクリニックから出張講習の希望があり実施へとつながった。
- ・案内通知に伴い、各窓口の担当部署が明確化された。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R5.5.17	事務局	第1回福岡県摂食障害対策推進協議会について	(メール)
R5.6.5		<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ ・昨年度実績について ・今年度計画について (研修会、リーフレット送付、医療連携に関する調査、協議会など) ・取材について 	福岡県庁 こころの健康 づくり推進室
R5.7.13		医療連携に関する調査について	(メール)
R5.10.12		出張講習先選定について	(電話)
R5.10-11		今後の拠点病院の周知について	(電話・メール)
R5.10-11		研修会案内、リーフレット掲載周知について	(電話・メール)
R5.11	県教育庁 体育スポーツ課	公立学校、国立学校へのリーフレット配布について	(電話・メール)

9. その他の活動

実施体制・計画

- 福岡県の指標
 - ① 支援拠点病院への相談件数（相談者の属性・相談内容・相談方法別）
 - ② 支援拠点病院における患者数：性・年齢別、疾病の属性別、外来・入院別
 - ③ 支援拠点病院における治療期間（治療終了、治療中、治療中断別）
 - 治療中の患者の 2024 年 3 月 31 日までの平均治療期間
 - 治療中断した患者の平均治療期間
 - 治療終了した患者の平均治療期間
 - ④ 支援拠点病院における受診後の患者の経過
 - 定期通院をしている患者の割合
 - 1 回の受診のみの患者の割合
 - 他院へ紹介した患者の割合
 - 中断した患者の割合
 - ⑤ 研修した医療機関受講者数
 - 医療機関における受講者数・理解度
- 全国支援センターより依頼の活動

実施結果

- ① 「4.相談支援」参照。
- ② ③ ④
 - ・相談窓口から九州大学病院を案内し受診に至った患者の割合は減少傾向にある。
- ⑤ 「6.研修」参照。

相談窓口から九州大学病院を案内し、実際に受診した患者数 (2023/4～11) 25 名

性別		疾患別	
女性	24 名	AN・R	5 名
男性	1 名	AN・BP	7 名
		BN	9 名
		BED	2 名
		ARFID	2 名
年齢別		外来・入院別	
10-19 歳	10 名	外来	22 名
20-29 歳	8 名	入院のみ	0 名
30-39 歳	4 名	外来・入院	3 名
40-49 歳	1 名		
50-59 歳	2 名		

BMI

< 11.5	< 13	< 15	< 16	< 17	< 18.5	< 25	25 ≤
3名	3名	5名	1名	1名	3名	7名	2名

治療状態

治療状態	患者数	割合	平均治療期間	標準偏差	最小	最大
治療中	21名	84.0%	122.1日	75.1	16日	262日
治療中断	4名	16.0%	43.3日	26.6	1日	70日
他院へ紹介	0名	-%	-日	-	-日	-日
(1回のみ受診)	0名	-%	-	-	-	-
計	25名	-	109.5日	75.4	1日	262日

拠点病院相談室から九大病院へ案内し、受診した患者数と割合の推移

	九大初診患者数	拠点病院に相談した患者数	拠点病院が案内に関わった割合
2015年度 (2016/1-3)	35名	10名	28.6%
2016年度	128名	33名	25.8%
2017年度	148名	34名	23.0%
2018年度	105名	35名	33.3%
2019年度	95名	31名	32.6%
2020年度	75名	16名	21.3%
2021年度	106名	28名	26.4%
2022年度	96名	19名	19.8%
2023年度	70名	25名	35.7%

全国支援センターより依頼の活動

開催日	種別	内容	実施場所
R5.9.28	研修会	摂食障害治療支援コーディネーター研修会	オンライン

10. 考察

相談支援：

相談者数は4月～11月の期間において過去最多であり、メール相談者の増加が顕著であった。これは、昨年度、ホームページ機能に、相談フォーム機能を追加し、アクセスしやすくなったことが影響していることが考えられる。10代の若年者の相談者の割合増加は2020年がピークで減少傾向にあるが、20代を加えると増加傾向にある。COVID-19パンデミックの影響は緩和し、事業が早期発見・早期治療に寄与している可能性が考えられた。新規相談者の割合の増加は、学校や一般市民、医療機関への啓発活動が、潜在患者の掘り起こしに寄与している可能性が考えられた。

助言指導：

連携医療機関の増加により、九大病院以外の医療機関への患者案内が進んでいる。背景には、県内の医療連携の充実が考えられ、引き続きの助言指導の重要性が示唆された。福岡県精神神経科診療所協会に研修会の案内をしていただいたこともあり、研修会希望の医療機関も数件みられた。各医療団体への積極的アプローチが啓発普及活動には重要と考えられた。また、現地開催、研修ビデオのオンデマンド配信、ハイブリッド開催など、研修形式の選択肢の幅が広がり、より研修が行いやすくなっている。

子どものこころの診療部や福岡大学小児科との連携も進み、発達障害を抱える若い患者や小児例に関する連携などが進んでいる。本年度より、県内の内科系医療機関に対する連携調査を開始し、約2000の医療機関にアンケートを送付し、現在解析中である。

普及啓発：

早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。本年度は過去最多の150名以上の学校関係者の参加が得られ、その関心の高さが窺えた。ホームページのアクセス数の増加は、HPへのリーフレット掲載など、コンテンツの充実が寄与した可能性が考えられる。引き続き、普及啓発活動を行い、摂食障害患者の早期発見・早期治療を促し、県内・院内の医療連携を強化していく。

7. 石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 5 年度

石川県摂食障害支援拠点病院

Ishikawa Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
石川県摂食障害支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827

URL

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
堂本 彩未	公認心理師 臨床心理士
渡邊 恵里奈	公認心理師 臨床心理士
多田 浩昌	公認心理師 臨床心理士

2. 要旨

石川県摂食障害支援拠点病院（以下、当院）は、金沢大学附属病院神経科精神科に設置されて令和4年10月3日より活動を開始し、今年度で1周年を迎えた。本報告書は、当院としては初の、「摂食障害支援拠点病院として1年間活動した結果の報告」となる。

今年度の大きな変化として、内藤暢茂医師が異動により当院の職員から外れ、代わりに宮岸良彰医師が新たな職員として参加している。また摂食障害対策推進協議会の顔ぶれも一部変化し、当地の大学で摂食障害の研究に従事している前川浩子氏をお迎えすることができた。

相談支援については昨年度の開設当初（令和4年10月から令和5年1月）と比較して相談件数がや

や減少しているものの、他県と比較して人口比で同等以上の水準は維持できている。協議会での協議内容を踏まえて令和5年10月1日よりメールでの相談受付を開始し、これに伴い10-11月は相談件数が増加傾向となっている。

治療支援においては、専門外来の設置と、この外来に繋げることを意識した入院診療体制の変更を行った。結果的に摂食障害診療に関わる医師が昨年度より減少しているが、そのぶん専門性を高め、診療件数も昨年度より増加している。

研修活動は、今年度は隣県の養護教諭からの依頼で研修会を実施したり、県内の養護教諭からの依頼で小規模の事例検討会を継続的に行うなどの新たな活動を行うことができた。ただし県内の教育関係者向けの大規模な活動が行えておらず、これは来年度への課題である。

普及啓発活動は、今年度は令和5年10月1日に実施した1周年記念講演会に注力し、これは午前の一般向けパート、午後の専門職向けパートが共に100名ずつ、合計で約200名の聴講者にご参加いただくことができた。この講演会の直後は相談支援の件数も倍増しており、県内の方々が摂食障害に高い関心を持っていると示された。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	内藤 暢茂	ときわ病院 医局長	摂食障害治療を専門的に 行なっている医師
委員	佐野 滋彦	金沢大学附属病院神経科精神科 助教	
同上	水上 喜美子	金沢大学附属病院神経科精神科 助教	心理の専門職
同上	沼田 直子	石川県南加賀保健福祉センター 所長	保健所
同上	角田 雅彦	石川県こころの健康センター 所長	精神保健福祉センター
同上	瀬戸 博邦	石川県教育委員会事務局保健体育課	教育関係者
同上	小泉 敏浩	石川県健康福祉部障害保健福祉課	県
同上	前川 浩子	金沢学院大学文学部 教授	摂食障害に関する有識者
同上	—	—	摂食障害患者
同上	—	—	摂食障害家族

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和5年 7月4日	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について 令和5年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について 現状における問題点の抽出 当事者および家族からの要望等について
第2回	令和6年 2月12日(予定)	令和5年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について 令和6年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について (書面審議)

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（公認心理師）3名による電話、メールでの相談を実施している。
- ・令和5年10月1日よりメールでの相談受付を開始した。
- ・電話相談窓口開設時間：9時～15時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・令和5年4月から11月の新規相談件数は115件だった。
- ・メール相談の開始後はメール相談が新規相談件数のうち半数を占める。
- ・石川県内居住者からの相談が7割以上を占める。
- ・患者の年齢は10代から20代が半数以上を占める。30代以上からの相談が増加しており、10～20代の占める割合は昨年度より低くなっている。
- ・昨年度は母親からの相談が最も多かったが、今年度は患者本人からの相談が最も多くなっている。
- ・摂食障害で医療機関を受診中の患者からの相談が最も多かった。
- ・相談の内容は受診に関する相談が最も多く、対応の内容も受診先に関する情報提供が多かった。
- ・昨年度10月の開設以来の相談件数の推移をみると、令和5年2月に急減し、本年度10月のメール相談開始以降はやや増加している。
- ・本年度10月の相談数が突出して多い。これは10月1日よりメール相談を開始したこと、同日に大規模講演会を実施したことが影響していると考えられる。

相談件数 期間:R5.4-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
115	131

地域(新規件数)n= 115 期:R5.4-R5.11

県内	県外	不明	計
90	18	7	115

相談者(新規件数)n= 115 期間:R5.4-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
45	3	31	4	3	3	1	7	2	16	115

相談対象者の年齢(新規件数)n= 115 平均年齢: SD= ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
2	21	33	21	8	2	3	1	10	14	115

相談対象者の性別(新規件数)n= 115 期:R5.4-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
73	6	0	22	14	115

相談対象者状態(新規件数)n= 115 期間:R5.4-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
40	21	42	24	2	2	3	0	0	3	0	1	1	2

相談対象者属性(新規件数)n= 115 期間:R5.4-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業中	無職	主婦				
4	6	12	7	22	11	1	4	35	13	115

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 115 期間:R5.4-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
33	10	24	11	2	21	14	115

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 115 期間:R5.4-R5.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
45	5	3	2	4	1	1	0	1	10	3	40

相談経路(延べ件数)n= 131 期間:R5.4-R5.11

電話	メール	面談	計
108	23	0	131

相談内容(延べ件数)n= 131 期間:R5.4-R5.11

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
51	25	18	3	7	74	24	11	0

対応内容(延べ件数)n= 131 期間:R5.4-R5.11

有り	紹介先				情報提供					助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関	有り	疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
54	34	15	30	11	72	28	58	0	8	46	31	7

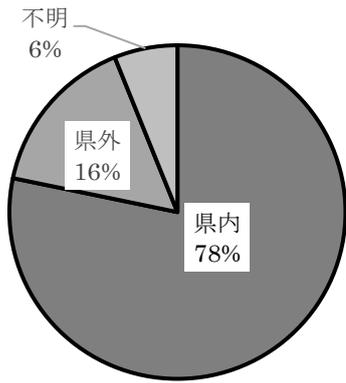


図4-1 当院の患者居住地域

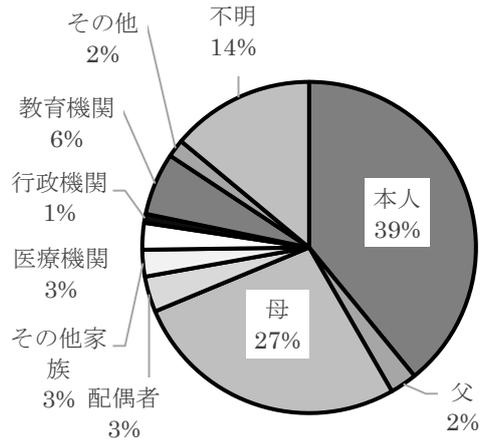


図4-2 当院の相談者

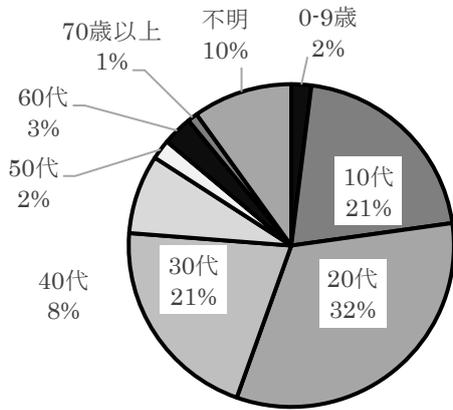


図4-3 当院の患者年齢

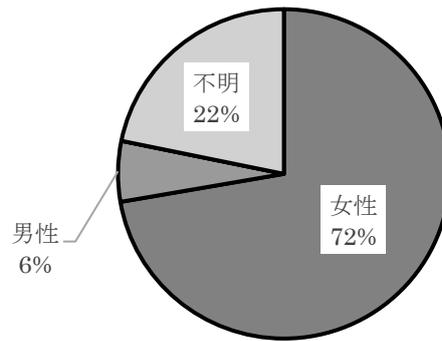


図4-4 当院の患者性別

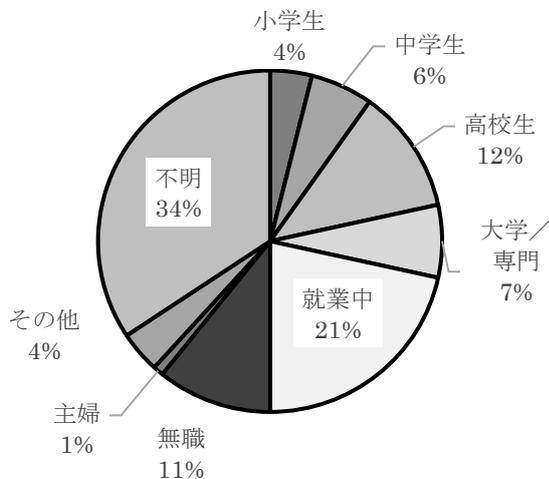


図4-5 当院の患者属性

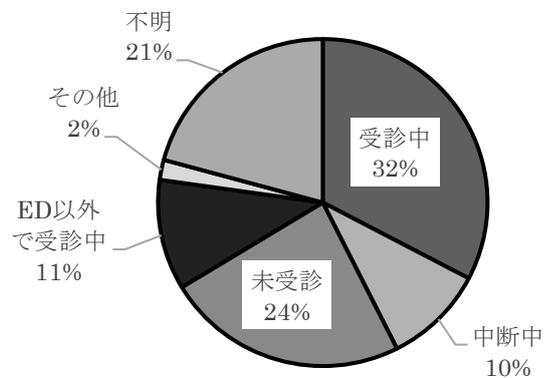


図4-6 当院の患者受診状況

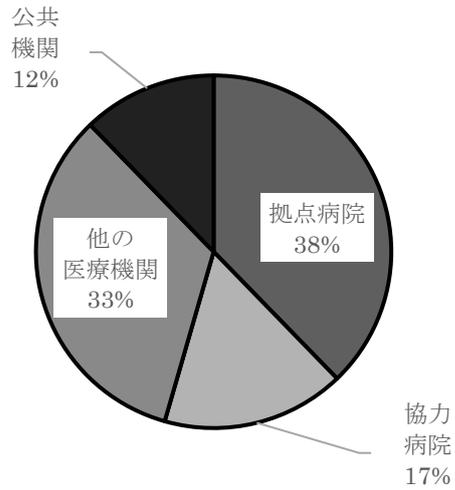


図4-7 紹介先内訳

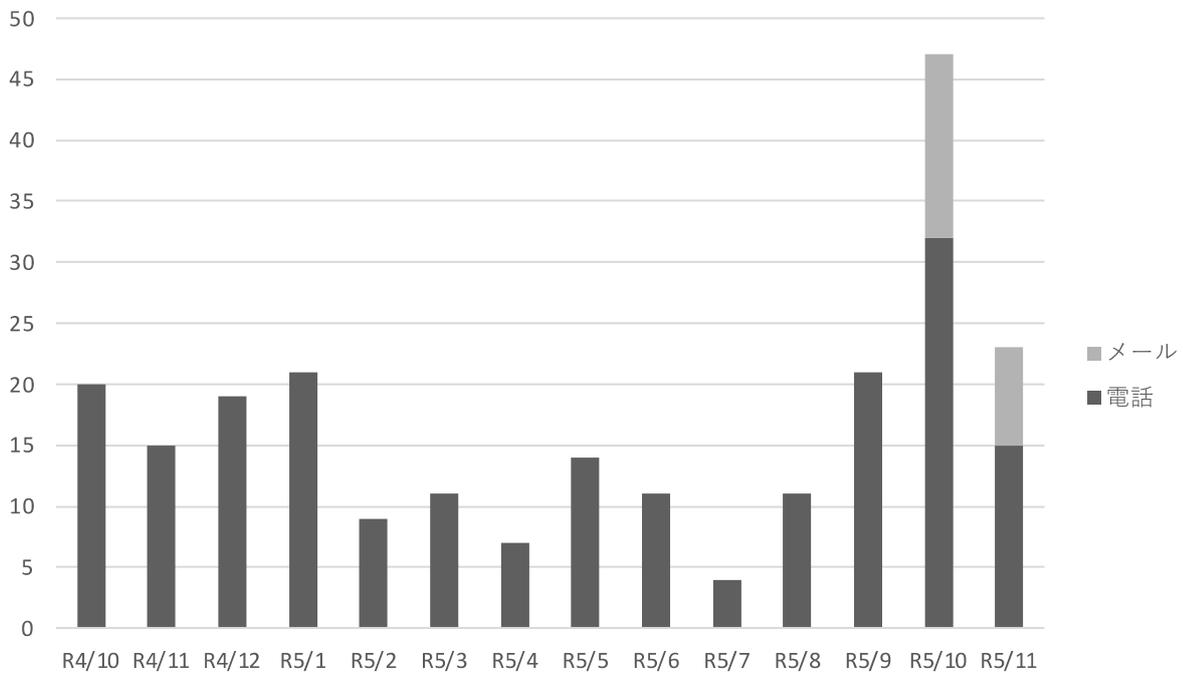


図4-8 開設以来の新規相談件数推移

5. 治療支援

治療体制・計画

- ・大学病院精神科として、医師、看護師、心理士、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種が協働して治療にあっている。
- ・本年度4月より摂食障害の専門外来を設置した。この外来では医師2名がCBT-EやMANTRA、ガイドドセルフヘルプ等の専門的治療を実施している。
- ・入院治療では指導医1名と後期研修医2名を1つの主治医チームとして、2チームによる輪番主治医制をとっている。昨年度よりも担当チームをあえて減らし、専門外来との連携をスムーズに行えるようにした。チームに所属する後期研修医は適宜年入れ替えを行い、すべての後期研修医が満遍なく摂食障害治療を経験できるよう配慮している。
- ・受診相談に対しては、患者の身体的な重症度（BMIを指標とする）や行動面の特徴を聴取した上で適切な受診先や入院の可否などをお伝えしている。
- ・連携医療機関を1から3に増やすことができたが、実際に連携した症例はまだ数が少ない。来年度は実質的な連携が開始できるよう働きかけていく。
- ・県内にある摂食障害患者の自助グループと連携し、相談者にこれを紹介している。

治療支援実施結果

- ・昨年度の同期間より初診患者数が増加している（20人→26人）。
- ・昨年度と比較し、10歳代および40歳代以上の患者の割合が増加している。
- ・昨年度と比較し、低体重が極めて重度な（BMIが11.5未満）患者と、低体重のない（BMIが18.5以上）患者の割合が増加している。

初診患者数（2023/4-11）

26人

初診患者数								
性別	女性 25人	男性 1人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	1人	12人	6人	2人	3人	2人	0人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	12人	5人	3人	2人	0人	2人	2人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	15人	2人	9人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	6人	3人	6人	2人	2人	1人	5人	1人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	16人	5人	0人	5人				

6. 研修

研修体制・計画

- ・現時点では受講側から依頼のあった研修会、講演会を実施することが主で、計画的な研修は実施できていない。
- ・今後は県内の医療関係者を対象とし、拠点病院からの提案で、各医療機関に出向いて摂食障害治療の研修を行なっていく。入院、外来ともに積極的に行う。

研修実施結果

- ・下記のごとく、現時点で5件の研修会を実施済みである。
- ・摂食障害の生徒や家族支援のケース検討会にてスーパーバイザーとして、養護教諭から依頼があった。
- ・養護教諭向けの研修会を実施後、研修に参加した受講者から電話相談があった。研修活動が相談につながった。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
2023/7/18	研修会	医療関係者	摂食障害支援拠点病院と摂食障害診療の標準化について	金沢リファーレ	約40名
2023/8/10	研修会	養護教諭	学校における摂食障害の児童生徒への支援について	速星公民館 (富山県富山市)	約45名
2023/10/27	研修会	医療関係者	浜松医科大学における摂食障害の治療と取り組み	TKPガーデンシティ Premium	約50名
2023/10/31	研修会	医療・保健・福祉・教育	子どもの心の問題に携わる関係者育成セミナーの一部として講演	石川県地場産業展示館	約100名
2023/11/20	事例検討会	養護教諭 (中学校)	摂食障害の生徒や家族支援へのケース検討	鶴来中学校 (石川県白山市)	約5名
2023/12/1	研修会	医療関係者	摂食障害の外来診療のポイント	TKPガーデンシティ Premium	約50名
2024/2/5 予定	事例検討会	養護教諭 (中学校)	摂食障害の生徒や家族支援へのケース検討	鶴来中学校 (石川県白山市)	約10名

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・石川県摂食障害支援拠点病院主催の講演会を企画し、拠点病院の活動内容を伝えていく。
- ・インターネット（関連機関の Web サイトとの連携）を利用した情報発信を促進する。
- ・摂食障害への理解促進を図るため、講演の依頼があれば引き受けていく。
- ・リーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、専門学校、高校、中学校、小学校に配布する。
- ・各種リーフレットを県内の精神科、小児科、婦人科に配布する。
- ・講演会で、石川県摂食障害支援拠点病院の名前が入ったボールペンを配布する。

普及啓発活動実施結果

- ・2023年10月1日に石川県摂食障害支援拠点病院 開設1周年記念講演会を開催した。講師に鈴木真理先生をお招きし、二部構成として、一般と専門家向けに講演会を実施した。
- ・今年度は、専門家向けの研修会を実施し、相談のきっかけにつながるが多かった。
- ・拠点病院のリーフレットを、昨年度配布した先に、再度送付した。また、リーフレットを送付して欲しいという依頼もあり、個別に対応をした。

講演会

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
2023/10/1	講演会	一般	ルッキズムから考える“摂食障害”	石川県立図書館	約100名
2023/10/1	講演会	専門職	摂食障害入門	石川県立図書館	約100名

リーフレット

「石川県摂食障害支援拠点病院」リーフレットを下記の配布先に、5部ずつ配布した。

配布日	配布先
2023/8	各保健福祉センター 4施設
2023/8	大学・短期大学 21校
2023/8	専修学校・各種学校 13校
2023/8	小児科を有する医療機関 126施設
2023/8	婦人科を有する医療機関 75施設
2023/8	精神科を有する医療機関 32施設
2023/8	県管轄の学校 58校（高校・特別支援学校など）
2023/8	市町村管轄の学校 287校（小学校・中学校など）

2023/8	国立・私立学校 12 校
2023/8	市町村教育委員会・教育事務所 24 ヶ所
2023/8	市町村福祉課・健康課 19 ヶ所
2023/8	各種相談機関 48 ヶ所
2023/8	県警察署、弁護士会 13 ヶ所

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・センター利用案内リーフレットを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、高校、中学校、小学校に配布する。
- ・各種リーフレットを県内の婦人科、小児科に配布する

研修実施結果

- ・県管轄の施設にリーフレットを配布予定で、石川県障害福祉課に協力を依頼した。
- ・婦人科、小児科へのリーフレット配布については、対象の選定、送付方法などを相談し協力を仰ぎ、配布の方向となった。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
2023/7/4	事務局	2023年度 第1回石川県摂食障害対策推進協議会 ・顔合わせ ・今年度計画について ・研修について ・リーフレット送付 ・家族会、自助グループについて	金沢大学附属病院
2024/2月 予定		2023 年度 第 2 回石川県摂食障害対策推進協議会 ・今年度活動の報告 ・次年度の活動計画	メール審議とする予定

9. その他の活動

実施体制・計画

- ・上記 3.から 9.に記載したもの以外の活動は、現時点では実施していない。
 - ・今後、以下のような活動を計画している。
- 家族心理教室の開催
- 患者家族（両親のみならず、きょうだい等も対象とする）への支援体制構築
- 外部機関と連携した事例検討会の実施
- 外部医療機関を対象とした、治療困難事例に対するのスーパーヴィジョン

10. 考察

この一年を振り返ってみて大きな動きは当院での治療体制の整備、メール相談の導入、一周年記念講演会の実施である。

治療体制の整備については、治療の専門性を高めることで他病院への治療研修の実施の準備を進めてきたという面がある。特に、低体重のない過食患者が増え、それに対する専門的な治療の経験も増えたことが今年度の収穫である。低体重のない患者であれば入院機能のない医療機関でも診療しやすいと思われるので、来年度は出張での治療研修を積極的に実施していきたい。

メール相談の導入は、少なくとも短期的には全体の相談数の底上げに寄与しており、これが今後も維持されるよう努めていく。メール相談では電話と違ってコーディネーターが返信内容を熟考する間があり、他スタッフと相談してのブラッシュアップも行えるので、結果的にコーディネーターの対応能力の向上にもつながるという手応えを得ている。

一周年記念講演は、日本摂食障害協会理事長の鈴木真理先生にご講演を賜ることができ、大変充実した内容となった。また参加者も当県としては多く、地域の摂食障害診療に対する関心やニーズの大きさを示唆するものであったと考えられる。

他の面ではよく言えば堅調、悪く言えば昨年度と同程度のことしかできていない。特に、普及啓発活動や研修、行政との連携については目指していたほどの発展が達成できていない。また、4.～9.に記載した部分以外で述べると、昨年度の本欄で課題として挙げていた入院・外来連携についても大きな進展はない。

このような結果となった原因について振り返ると「当院からの積極的な働きかけが不足していた」という一点に尽きる。昨年度は開設当初の新聞・TV等での宣伝効果が影響して教育や行政の側からの働きかけもあったが、今年度はもうその効果はなく、当院から教育・行政に積極的にアプローチしないと何も起きないということ、また研修会などは前年度から働きかけないと日程調整も困難であることを真剣に考えることができていなかった。入院連携についても、入院連携の約束を新たにとりつけた医療機関はとりつけたはいいものの当院と連携先のスタッフの研修等での交流が実施できておらず、そのため積極的な紹介がしづらく、実際に連携した症例が増えない…という現実がある。外来連携に至っては、この一年間はほぼ手付かずで経過してしまっている。

以上の反省を踏まえ、令和6年度は教育、行政、そして他医療機関に対し当院から積極的に働きかけ、連携を図っていく。令和6年能登半島地震が発災したことが大きなビハインドとなるが、結果を焦らず、他機関への働きかけを早めに実施・継続していく所存である。

8. 福井県摂食障がい支援拠点病院活動報告書

令和 5 年度

福井県摂食障がい支援拠点病院

Fukui Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和5年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福井県摂食障がい支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3	0776-61-3111

URL

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
大森 一郎	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	准教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士

2. 要旨

福井県摂食障がい支援拠点病院に福井大学医学部附属病院が指定され、附属病院神経科精神科が令和5年10月2日より運営している。

[協議会] 協議会を組織し、令和6年3月に開催予定。多職種の委員の意見を汲み、福井県下の摂食障害治療の現状を把握し、多方面から治療支援のよき方向に行くように計画していく。相談件数、患者数、治療期間、受診後の患者への対応方法などの件数を集計していく。

〔相談支援〕 摂食障害患者およびその家族や関係者への専門的な相談、治療及び回復支援をコーディネーター中心に、週3日（月・水・金曜日、9:00-16:30）、専用電話にて行っている。

〔治療支援〕 福井県下の摂食障がい治療・支援を積極的に行っている2つの医療機関を連携病院とし、その2病院を中心に助言、指導を随時行っていく計画である。各職種の立場での摂食障害治療・支援のほか、症例検討会も行う。

〔研修〕 福井県下の摂食障害治療・支援を行っている連携病院、治療協力病院、ならびに関係機関職員への継続的な治療研修を行う。令和6年3月には、県民公開講座を開催予定。

〔普及啓発活動〕 福井県下の摂食障害患者およびその家族、地域住民等への普及啓発を目指し、摂食障害についてわかりやすいリーフレットを作成、拠点病院のホームページ等を通じて普及啓発を試みる。

〔行政機関連携〕 福井県精神保健福祉センター、福井県下の各保健所、各市町、各福祉事務所、各公共職業安定所等の関係機関との連携・調整を行っていく予定である。

拠点病院として事業開始2か月しか経過していないが、県民、関係機関、医療機関等からの反響は大きいと感じている。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 教授	摂食障害治療を専門的に 行なっている医師
委員	眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教	
同上	村田 哲人	福井県立病院こころの医療センター センター長	
同上	杉坂 夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター センター長	
同上	白崎 俊一郎	福井県総合福祉相談所 所長	精神保健福祉センター
同上	久住 健一	福井健康福祉センター・医幹	保健所
同上	—	—	摂食障害患者
同上	—	—	摂食障害患者家族
同上	前川 昭彦	福井県健康福祉部 障がい福祉課 課長	県
同上	下川 弘美	福井地区保健管理担当職会議 代表	摂食障害対策に資する もの
同上	内田 浩二	福井県教育委員会・保健体育課 課長	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和6年 3月7日 (対面開催予定)	1. 福井県摂食障がい支援拠点病院設置事業について 2. 令和5年度 摂食障害支援拠点病院事業報告について 3. 令和6年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（公認心理師）による電話での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9時～16時30分（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

- ・開設から2か月間で、新規相談件数は18件だった。
- ・患者の年齢は10代から20代が6割以上を占める。
- ・摂食障害で医療機関を受診している患者は30%で、未受診か中断中の患者が67%を占めた。
- ・相談の内容は受診に関する相談が最も多く、対応の内容も受診先に関する情報提供が多かった。

相談件数 期間:R5.10-R5.11

新規相談件数	延べ相談件数
18	25

地域(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

県内	県外	不明	計
11	6	1	18

相談者(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
10	1	6	0	0	1	0	0	0	0	18

相談対象患者の年齢(新規件数)n= 18 平均年齢: 26.0 SD= 11.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	計
0	6	3	6	1	1	0	0	0	1	18

相談対象患者の性別(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
13	2	0	2	1	18

相談対象患者状態(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

やせ	食事制限	過食	代償行動					精神・行動症状						
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他	
7	5	10	6	2	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1

相談対象患者属性(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就業者	無職	主婦				
0	2	1	1	7	1	1	0	4	1	18

摂食障害での受診状況(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

受診中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	個別以外	計
5	5	6	0	0	1	1	18

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数)n= 18 期間:R5.10-R5.11

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明			
	医療	行政	教育								
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	17

相談経路(延べ件数)n= 25 期間:R5.10-R5.11

電話	メール	面談	計
25	0	0	25

相談内容(延べ件数)n= 25 期間:R5.10-R5.11

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
11	13	9	1	8	20	0	4	2

対応内容(延べ件数)n= 25 期間:R5.10-R5.11

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	問い合わせ対応	その他
	拠点病院	協力病院	他の医療機関	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資本			
18	10	5	3	0	12	5	10	0	0	14	0	4

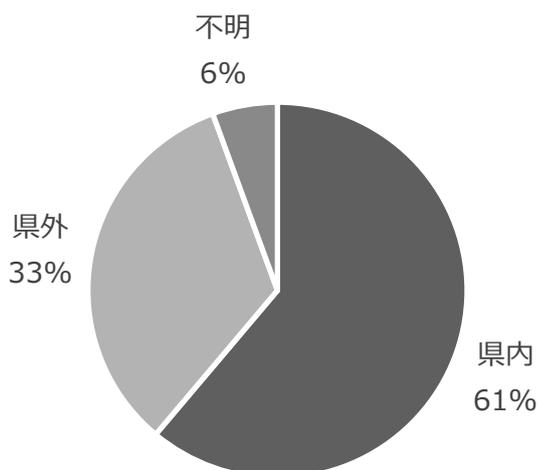


図1 相談者の居住地

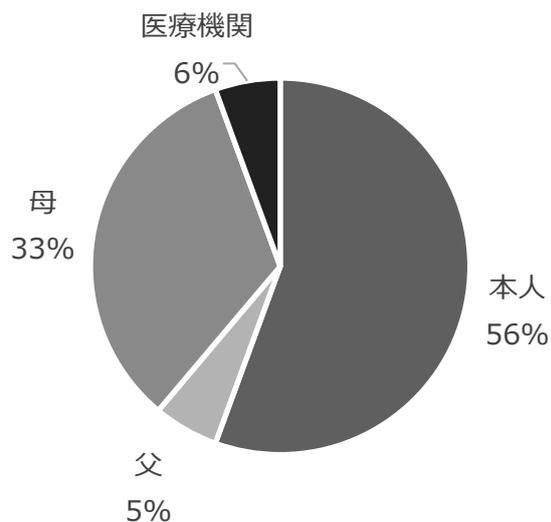


図2 相談者

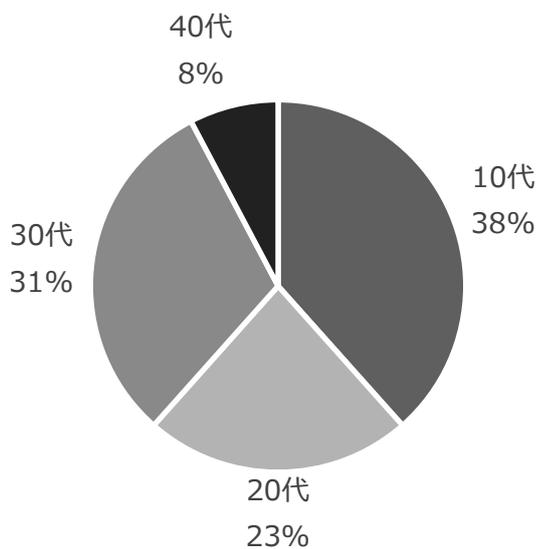


図3 患者の年齢

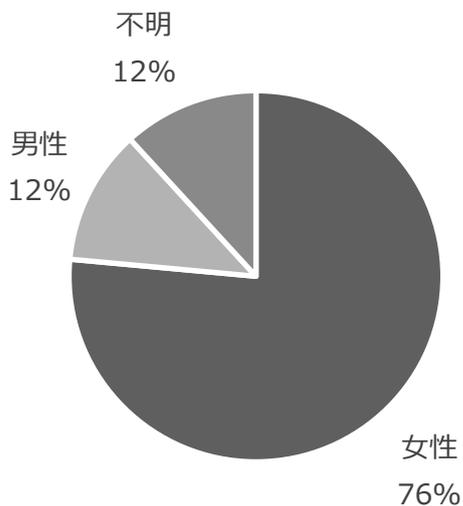


図4 患者の性別

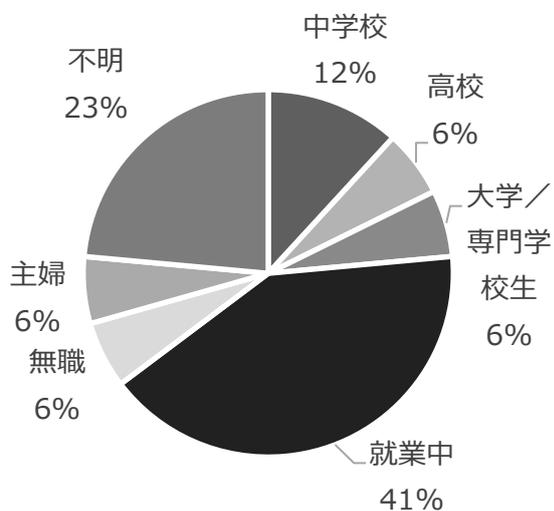


図5 患者の属性

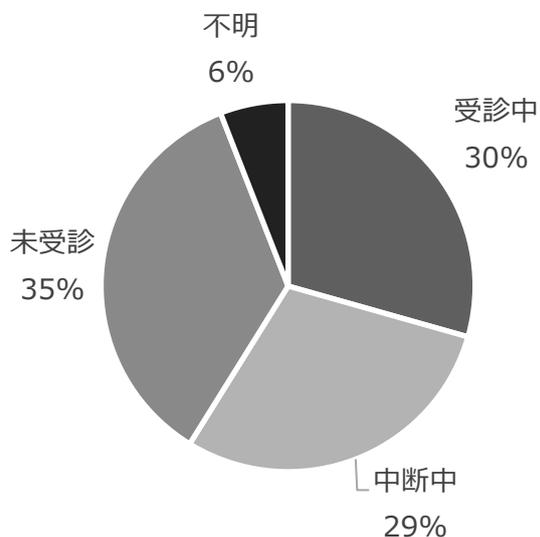


図6 患者の摂食障がいでの受診状況

5. 治療支援

治療体制・計画

- ・拠点病院は、大学医学部附属病院神経科精神科として、医師、心理士、看護師、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種で連携しながら治療支援している。
- ・外来初診後、多くの方が入院治療となり、退院後は入院主治医が継続して外来通院治療に継続している。
- ・コーディネーターの受診相談時に、身体的な重症度（BMI、標準体重と比較した現状を指標とする）のほか、食行動などの行動面を確認し、適切な受診先や入院の要否などをお伝えしている。
- ・福井県下の連携医療機関2か所に、拠点病院で治療支援の手法を伝え、支援機関を増やしていく。
- ・拠点病院の小児科、子どものこころ診療部との連携、福井県下の精神科や小児科の医療機関との連携を広げていく予定。

治療支援実施結果

- ・拠点病院は、令和5年10月より事業を開始され、初診患者数は明らかに増えている。
- ・拠点病院指定の影響を評価するため、令和5年度の集計を指定前の6か月間（4月～9月）と指定後の2か月間（10月～11月）に分割した。
- ・指定前後で比較を行うと、指定後の方が月あたりの初診患者数・入院患者数が多く、40歳以上の中年層の初診が増加し、ARFID診断も増加している。しかしながら、開設2か月間のデータであり、今後の流れは不明である。

支援拠点病院

初診患者数

		2023年 4月～9月 (6か月間)	2023年 10月～11月 (2か月間)
初診患者数		10	7
性別 (F/M)		F10 / M0	F6 / M1
年齢別	0-9歳	0	1
	10-19歳	8	4
	20-29歳	2	0
	30-39歳	0	0
	40-49歳	0	2
	50歳-	0	0
	平均	15.1+/-5.1	22.4+/-14.4
診断別	ANR (神経性無食欲症 摂食制限型)	7	2
	ANBP (神経性無食欲症 過食・排出型)	1	2
	BN (神経性過食症)	0	0
	BED (過食性障害)	0	0
	ARFID (回避・制限性食物摂取症)	1	3

		2023年 4月~9月 (6か月間)	2023年 10月~11月 (2か月間)
	その他	1	0
BMI	8未満	0	0
	8台	0	0
	9台	0	0
	10台	1	0
	11台	0	1
	12台	1	0
	13台	4	2
	14台	2	2
	15台	2	1
	16台	0	0
	17台	0	1
	18台	0	0
	19台	0	0
	20台	0	0
	21台	0	0
	22台	0	0
	23台	0	0
	24台	0	0
	25台	0	0
25以上	0	0	
	平均	13.7+/-1.4	14.2+/-1.7
治療形態	外来のみ	3	2
	入院のみ	0	4
	外来と入院の両方	7	1
治療経過	現在も治療中	9	7
	治療中断	1	0
	治療終了	0	0
	他院へ紹介	0	0

6. 研修

研修体制・計画

- ・連携病院の医療機関に対して治療支援の助言会を多職種で行う。

研修実施結果

- ・連携病院の医療機関2か所に対して、治療支援の助言会を多職種で実施予定としている。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
令和6年 2月19日 (対面開催予定)	研修会	医療関係者	「摂食障害の診断と対応 -総論-	福井厚生病院 対面	
令和6年 3月6日 (対面開催予定)	研修会	医療関係者	「摂食障害の診断と対応 -総論-	福井県立病院 対面	

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・拠点病院の Web サイトを作中。
- ・拠点病院案内のリーフレットを作成。
- ・インターネットを利用した情報発信を促進する予定。関連機関の Web サイトとの連携（摂食障害全国支援センター、各摂食障害支援拠点病院、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会等）
- ・摂食障害の啓発活動、拠点病院の事業内容の周知を目的に、県民公開講座を開催。
- ・リーフレットを福井県下の医療機関（精神科、小児科、婦人科等）、精神保健福祉センター、福井県管轄の保健担当者、各教育関係機関（大学、専門学校、高校、中学校、小学校）に配布。

普及啓発活動実施結果

- ・拠点病院の Web サイトが完成間近で、令和6年1月19日に公開。
URL : <https://fukui-edsupport.jp/>
- ・拠点病院のリーフレットが完成間近し、令和6年1月下旬に配布予定。
- ・拠点病院設置・事業開始となった令和5年度は、メディアからの取材依頼が多く、メディアを通して、相談のきっかけにつながるが多かった。
- ・県民公開講座を令和6年3月7日に開催予定。

講演会

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
令和6年3月7日 (対面開催予定)	講演会	当事者 家族 一般県民 (医療関係者)	(仮) 摂食障がいを 知る	福井県生活学習館 ユウ・アイふくい	

メディア関係

開催日 (発行日、オンエア)	メディア	内容
2023/9/26 オンライン	福井新聞	「全国6カ所目「摂食障害」の専門窓口、10月開設」
2023/10/2 オンエア、オンライン	NHK 福井	「摂食障害の支援センターを設立」
2023/10/3 発行	福井新聞	「福井大病院 専用窓口を開設」
2023/10/3 発行	中日新聞 福井発	「摂食障害支援「底上げを」 拠点の福井大病院始動」
2023/10/4 オンエア	福井テレビ	「福井大学病院が摂食障害の支援拠点に 全国6番目の指定」
2023/10/28 オンライン	読売新聞	「摂食障害 早期回復へ拠点」
2023/10/31 オンエア	福井放送	「摂食障がい拠点病院、過食症」

8. 行政機関との連携

計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点病院協議会を開催。 ・ 連携病院への治療支援の助言会。 ・ 県民公開講座を開催。 ・ 拠点病院 Web サイトやリーフレットの周知。

実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県管轄の施設にリーフレットを令和6年1月下旬に配布予定。
--

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
随時	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画 ・ 福井県摂食障がい対策推進協議会開催について ・ 令和5年度の実施内容の報告について ・ 令和6年度の実施計画について 	福井大学医学部 附属病院 および メール審議

9. その他の活動

実施体制・計画

- ・ 他の拠点病院開催の研修会に、積極的に参加し、スキルアップに心がけている。

10. 考察

福井県摂食障がい支援拠点病院は、全国で6番目の拠点病院として令和5年10月2日より福井大学医学部附属病院にて事業を開始した。福井県下の医療機関や県民の摂食障害の治療支援に対する期待は大きいと感じている。事業開始の2ヶ月間で、拠点病院における摂食障害患者の入院受け入れ人数の許容範囲を超えている印象でもあり、需要と供給のバランスが崩れていると考えられる。今後、拠点病院スタッフのスキルアップ、摂食障害に携わる多職種での人数の増加、拠点病院医師から連携病院での常勤医師への異動、連携病院での多職種による治療支援の助言会の開催を重ね、医療スタッフの充実を図っていくべきと考えられる。さらに、拠点病院のWebサイトの開設、リーフレット作成・配布、県民公開講座の開催等で、摂食障害の啓発活動をさらに推進し、摂食障害の早期発見、早期治療につなげていきたい。

9. 令和5年度の活動成果と課題、提言

摂食障害全国支援センター長 関口敦

はじめに

我が国における、摂食障害の医療体制の問題点は患者の相談・治療・支援につながる窓口が明確でないこと、専門的治療に至る経路が確立していないこと、専門的治療や支援の受け皿が少ないことである。平成26年度から厚生労働省による摂食障害治療支援センター設置運営事業がスタートした。本事業は我が国の摂食障害患者およびその医療・支援の現状を改善する契機になることが期待される。

I. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の概要

摂食障害支援拠点病院は精神科、心療内科、小児科外来を有する救急医療体制が整備された総合病院に設置され、その役割は、①摂食障害に関する専門的な相談支援、②急性期における摂食障害患者への適切な対応、③医療機関等への助言・指導、④関係機関等との連携・調整、⑤摂食障害患者やその家族、地域住民等への普及啓発活動とされている。支援拠点病院を統括する全国拠点機関〔摂食障害全国支援センター（全国支援センター）〕の役割は、①全国摂食障害対策連絡協議会（協議会）開催、②支援拠点病院との連携、③情報ウェブサイトの運営、④相談事例の収集と解析、⑤研究や研修の実施である。

II. 令和5年度までの事業の経過

平成27年2月5日に摂食障害全国基幹センターが国立精神・神経医療研究センター（NCNP）に指定された。平成27年度は10月1日に宮城県（東北大学病院心療内科）に、10月21日に静岡県（浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科）に、12月24日に福岡県（九州大学病院心療内科）に摂食障害治療支援センターが指定され、全国基幹センターと3箇所の治療支援センターでの活動が開始された。平成29年10月19日には千葉県摂食障害治療支援センター（国立国際医療研究センター国府台病院心療内科）が開設され治療支援センターは4カ所になった。平成29年度末には、平成26年度から29年度までのモデル事業の取り組みをまとめて報告書を作成した。平成30年度からの第7次医療計画では、向こう5年以内に摂食障害の都道府県拠点機能を担う医療機関（拠点病院）を明記することが定められ、本事業の取り組みが参考にされることと記載された。モデル事業としては平成29年度で終了した。平成30年度からは、全国基幹センターはNCNPへの継続的な指定が決まり、治療支援センターは、地方自治体向け事業として継続されることとなった。

令和3年に、てんかん地域診療連携体制整備事業と名称を合わせることとなり、「摂食障害全国基幹センター」は「摂食障害全国支援センター」へ、「摂食障害治療支援センター」は「摂食障害支援拠点病院」へ名称を変えた。また、初代センター長の安藤哲也の退官に伴い、2代目のセンター長に関口敦が就任し、井野敬子を副センター長に指名した。本事業のミッションとして、新たな支援拠点病院の指定、摂食障害入院医療管理加算が算定できる病院の増加が課された。支援拠点病院新規指定を目指した設置準備研修会や、摂食障害治療・支援者のすそ野を広げるとともに摂食障害専門治療施設の支援を目指して、外来/入院治療者向けの研修会を開催した。これら事業を続ける中で、令和4年10月1日に金沢大学附属病院神経科精神科が石川県摂食障害支援拠点病院に、令和5年10月1日に福井大学医学部附属病院が福井県摂食障がい支援拠点病院に2年連続で北陸地方の支援拠点病院として指定された。福井県は指定前から

2年半にわたり支援を行っており、これら支援体制のノウハウを定式化した『支援拠点病院設置準備サポート』として、新規指定前後の全国支援センターの支援方略も明確できた。

普及啓発活動として、一般社団法人日本摂食障害協会とダブル主催で『世界摂食障害アクションデイ』を令和3年より例年企画として開催している。また、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して、全国を対象とした電話相談事業、摂食障害『相談ほっとライン』を運営している。開設当初より増枠し、全国の相談ニーズに応えている。

Ⅲ. 事業の成果、課題、提言

1. 事業の成果

1-1. 新規摂食障害支援拠点病院の指定

- 福井県摂食障がい支援拠点病院が新規指定され、北陸地方の摂食障害診療体制が強化された。
- 福井県摂食障がい支援拠点病院指定前の約2年間にわたり、全国支援センター及び既存の支援拠点病院から医療機関及び自治体双方に対して設置準備支援を継続しており、新規支援拠点病院設置準備サポートのノウハウを蓄積することができた。

1-2. 診療連携モデルの提案・設置準備サポートの定式化

- 静岡県における摂食障害診療連携体制を好事例とした『摂食障害診療連携モデル』として提案した。
- 上記の診療連携モデルは、人口400万人以下で1県1医大（医学部）の体制をとる自治体には広く適用できるモデルであり、大学関係者や自治体関係者に広く周知した。
- 新規支援拠点病院設置前後の支援ノウハウを蓄積し、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」として定式化し、全国の医療機関や自治体に向けた支援活動を展開した。

1-3. 普及啓発活動の強化

- 摂食障害入院医療管理加算の要件緩和に伴い、算定医療機関における摂食障害の入院治療の質を担保するために、全国の医療機関を対象とした摂食障害入院治療研修会を開催した。
- 小児科における摂食障害の支援者支援のニーズが強いことが確認され、日本摂食障害学会や厚生労働省研究班と連携して、小児科診療従事者を対象とした研修会の開催準備を進めた。
- 世界摂食障害アクションデイ2023において、当該事業について講演を行い、摂食障害に関する正しい知識の普及と啓発を図った。各種メディアとの適切な付き合い方を模索し、情報ウェブサイトの運営や記事の更新、動画作成プロジェクトの開始を通じて、摂食障害の認知度向上と理解促進に努めた。

2. 事業の課題

2-1. 新規支援拠点病院指定への支援

- 静岡の好事例の移植により、石川県に続き福井県にも摂食障がい支援拠点病院の指定が達成され、静岡方式は1県1医大体制の自治体に適していることが改めて実証された。一方で、大都市圏での拠点病院（東京、大阪、愛知、北海道など）の新規指定の動きは限定的であったが、東京都が新規支援拠点病院の指定に向けた委託授業を開始しており、医療資源調査を通じて大都市圏での診療連携モデルの提案を目指している。東京都での支援拠点病院の指定および運営の好事例が生まれることにより、大都市圏での新

規史枝帝に向けた強力な後押しが期待できる。

- 『支援拠点病院設置準備サポート』の展開により、10 県を超えるの医療機関や自治体関係者との打ち合わせやヒアリングを実施しているが、新規指定に向けた具体的な動きは限定的である。新規指定へのボトルネックは、①医療機関/自治体が摂食障害支援ニーズを把握していない、②摂食障害対策の優先度を上げられないために予算確保が難しい、③現状の摂食障害診療体制に問題を感じていない、④医療機関側に摂食障害診療を実施する余裕がない、ことに大別されている。支援拠点病院の設置による効果を明確にし、これら障壁に対して、地域性を加味した対策を提案し、より具体的な指定の動きを支援していく必要がある。
- 全国支援センターとして、支援拠点病院設置準備サポートの展開を加速させることができ、厚生労働省、日本摂食障害学会、日本摂食障害協会との連携も深め、オールジャパン体制を構築して、各々の立場で可能な限りのサポートをできる体制を整える必要がある。

2-2. 拠点病院/入院治療施設への負担の分散

- 拠点病院を含む摂食障害の入院治療を担当している医療機関において、退院後の外来治療を担える医療機関が不足しているために、外来患者数が蓄積している現状が報告されている。
- 全国支援センターで開発した外来治療研修は、初期診療から専門施設に紹介するまでの摂食障害診療に重きを置いた研修であったことから、外来のみでの継続診療、入院治療を終えた回復期の診療を担える施設の拡充には至っていなかった。
- 既存の外来治療研修に、外来のみでの継続診療や入院治療を終えたフェーズの外来診療を行うノウハウを伝える講義を追加することにより、拠点病院/入院治療施設に集中しがちな外来患者を紹介できる診療所を増やしていく必要がある。

2-3. 小児期治療体制の構築

- 15 歳未満の摂食障害患者の診療は小児科と児童・思春期精神科が担っているが、児童・思春期精神科医の数的制約から現実的には小児科医が担う役割が大きい。
- 成人例を診療している精神科医が、児童・思春期精神科のトレーニングを受けることを促すことによる小児期の摂食障害診療の受け皿となることが期待されるが、児童・思春期精神科医は摂食障害以外にも発達障害や虐待被害児の対応などニーズが高まっている。
- 児童・思春期精神科の外来は、初診が数か月待ちの状況が全国的に続いており、低体重で身体的に重症度の高い神経性やせ症や会費・制限型食物回避症の患者を数か月待ついただくことはできず、必然的に小児科医が対応せざるを得ない状況が続いている。小児科における摂食障害の支援者支援のニーズが強いことが確認され、日本摂食障害学会や厚生労働省研究班と連携して、小児科診療従事者を対象とした研修会の開催が必須である。

3. 今後の提言

3-1. 大都市圏での診療連携モデルの提案

- 大都市圏は医療資源が量的には豊富であることから傍観者効果が生じてしまい、各医療施設が当事者意識をもって摂食障害診療に携わる動機が上がりにくい傾向が懸念される。このような大都市圏特有の課題を勘案して、医療資源の調査を通じて診療連携ネットワークの構築を提言する。
- 具体的には、既に東京都の委託事業として都内の医療資源調査が進行しており、調査結果を踏まえて各医療施設の得意分野を生かした診療連携ネットワークの構築が望ましい。摂食障害支援拠点病院を基軸とし、大学医局の枠を超えた診療連携ネットワークが必須である。
- これら大都市圏内の医療機関間での診療連携ネットワークを構築し、患者のスムーズな紹介や情報共有を促進したい。

3-2. 拠点病院運営の効果検証

- 既存の拠点病院や新規拠点病院候補となる医療機関の運営実態の調査および、拠点病院指定による効果検証の実施を提言する。
- 静岡の好事例モデルの展開が進んでおり、静岡摂食障害支援拠点病院での有効性を示すデータ（初診時の罹病期間の短縮、初診時 BMI の上昇、入院期間の短縮、入院患者数の増加、退院時 BMI の増加など）は集まっている。更に、静岡モデルから推計される年間入院患者数（人口 100 万人に 50 例の入院治療ニーズ、うち 20 例の超低体重治療ニーズ）の推計が提示できるようになった。
- 静岡モデルの有効性が、新規拠点病院や好事例モデルを導入している拠点病院においても再現されているかの検証が必要である。

3-3. 小児期治療を担う精神科施設と小児科施設の支援

- 小児期の摂食障害患者に対する適切な治療提供を確保するため、精神科施設と小児科施設の支援の強化を提案する。
- 成人例を診療する精神科施設は多数存在するが、小児期の摂食障害診療を担う児童・思春期精神科医の育成は立ち遅れている。児童・思春期精神科医の育成は他の事業でも取り組んでいることから、本事業では小児科施設の医療者の支援と、小児科施設と精神科施設との連携体制を構築し、スムーズな患者紹介や情報共有を実現することを目指すことが先決であると考えられる。
- 具体的には、小児期の摂食障害治療に特化した治療研修プログラムを開発する。まずは、児童・思春期精神科に比して圧倒的に施設数が多い小児科の医療施設の医師/看護師を対象とした研修会を行う。これにより、小児科施設の専門知識と技術の向上を図る。

10. 令和5年度全国摂食障害対策連絡協議会委員

氏名		所属・役職
関口 敦	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 心身症研究室長
井野 敬子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 ストレス研究室長
小原 千郷	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 科研費研究員
船場 美佐子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 科研費研究員
中野 稚子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 テクニカルフェロー
井上 智子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 テクニカルフェロー
廣方 美沙	全国支援センター (相談ほっとライン)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)
福土 審	宮城県支援拠点病院	東北大学大学院医学系研究科行動医学 教授、 東北大学病院心療内科 科長
佐藤 康弘	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科 講師
金澤 素	宮城県支援拠点病院	東北大学大学院医学系研究科心療内科学 准教授、 東北大学病院心療内科/副科長
阿部 麻衣	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科 コーディネーター
河合 啓介	千葉県支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 診療科長
田村 奈穂	千葉県支援拠点病院	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科 医師
竹林 淳和	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 講師
磯部 智代	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 臨床心理士
村越 優	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 看護師
高倉 修	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 講師
波多 伴和	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 助教
権藤 元治	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 助教
北島 智子	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 保健師
菊知 充	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科
内藤 暢茂	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科
佐野 滋彦	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科
水上 喜美子	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科
小坂 浩隆	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
大森 一郎	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
上野 幹二	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
眞田 陸	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
石橋 知明	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
幅田 加以瑛	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科
中川 良昭	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
田中 裕記	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課

氏名		所属・役職
藤井 裕美子	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
関 悠太	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
土屋 達郎	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
山口 昂久	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
作田 亮一	専門治療医師	獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長
吉内 一浩	専門治療医師	東京大学医学部附属病院心療内科 准教授
三井 信幸	専門治療医師	北海道大学病院精神科神経科 講師、病棟医長
山内 常生	専門治療医師	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学 講師
永田 利彦	専門治療医師	日本摂食障害学会 理事長、なんばながたメンタルクリニック
鈴木 眞理	摂食障害対策に資するもの	日本摂食障害協会 常任理事、 跡見学園女子大学・大学院心理学部臨床心理学科 特任教授

11. 令和5年度摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員

摂食障害全国支援センター

氏名	所属	役職
関口 敦 (事務局実施担当者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
井野 敬子 (事務局実施責任者、副センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
小原 千郷 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
船場 美佐子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究員
中野 稚子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	テクニカルフェロー
國重 寛子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費研究補助員
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科(委託)	心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立国際医療研究センター 国府台病院心療内科 相談ほっとライン(委託)	看護師・保健師

宮城県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
福土 審	東北大学大学院医学系研究科心療内科学/ 東北大学病院心療内科	教授/科長
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	講師
金澤 素	東北大学大学院医学系研究科心療内科学/ 東北大学病院心療内科	准教授/副科長
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	診療科長
田村 奈穂	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
石戸 淳一	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	医師
長田 美央	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	レジデント
中谷 有希	国立国際医療研究センター国府台病院心療内科	心理療法士
山本 ゆりえ	国立国際医療研究センター国府台病院薬剤部	薬剤師
岩崎 心美	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
大家 聡樹	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター、事務助手
池田 知寿子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
前川 知香	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
岩崎 心美	看護師、保健師、臨床心理士、公認心理師
池田 知寿子	看護師、公認心理師
前川 知香	看護師、公認心理師

静岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

福岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	講師
波刃 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

石川県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
堂本 彩未	公認心理師 臨床心理士
渡邊 恵里奈	公認心理師 臨床心理士
多田 浩昌	公認心理師 臨床心理士

福井県摂食障害がい支援拠点病院

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
大森 一郎	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	准教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士

12. 摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧

拠点機関名	設置施設	郵便番号	住所	電話番号
摂食障害 全国支援センター	国立精神・神経医療研 究センター	187-8553	東京都小平市小川東 4-1-1	042-341-2711(代)
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院心療内 科	980-8574	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1	022-717-7328
静岡県摂食障害 支援拠点病院	浜松医科大学医学部 附属病院 精神科神 経科	431-3192	静岡県浜松市東区 半田山 1-20-1	053-435-2635
千葉県摂食障害 支援拠点病院	国立国際医療研究セ ンター 国府台病院心療内科	272-8516	千葉縣市川市国府台 1-7-1	047-372-4792
石川県摂食障害 支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827
福井県摂食障がい 支援拠点病院	福井大学医学部附属 病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺町 松岡下合月 23-3	0776-61-3111
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院心療内 科	812-8582	福岡県福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

摂食障害全国支援センター

摂食障害全国支援センター：<http://www.ncnp.go.jp/nimh/shinshin/edcenter/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)：<http://www.edportal.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)：<http://www.edportal.jp/pro/>

相談ほっとライン：<https://sessyoku-hotline.jp/>

宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

静岡県摂食障害支援拠点病院：<http://www.shizuoka-ed.jp/>

千葉県摂食障害支援拠点病院：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>